

第2 結果の概要

1 孤独の状況

(1) 本調査における孤独感の把握方法

孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では、以下の2種類の質問により孤独感を把握した。

①直接質問

以下のとおり「孤独」について、直接的に質問する内容となっている。

あなたはどの程度、孤独（ひとりぼっちと感じる精神的な状態）であると感じることがありますか。

1 決してない	4 時々ある
2 ほとんどない	5 しばしばある・常にある
3 たまにある	

②間接質問

間接質問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)のラッセル氏が、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA 孤独感尺度」¹の日本語版²の3項目短縮版³に基づくもので、以下の3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている。設問に「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査ではこれを間接質問と呼んでいる。

今回の調査結果の取りまとめに当たっては、3つの設問それぞれへの回答について、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12点」(常にある)、「7～9点」(時々ある)、「4～6点」(ほとんどない)、「3点」(決してない)の4区分に整理した。

あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

あなたは、自分は他の人たちから孤立（社会とのつながりや助けのない又は少ない状態）していると感じることはありますか。

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

1 Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.

2 舛田ゆづり,田高悦子,他:高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度(第3版)の開発とその信頼性・妥当性の検討,日本地域看護学会誌.15(1):25-32,2012.

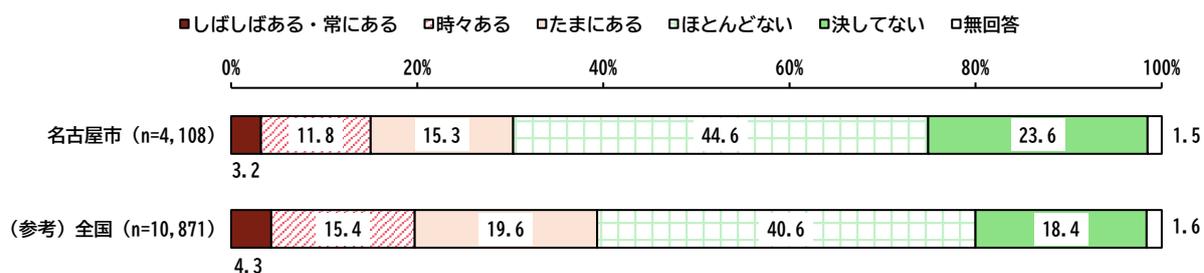
3 Arimoto A & Tadaka E:Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers. BMC Women's Health. 2019;19:105.

(2) 孤独の状況(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は 3.2%、「時々ある」が 11.8%、「たまにある」が 15.3%となっている。一方、孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は 44.6%、「決してない」が 23.6%となっている。

全国調査と比較すると、「しばしばある・常にある」、「時々ある」及び「たまにある」の割合が低くなっている。

【図 1-1】孤独の状況(直接質問)(名古屋市、全国)

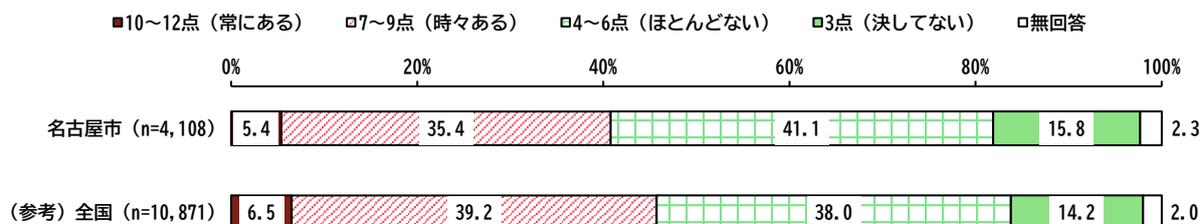


(3) 孤独の状況(間接質問)

「UCLA 孤独感尺度」に基づく孤独感スコアでは、「10~12点(常にある)」という人の割合は 5.4%、「7~9点(時々ある)」が 35.4%、「4~6点(ほとんどない)」が 41.1%、「3点(決してない)」が 15.8%となっている。

全国調査と比較すると、「常にある」及び「時々ある」の割合が低くなっている。

【図 1-2】孤独の状況(間接質問)(名古屋市、全国)

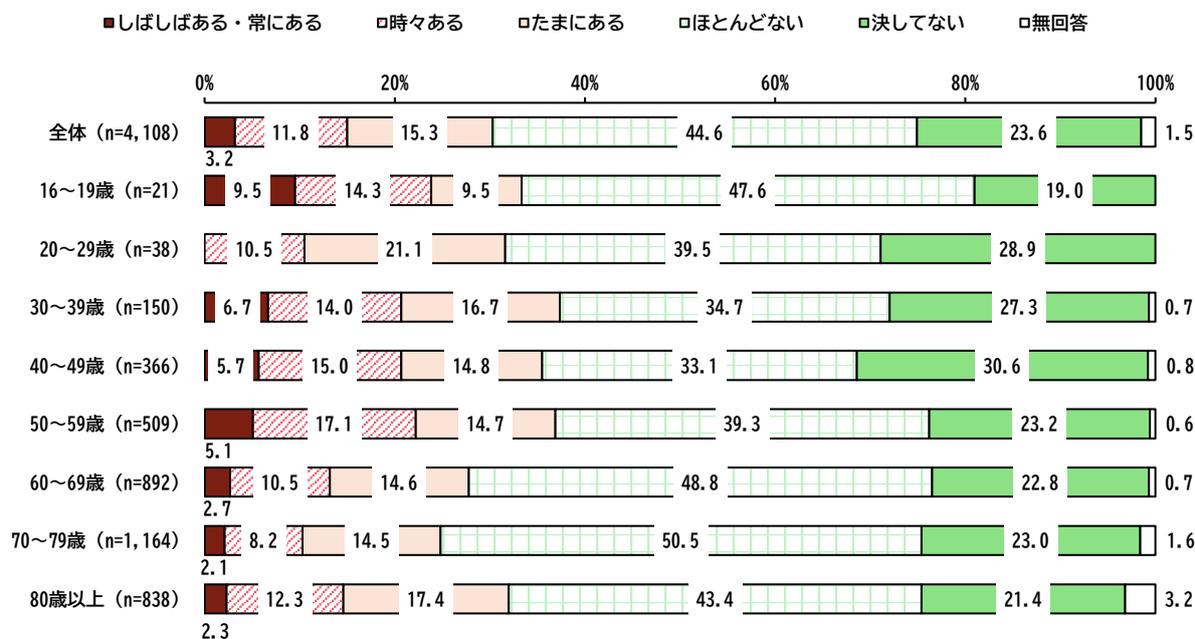


次ページ以降、「(参考)全国」の記載のない図表は、名古屋市の結果であることを表す。

(4) 年齢階級別孤独感(直接質問)

孤独感を年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、16～19歳で最も高くなっており、30歳代から70歳代までは年齢が高くなるにつれて低くなっているが、80歳以上で再び高くなっている。

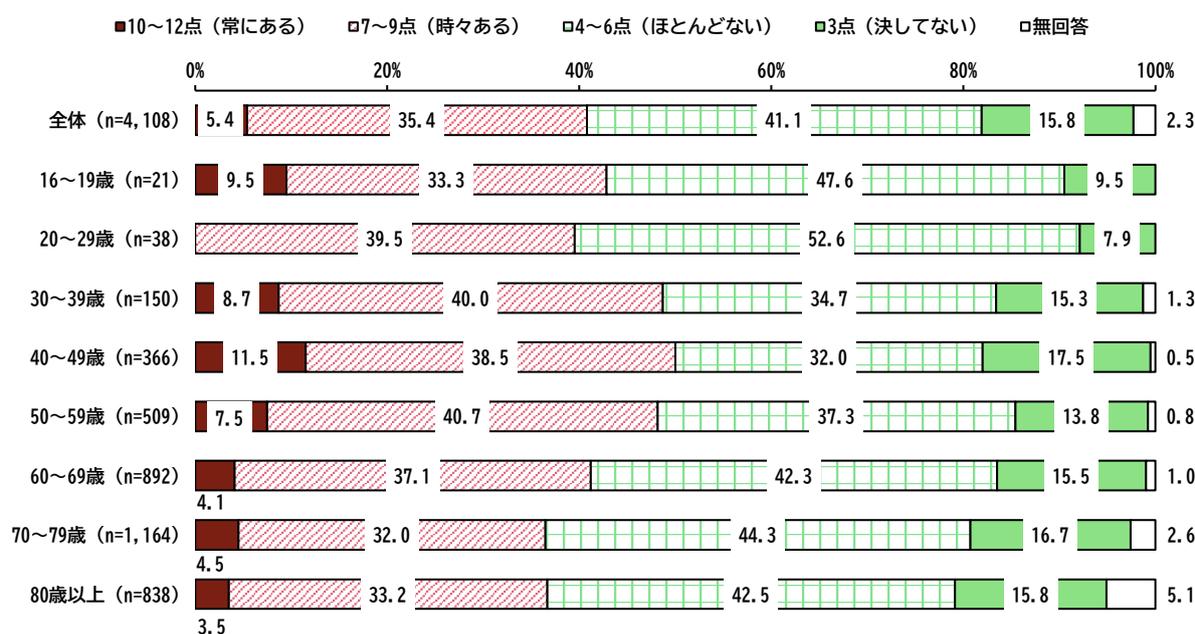
【図1-3】年齢階級別孤独感(直接質問)



(5) 年齢階級別孤独感(間接質問)

孤独感スコアを年齢階級別にみると、スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、16～19歳、30歳代から50歳代で高くなっている。

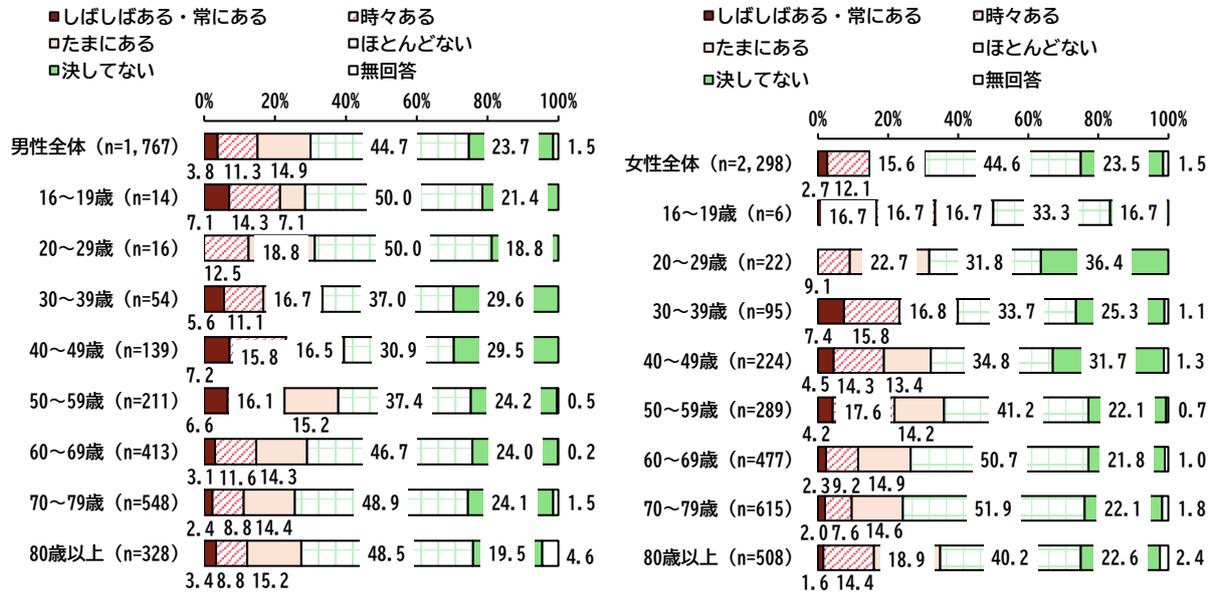
【図1-4】年齢階級別孤独感(間接質問)



(6) 男女、年齢階級別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が3.8%、女性が2.7%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男女ともに30歳代から50歳代で高くなっている。

【図1-5】男女、年齢階級別孤独感(直接質問)

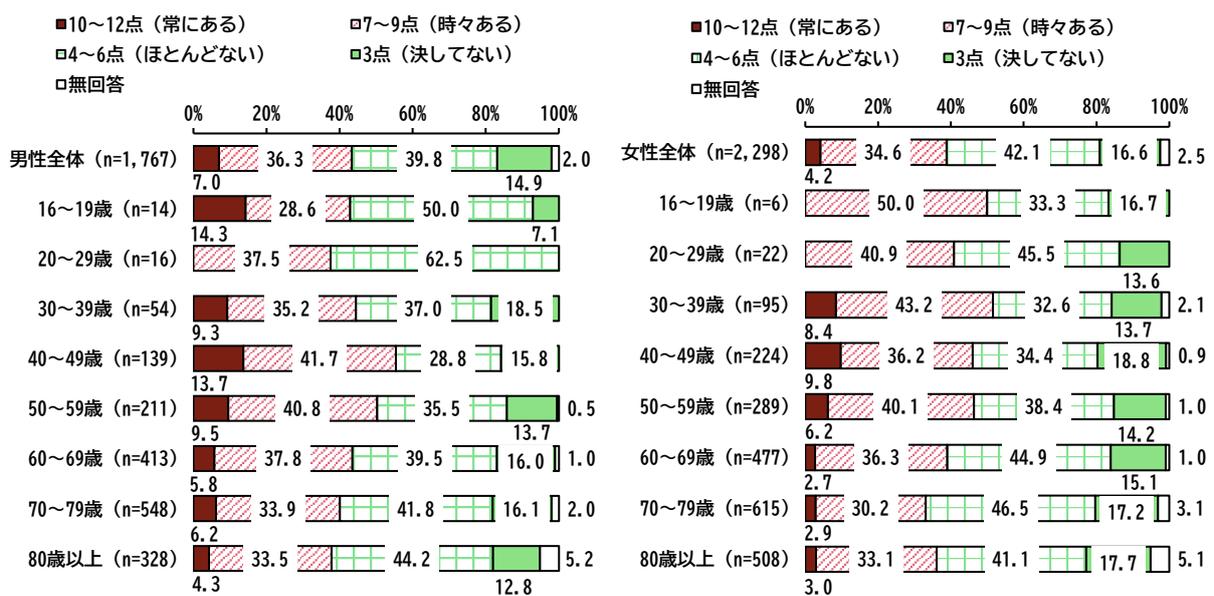


(注) 男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

(7) 男女、年齢階級別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、男性が7.0%、女性が4.2%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男女ともに30歳代から50歳代で高くなっている。

【図1-6】男女、年齢階級別孤独感(間接質問)



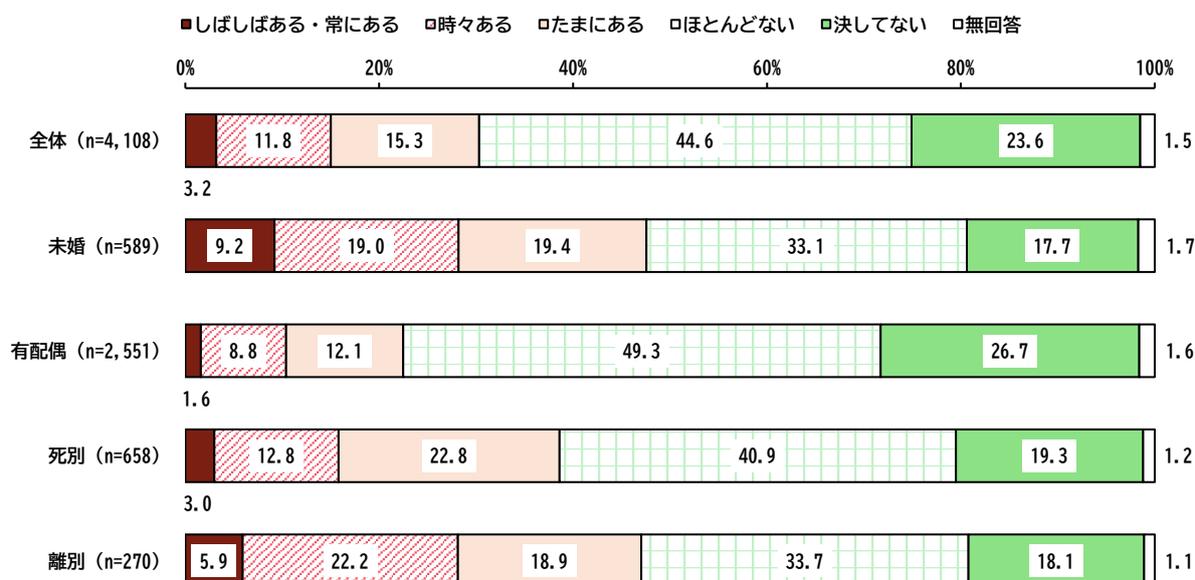
(注) 男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

(8) 配偶者の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「未婚」及び「離別」で高くなっている。

なお、本調査では、配偶者には事実上、夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含めている。

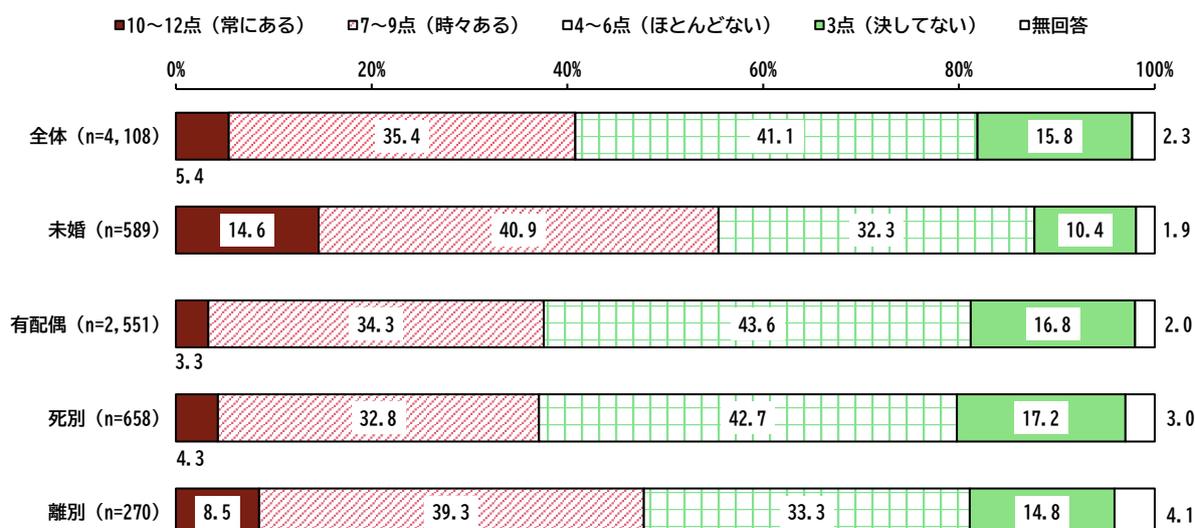
【図1-7】配偶者の有無別孤独感(直接質問)



(9) 配偶者の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「未婚」及び「離別」で高くなっている。

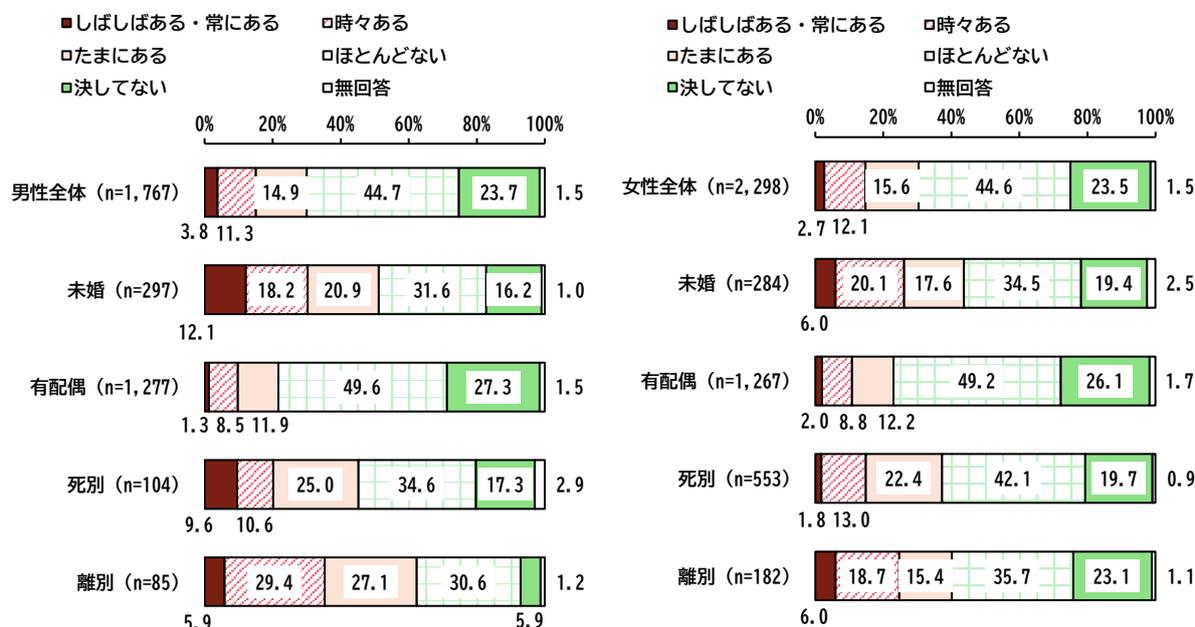
【図1-8】配偶者の有無別孤独感(間接質問)



(10) 男女、配偶者の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性は「未婚」及び「死別」、女性は「未婚」及び「離別」で高くなっている。

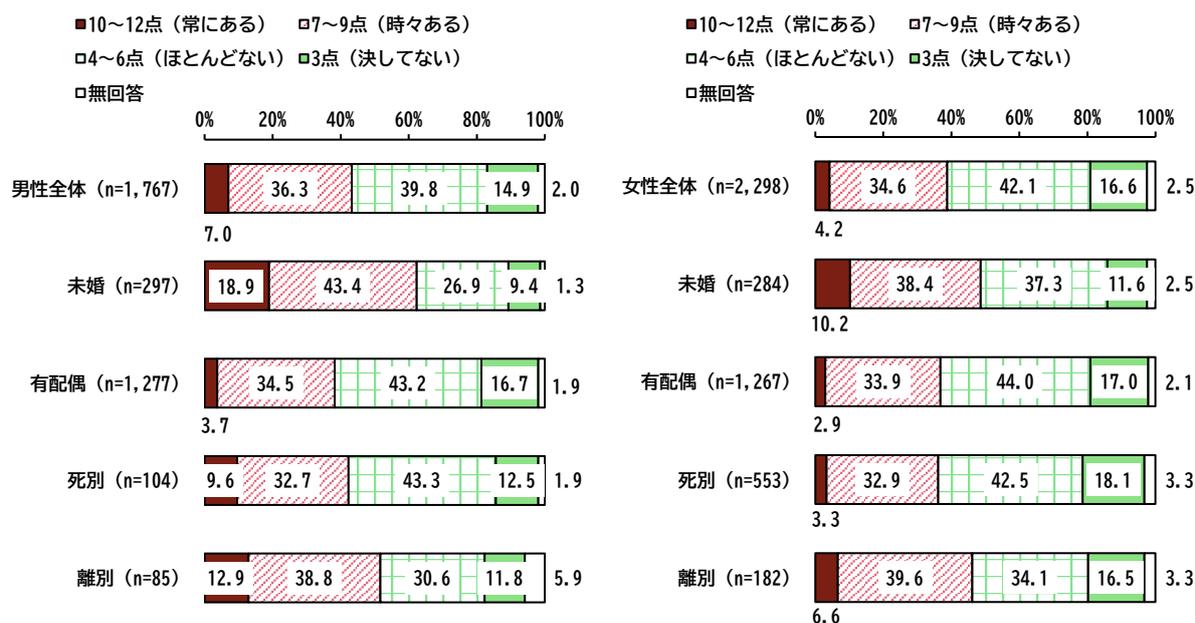
【図1-9】男女、配偶者の有無別孤独感(直接質問)



(11) 男女、配偶者の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、男女とも「未婚」及び「離別」で高くなっている。

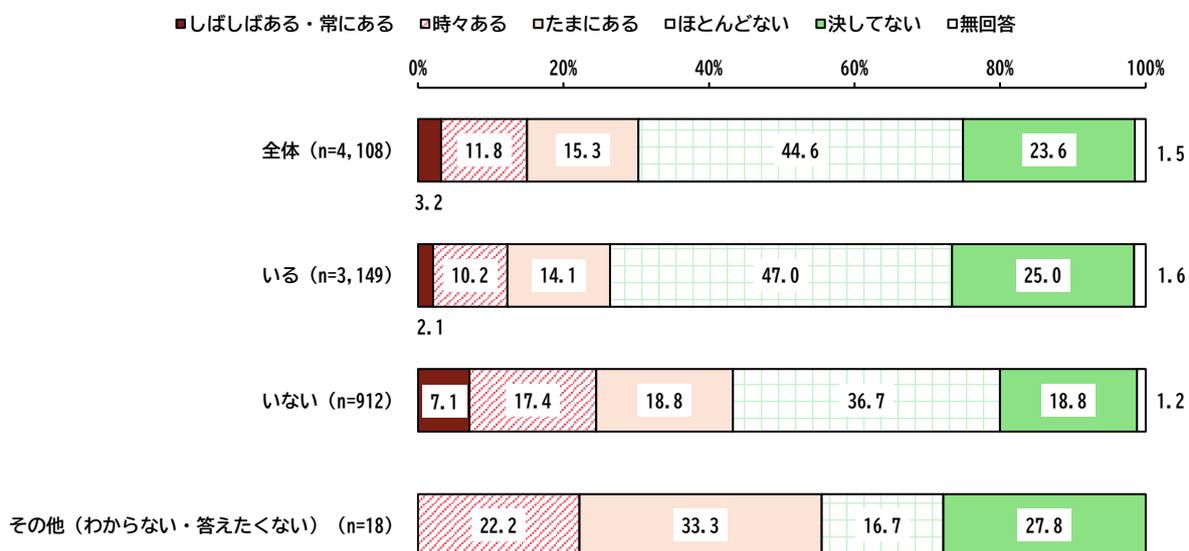
【図1-10】男女、配偶者の有無別孤独感(間接質問)



(12) 子どもの有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、子どもが「いる」で2.1%、「いない」で7.1%である。

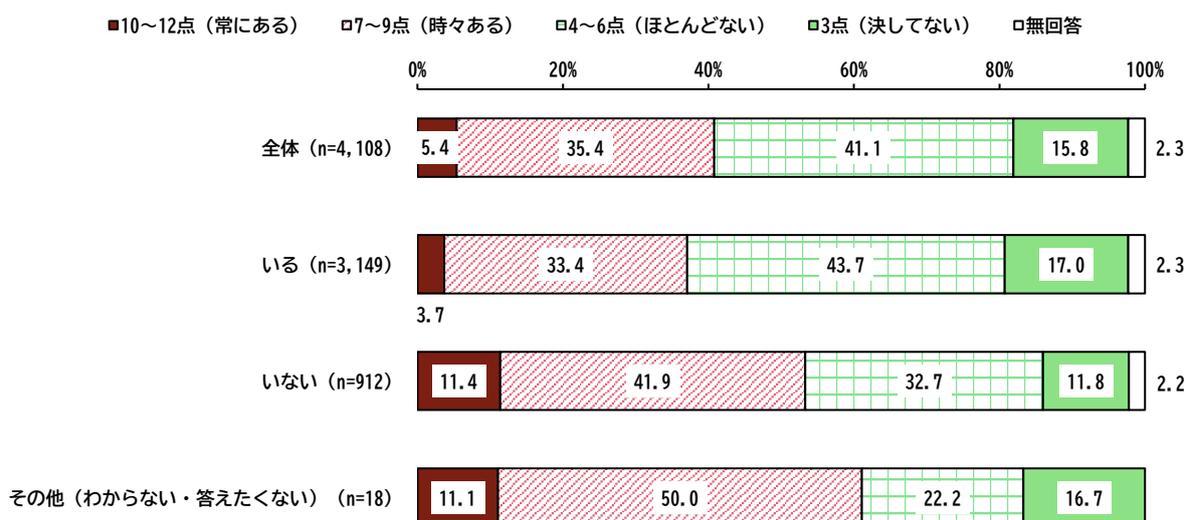
【図1-11】子どもの有無別孤独感(直接質問)



(13) 子どもの有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、子どもが「いる」で3.7%、「いない」では11.4%である。

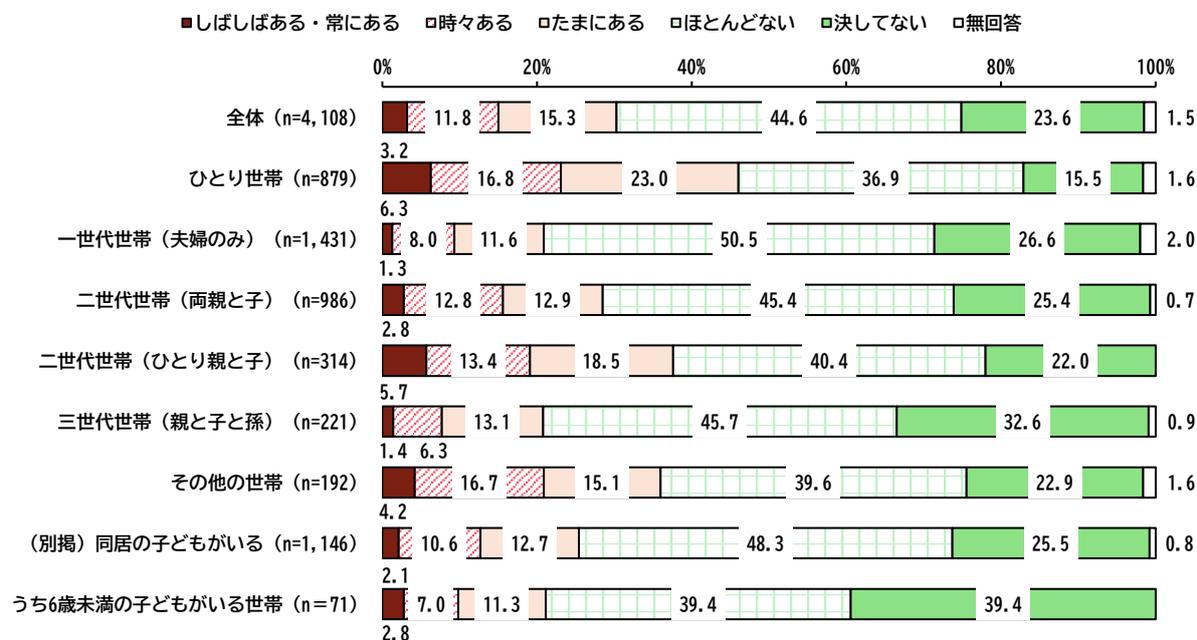
【図1-12】子どもの有無別孤独感(間接質問)



(14) 世帯構成別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「ひとり世帯」及び「二世帯世帯(ひとり親と子)」で高くなっている。

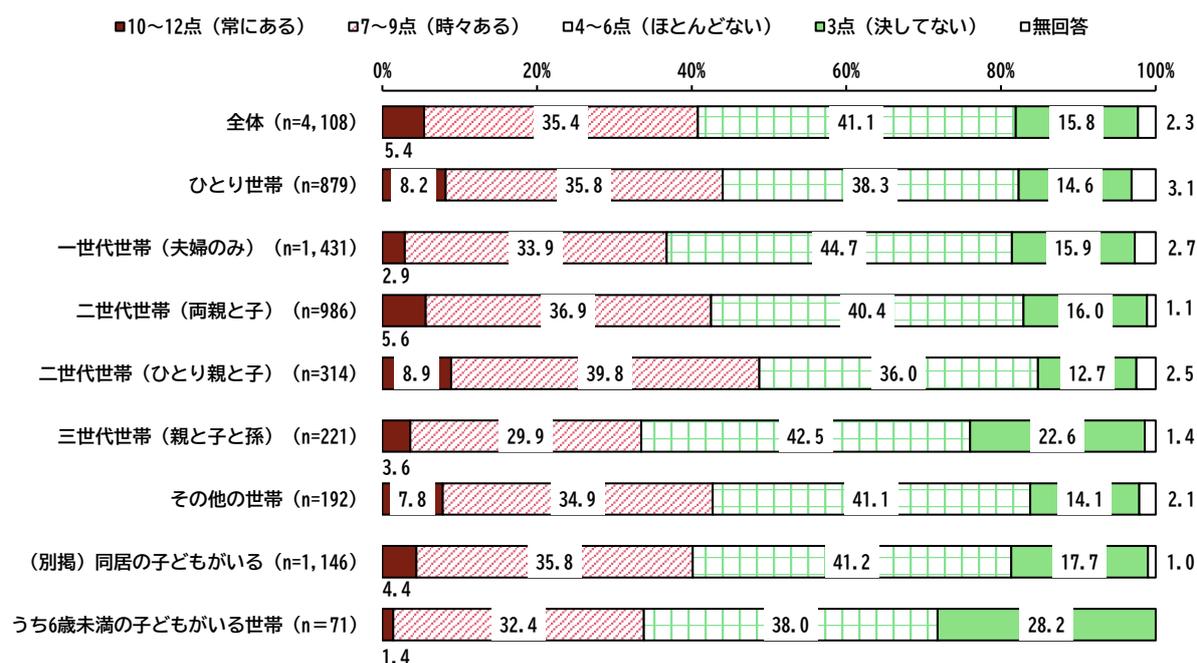
【図1-13】世帯構成別孤独感(直接質問)



(15) 世帯構成別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「ひとり世帯」及び「二世帯世帯(ひとり親と子)」で高くなっている。

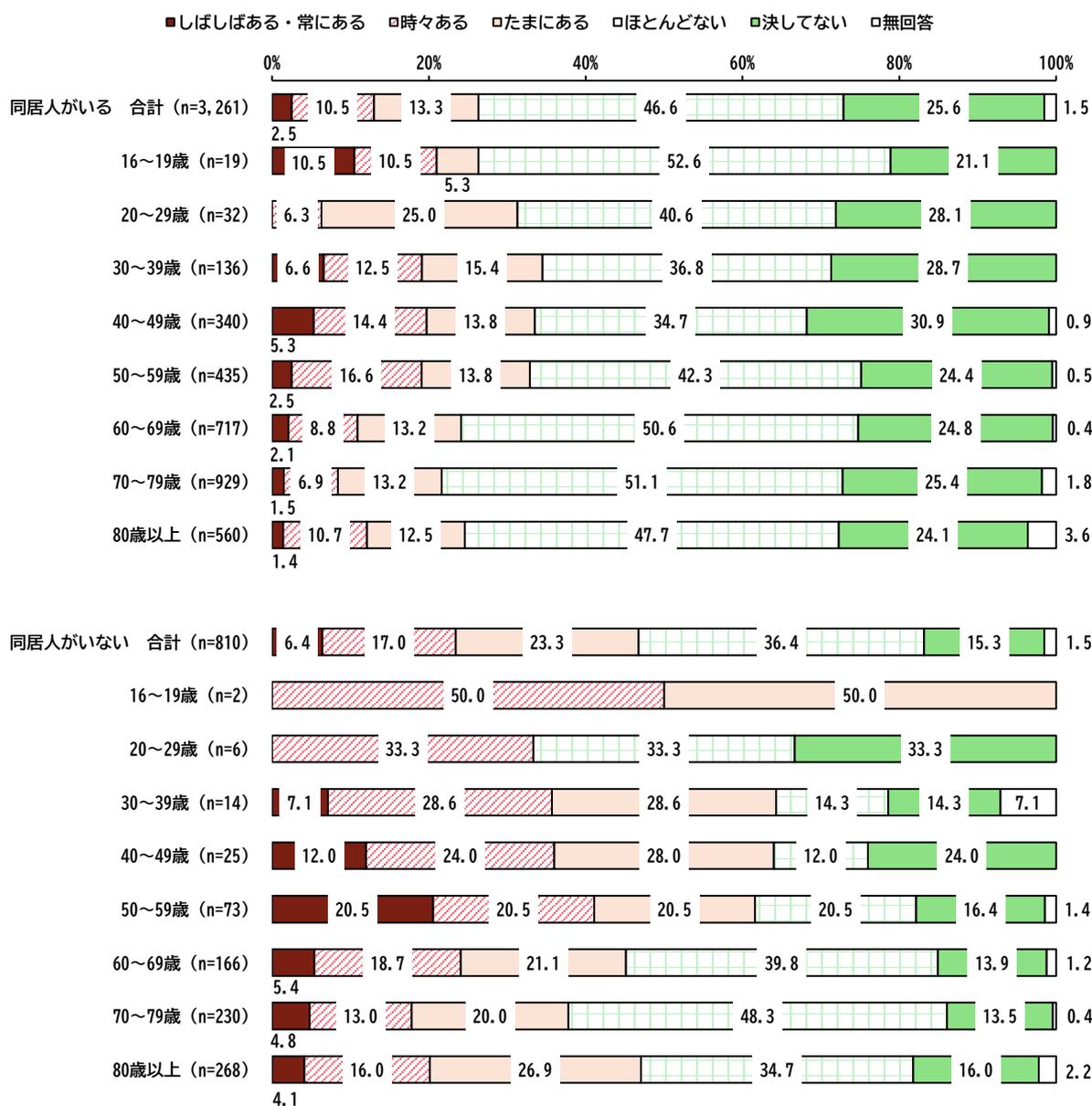
【図1-14】世帯構成別孤独感(間接質問)



(16) 同居人の有無、年齢階級別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「同居人がいる」で 2.5%、「同居人がいない」で 6.4%となっている。これを同居人の有無、年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいる人では 16～19 歳が最も高く、次いで 30 歳代、40 歳代となっている。同居人がいない人では 50 歳代が最も多く、次いで 40 歳代となっている。

【図 1-15】同居人の有無、年齢階級別孤独感(直接質問)



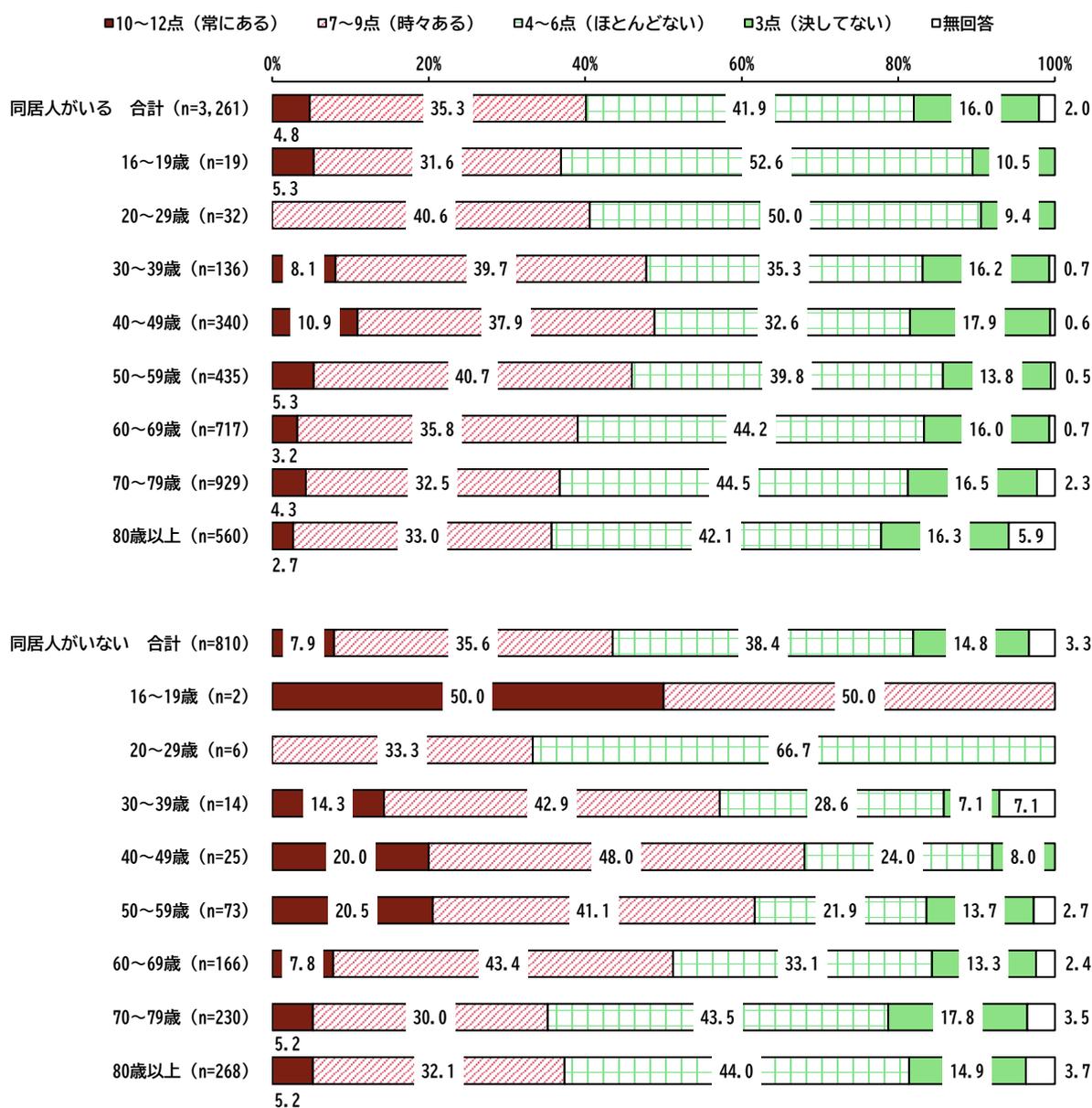
(注 1) 同居人の有無は、居住人数(問6)への回答を基準に判定している。なお、居住人数(問6)が無回答、かつ同居している人たちとの直接会話によるコミュニケーション頻度(問 16(2))に回答がある場合及び、居住人数(問6)が無回答、かつ世帯構成(問 5)で「ひとり世帯」以外に回答がある場合は、「同居人がいる」と判定している。

(注 2) 16～19 歳、20 歳代及び 30 歳代の「同居人がいない」は、回答者数が些少のため、参考値。

(17) 同居人の有無、年齢階級別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、「同居人がいる」で4.8%、「同居人がいない」で7.9%となっている。これを同居人の有無、年齢階級別にみると、孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、同居人がいる人では30歳代及び40歳代で、同居人がいない人では40歳代及び50歳代で高くなっている。

【図1-16】同居人の有無、年齢階級別孤独感(間接質問)



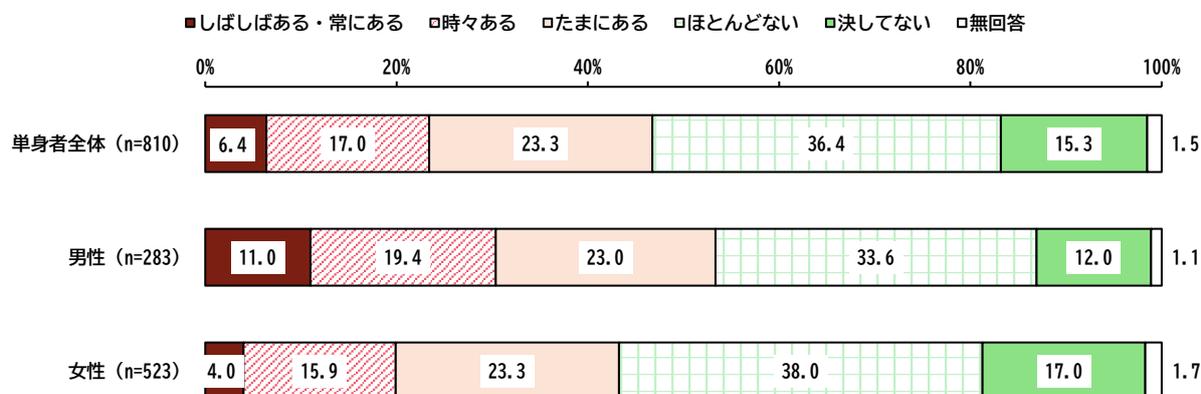
(注 1) 同居人の有無は、図1-15と同様に判定している。

(注 2) 16～19歳、20歳代及び30歳代の「同居人がいない」は、回答者数が些少のため、参考値。

(18) 男女別単身者の孤独感(直接質問)

単身者の孤独感を男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性で11.0%、女性で4.0%となっている。

【図1-17】男女別単身者の孤独感(直接質問)

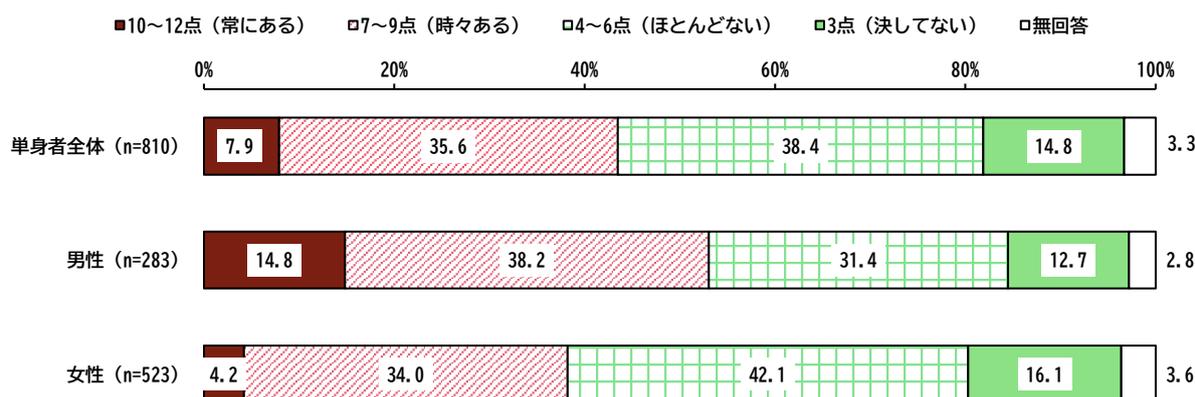


(注)「単身者」は「同居人がいない」と判定された者としており、性別(問2)への回答によって「男性単身者」と「女性単身者」に区分している。同居人の有無は、居住人数(問6)への回答を基準に判断している。なお、居住人数(問6)が無回答、かつ同居している人たちとの直接会話によるコミュニケーション頻度(問16(2))に回答がある場合及び、居住人数(問6)が無回答、かつ世帯構成(問5)で「ひとり世帯」以外に回答がある場合は、「同居人がいる」と判定している。

(19) 男女別単身者の孤独感(間接質問)

単身者の孤独感スコアを男女別にみると、スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、男性で14.8%、女性で4.2%となっている。

【図1-18】男女別単身者の孤独感(間接質問)

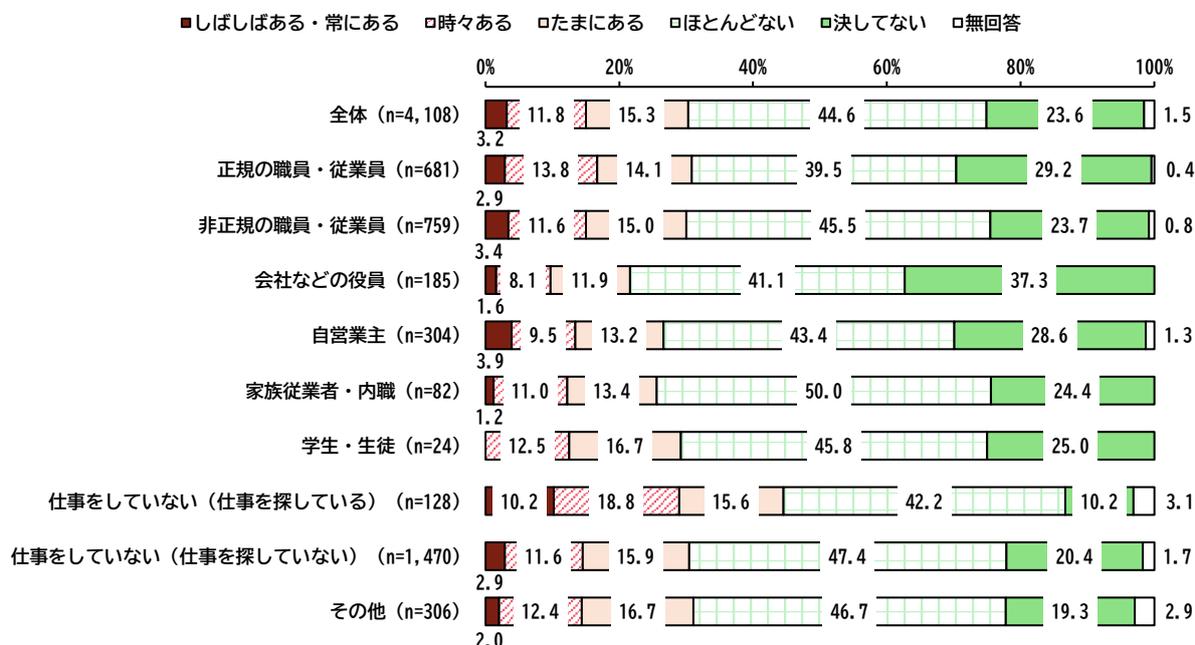


(注)「単身者」は、図1-17と同様に判定している。

(20) 現在の仕事別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「仕事をしていない(仕事を探している)」で最も高くなっている。

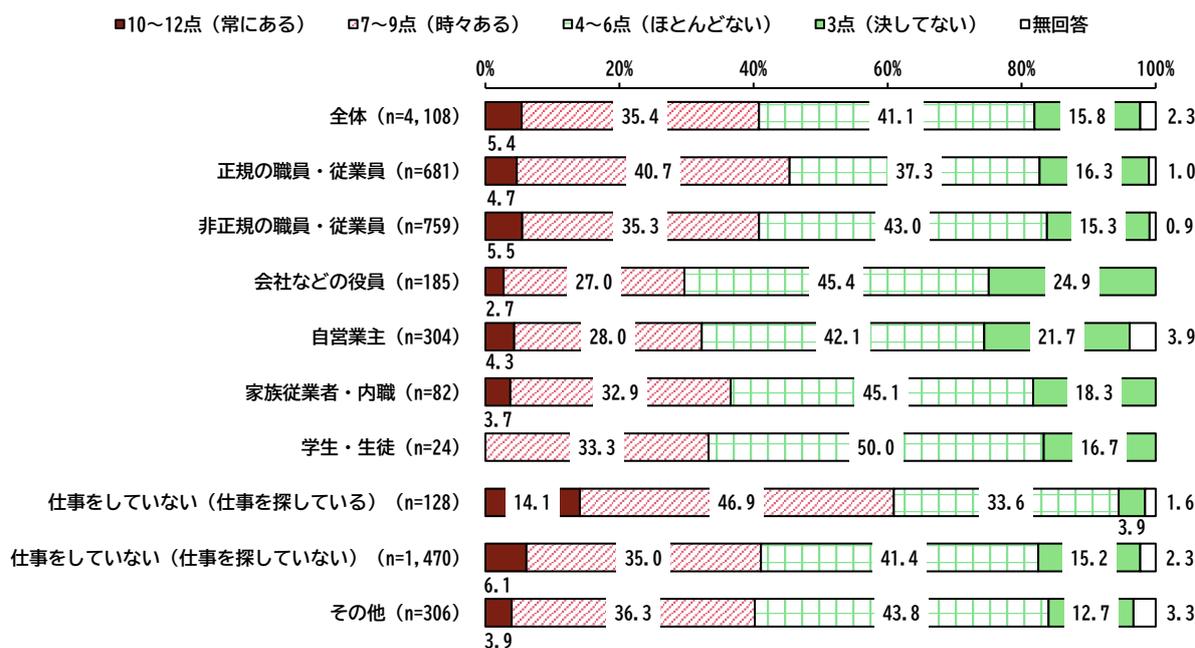
【図1-19】現在の仕事別孤独感(直接質問)



(21) 現在の仕事別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「仕事をしていない(仕事を探している)」及び「仕事をしていない(仕事を探していない)」で高くなっている。

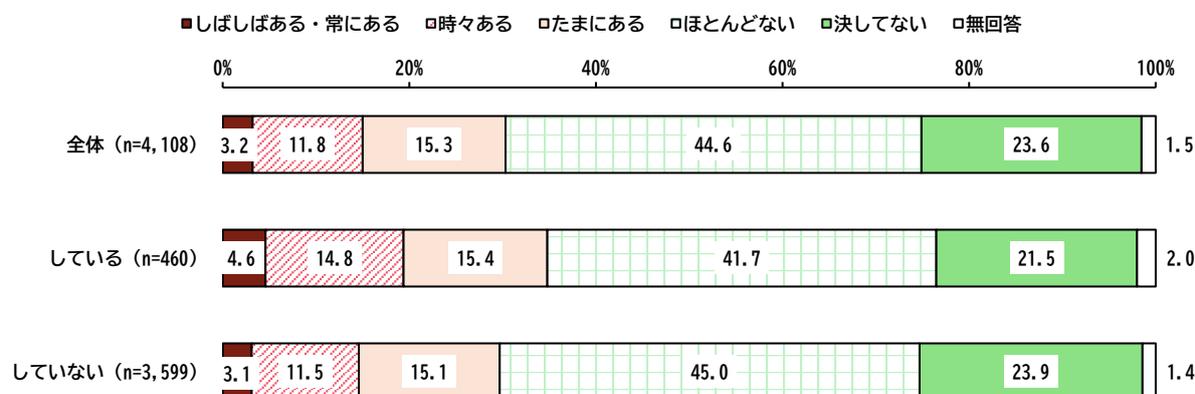
【図1-20】現在の仕事別孤独感(間接質問)



(22) 家族の介助や看病の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、家族の介助や看病を「している」で 4.6%、「していない」で 3.1%となっている。

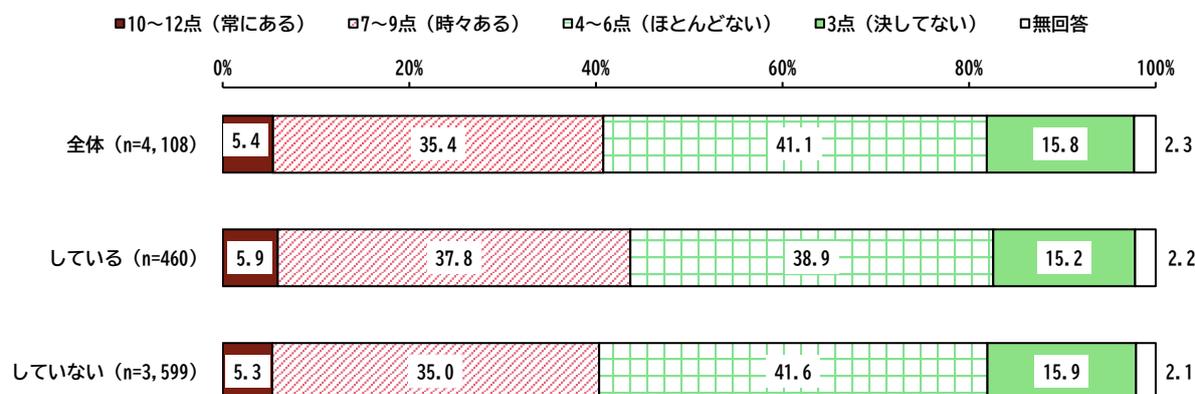
【図 1-21】 家族の介助や看病の有無別孤独感（直接質問）



(23) 家族の介助や看病の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「している」で 5.9%、「していない」では 5.3%となっている。

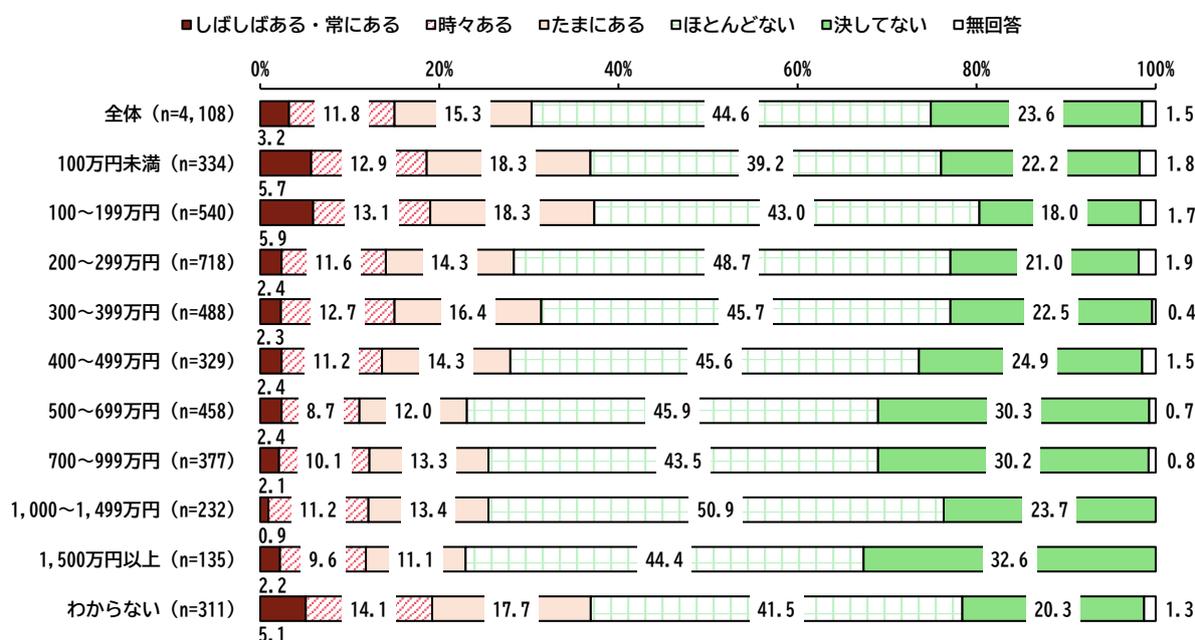
【図 1-22】 家族の介助や看病の有無別孤独感（間接質問）



(24) 世帯の年間収入別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、年収が「100万円未満」、「100～199万円」及び「わからない」で高くなっている。

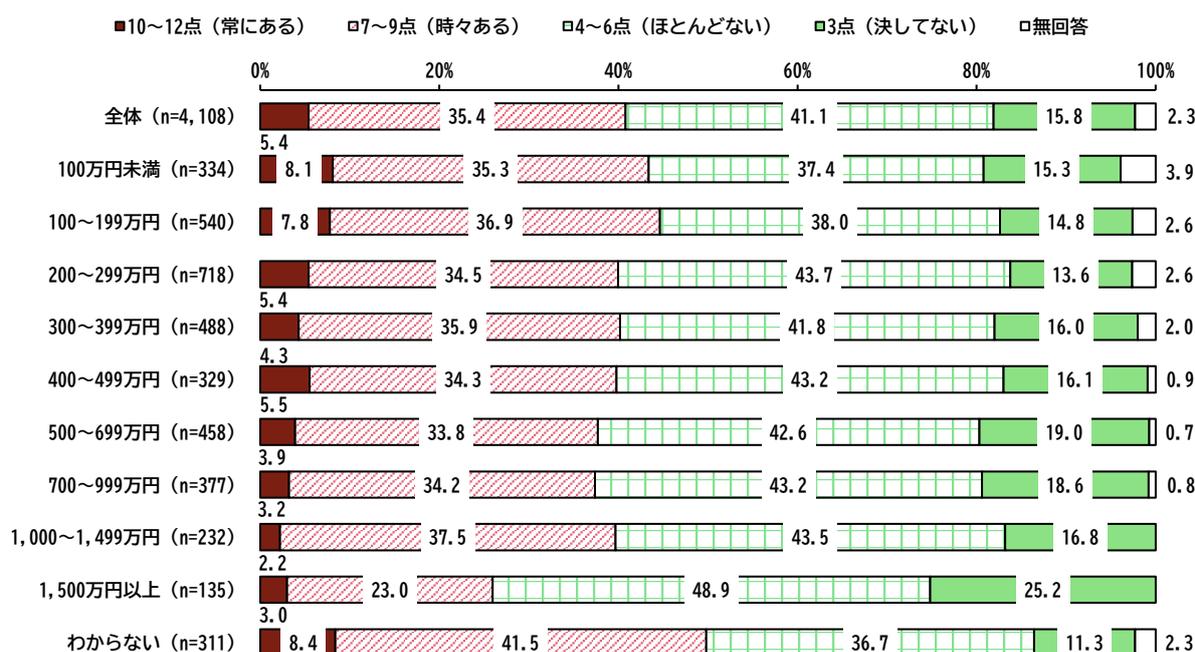
【図1-23】世帯の年間収入別孤独感(直接質問)



(25) 世帯の年間収入別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、年収が「100万円未満」、「100～199万円」及び「わからない」で高くなっている。

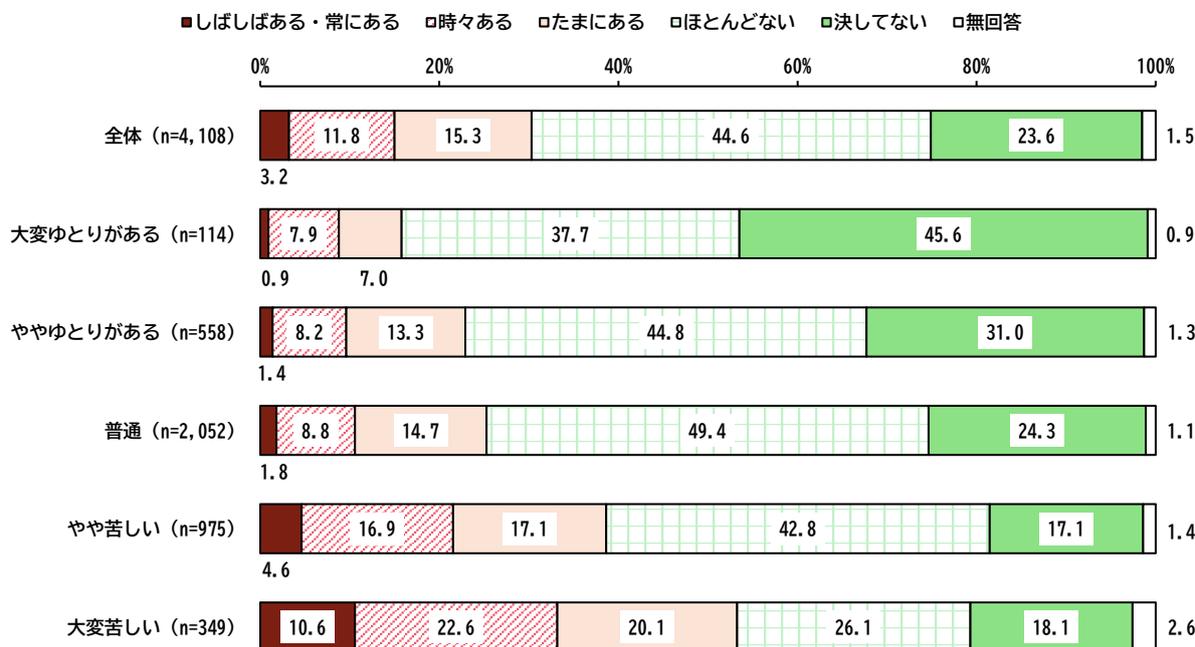
【図1-24】世帯の年間収入別孤独感(間接質問)



(26) 経済的な暮らし向き別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「大変苦しい」で高くなっている。

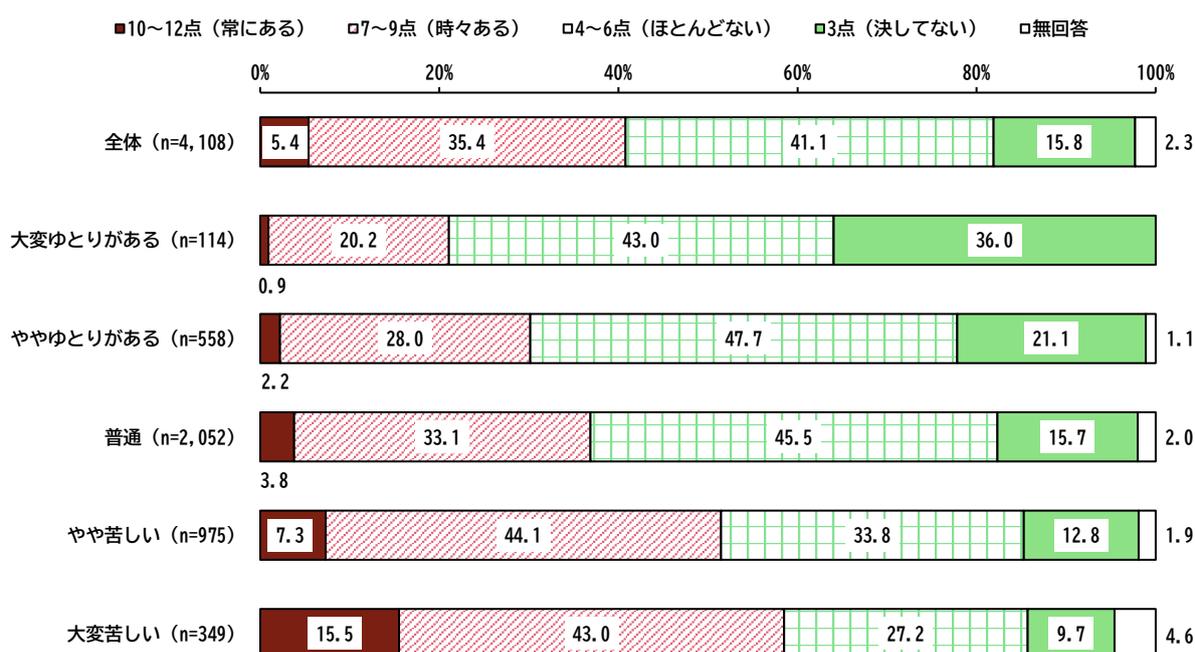
【図1-25】経済的な暮らし向き別孤独感(直接質問)



(27) 経済的な暮らし向き別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「大変苦しい」及び「やや苦しい」で高くなっている。

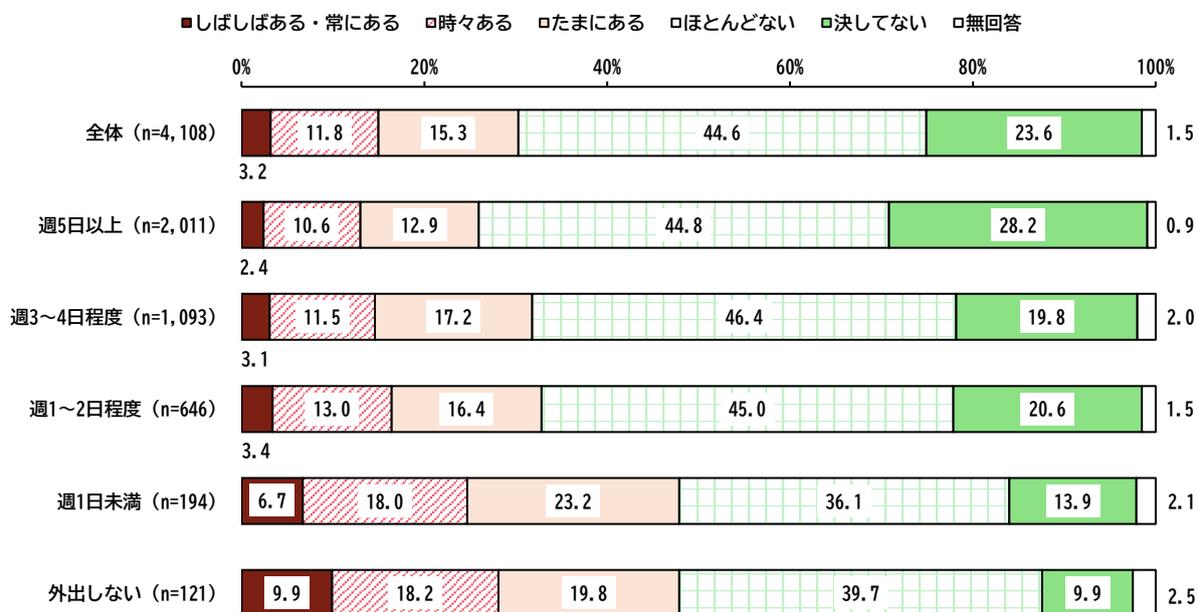
【図1-26】経済的な暮らし向き別孤独感(間接質問)



(28) 外出頻度別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「週1日未満」及び「外出しない」で高くなっている。

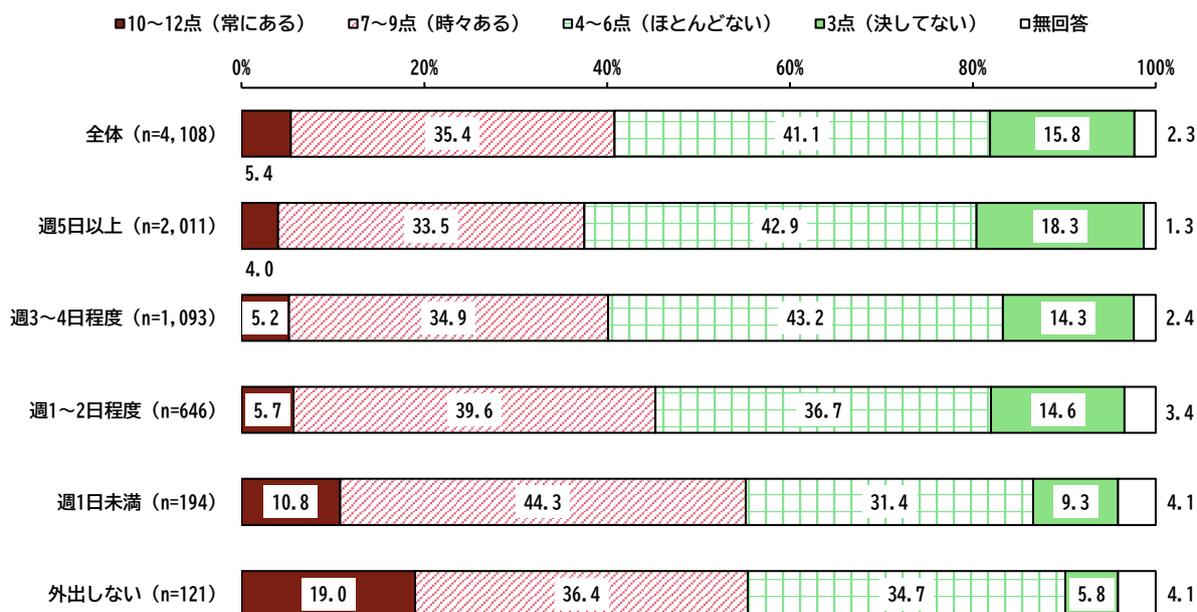
【図1-27】外出頻度別孤独感(直接質問)



(29) 外出頻度別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「週1日未満」及び「外出しない」で高くなっている。

【図1-28】外出頻度別孤独感(間接質問)

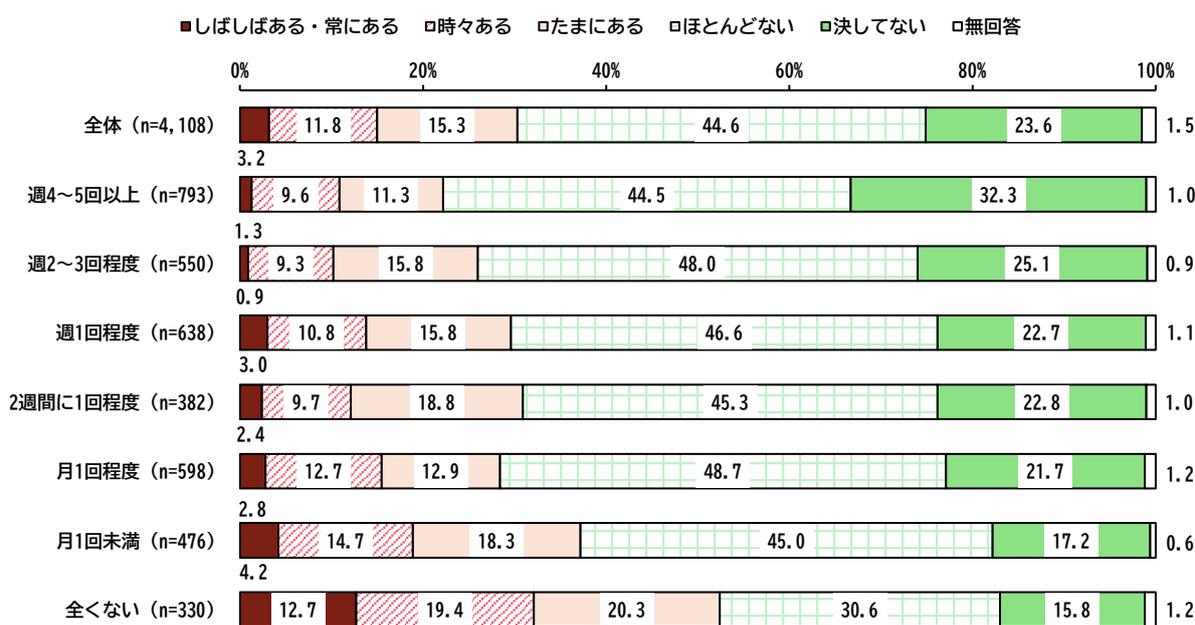


(30) 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度別孤独感（直接質問、間接質問）

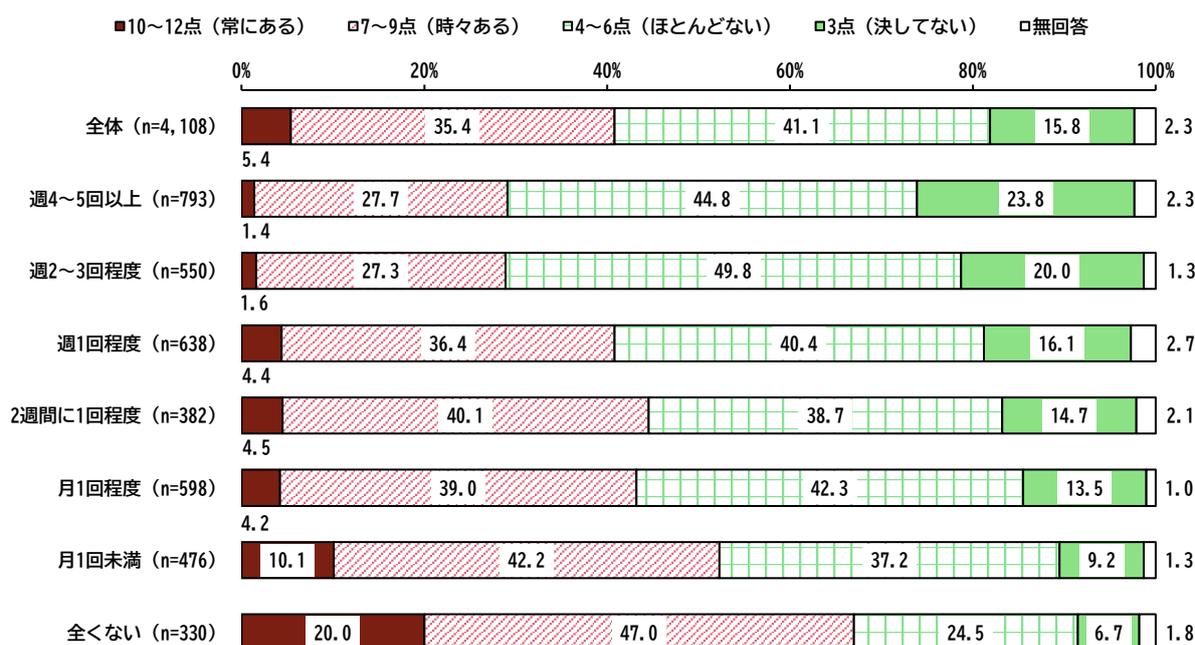
「図1-29」から「図1-34」までは、同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション手段ごとに、その頻度別孤独感を示している。

直接質問による孤独感で「しばしばある・常にある」と回答した人の割合と間接質問による孤独感スコアで「10～12点（常にある）」という人の割合は、「直接会って話す」及び「電話（ビデオ通話含む）」では、「全くない」で最も高くなっている。一方、「SNS や電子メールなどをする」では「月1回未満」及び「全くない」で高くなっている。

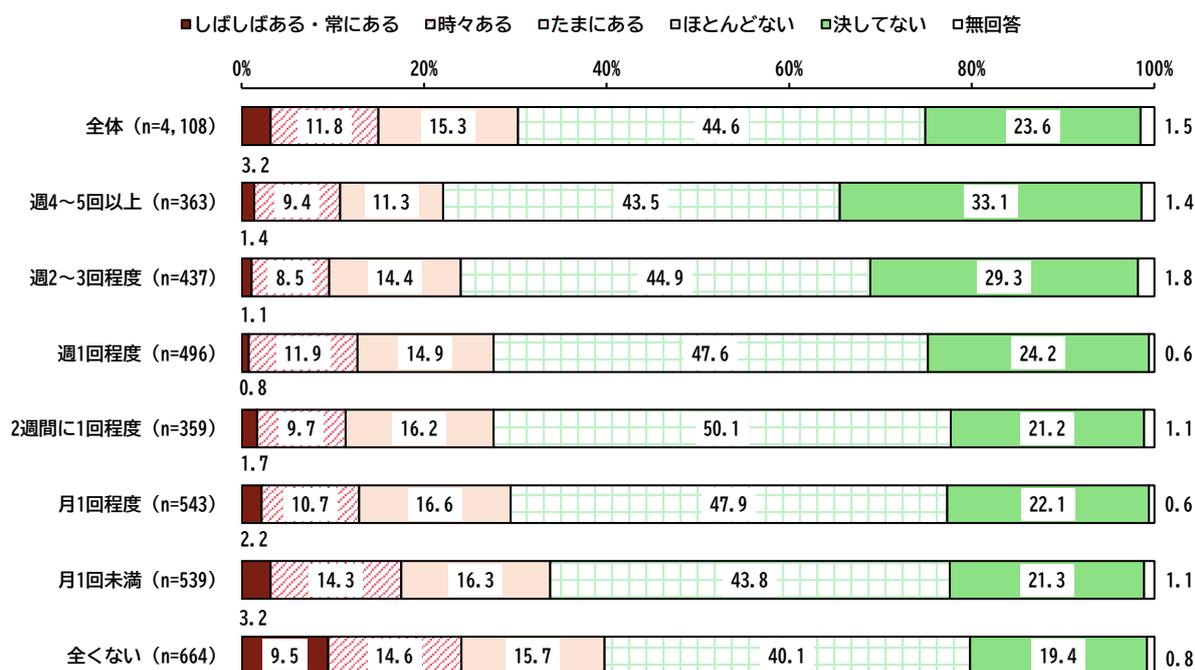
【図1-29】「直接会って話す」頻度別孤独感（直接質問）



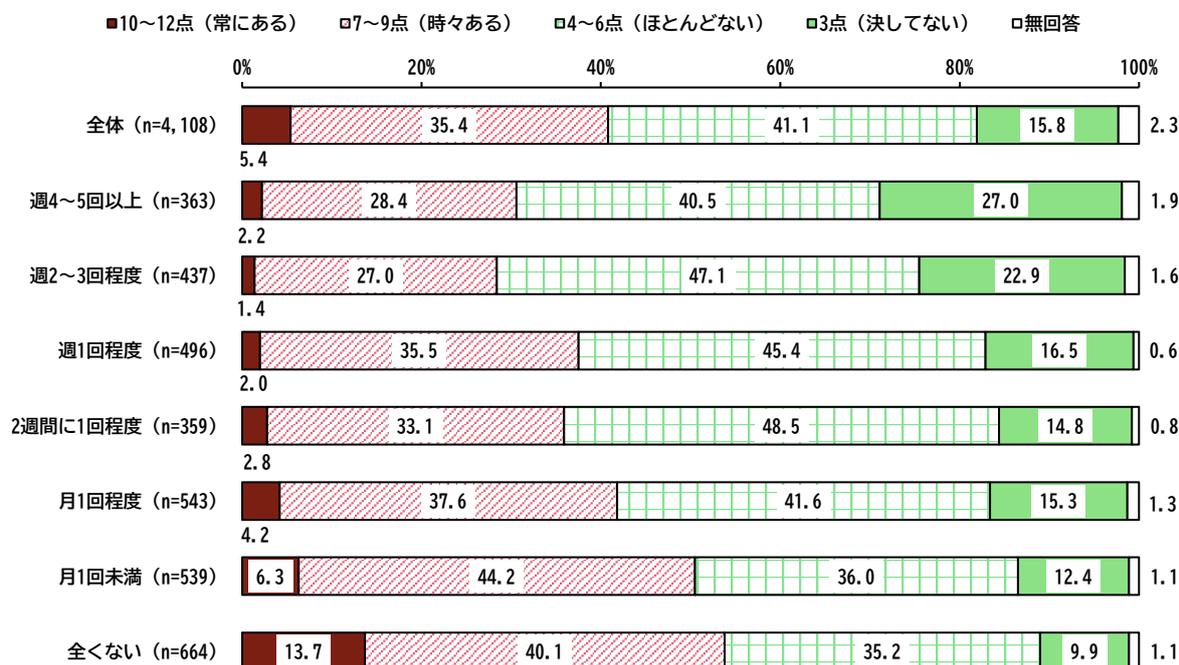
【図1-30】「直接会って話す」頻度別孤独感（間接質問）



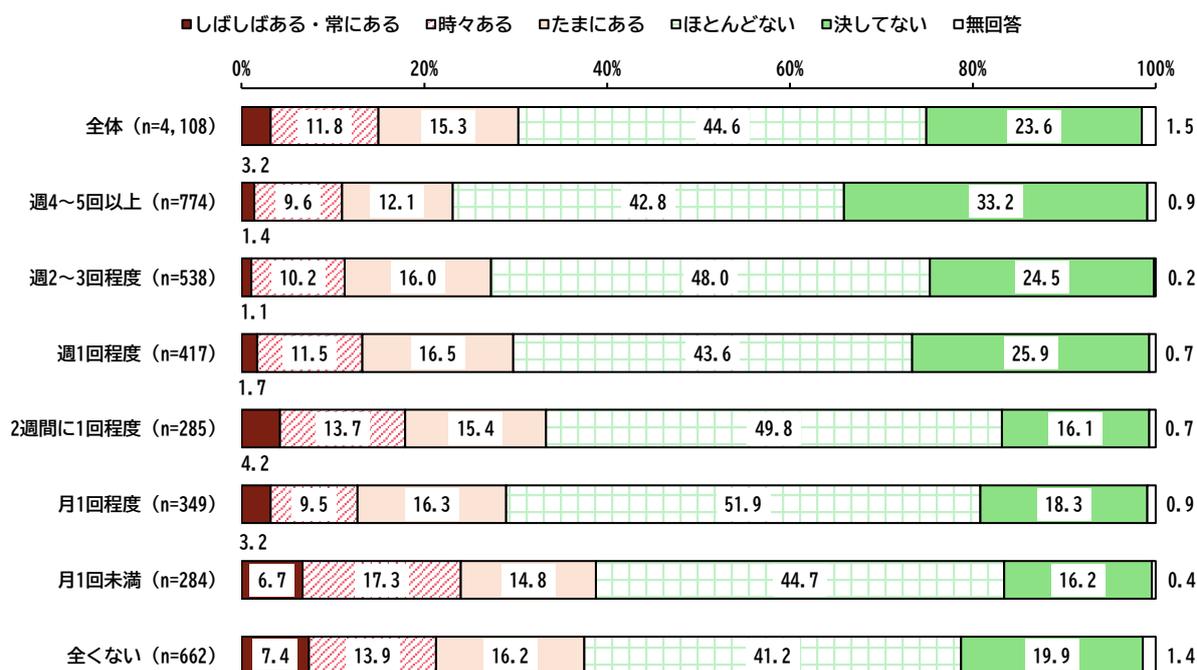
【図1-31】「電話（ビデオ通話含む）する」頻度別孤独感（直接質問）



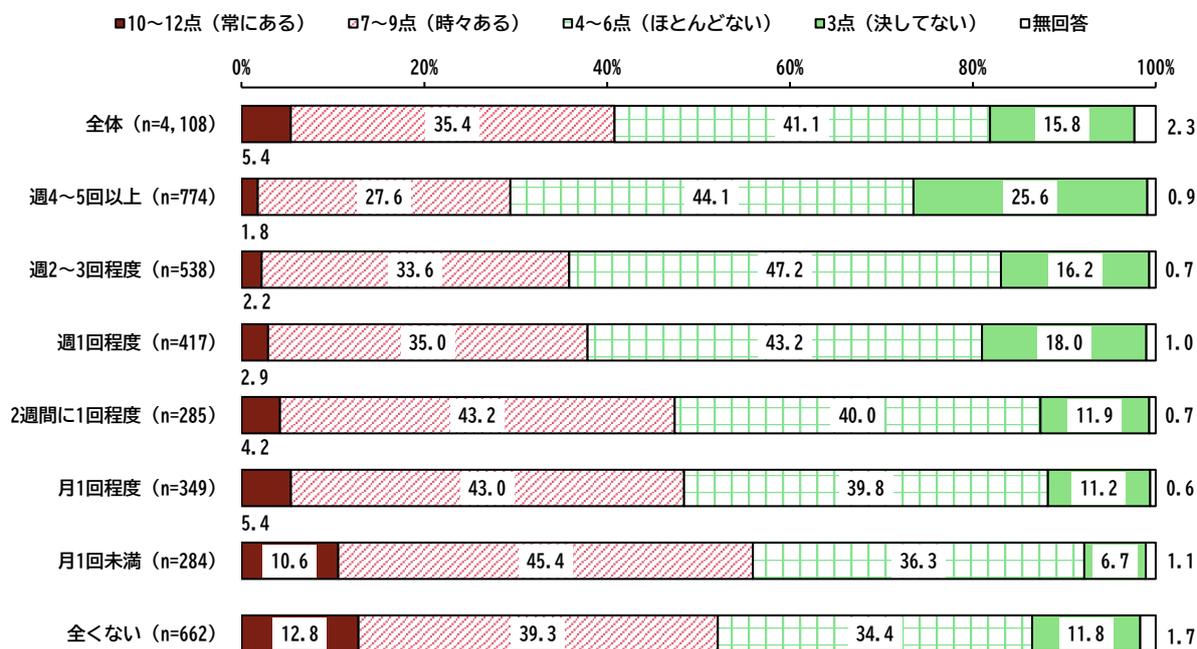
【図1-32】「電話（ビデオ通話含む）する」頻度別孤独感（間接質問）



【図1-33】「SNSや電子メールなどをする」頻度別孤独感（直接質問）



【図1-34】「SNSや電子メールなどをする」頻度別孤独感（間接質問）

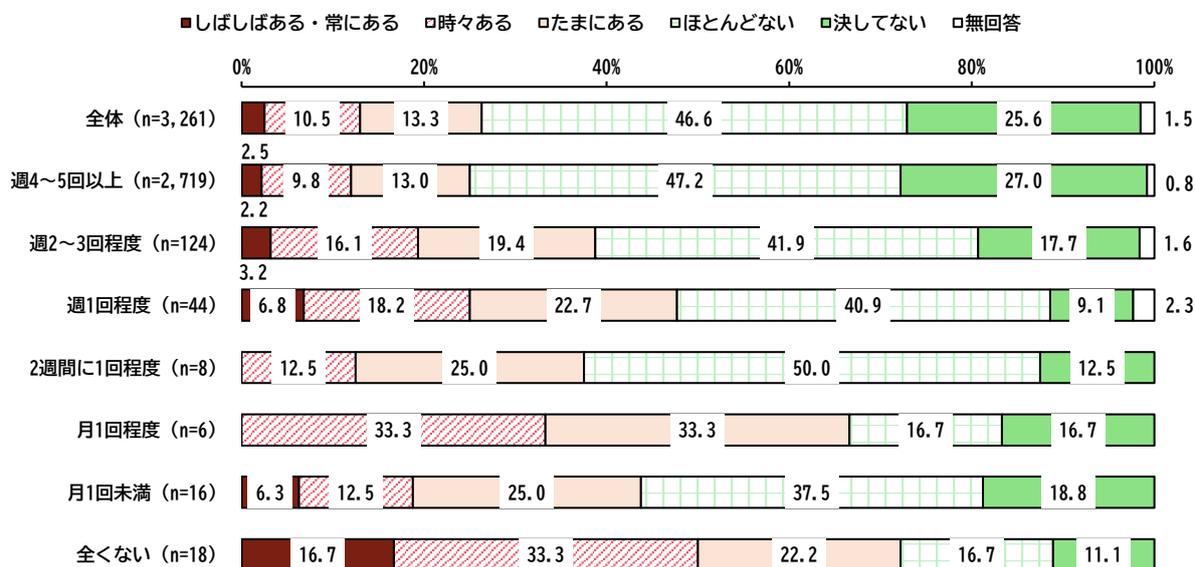


※以下、(31)及び(32)については、同居人がいると判定した人を集計対象としている(P11~12 参照)。

(31) 同居している人たちと直接会って話す頻度別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、頻度が「全くない」で高くなっている。

【図1-35】同居している人たちと「直接会って話す」頻度別孤独感(直接質問)



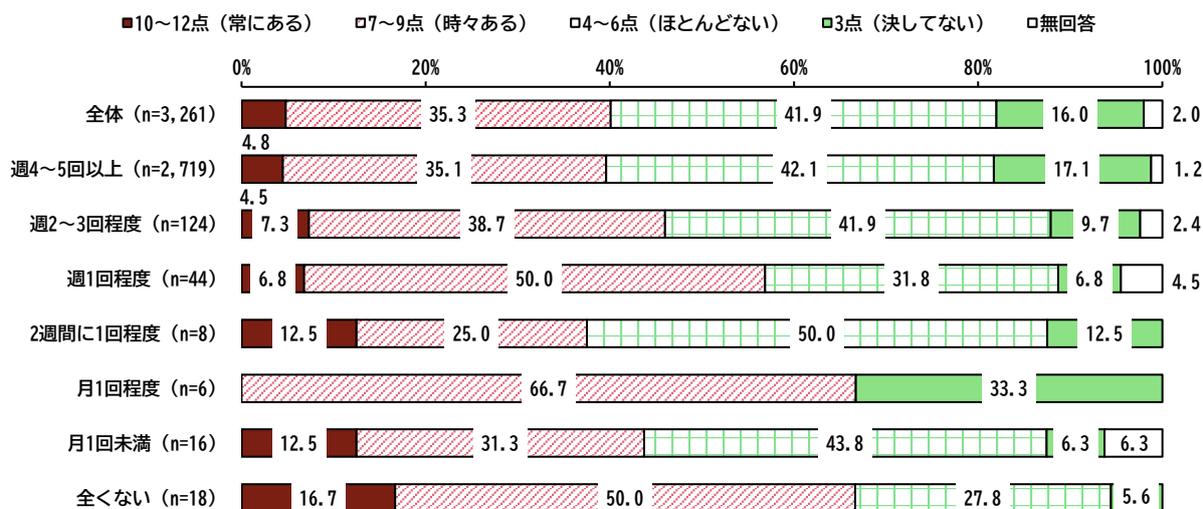
(集計対象:同居人がいると判定した 3,261 人)

(注)同居している人たちと「直接会って話す」頻度が、「2週間に1回程度」、「月1回程度」及び「月1回未満」については、回答者数が些少のため、参考値。

(32) 同居している人たちと直接会って話す頻度別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、頻度が「全くない」で高くなっている。

【図1-36】同居している人たちと「直接会って話す」頻度別孤独感(間接質問)



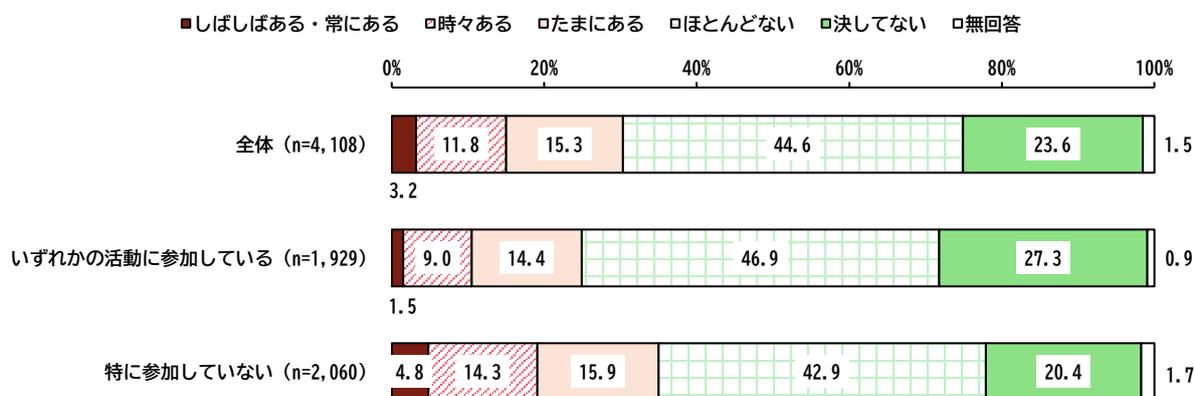
(集計対象:同居人がいると判定した 3,261 人)

(注)同居している人たちと「直接会って話す」頻度が、「2週間に1回程度」、「月1回程度」及び「月1回未満」については、回答者数が些少のため、参考値。

(33) 社会活動への参加状況別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「いずれかの活動に参加している」で1.5%、「特に参加はしていない」で4.8%となっている。

【図1-37】社会活動への参加状況別孤独感(直接質問)

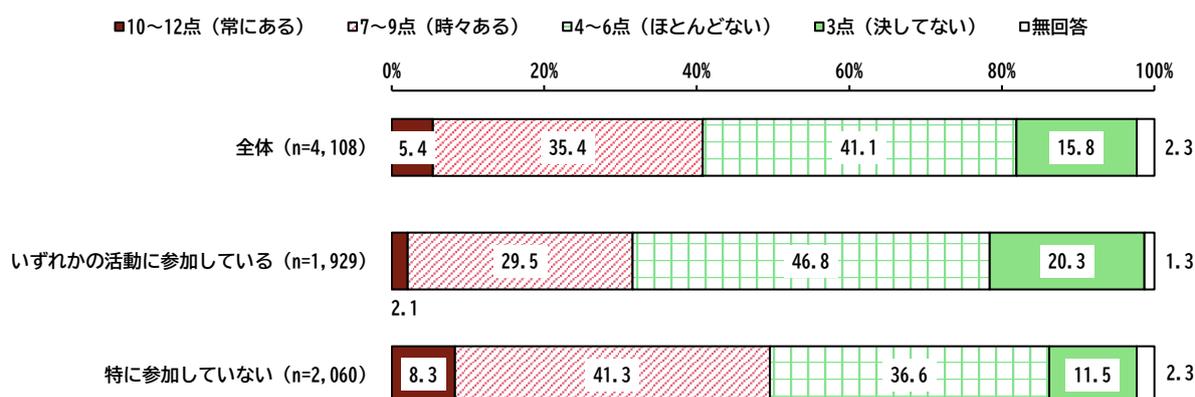


(注)回答選択肢「1 PTA・自治会・町内会などの活動」から「5 その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など)」のいずれかに回答があった者を「いずれかの活動に参加している」として集計。

(34) 社会活動への参加状況別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、「いずれかの活動に参加している」で2.1%、「特に参加はしていない」で8.3%となっている。

【図1-38】社会活動への参加状況別孤独感(間接質問)

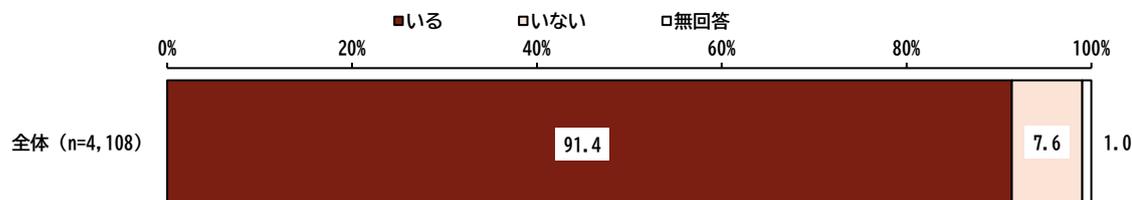


(注)回答選択肢「1 PTA・自治会・町内会などの活動」から「5 その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など)」のいずれかに回答があった者を「いずれかの活動に参加している」として集計。

(35) 困った時に頼れる人の有無

困った時に頼れる人が「いる」と回答した人の割合は91.4%、「いない」は7.6%となっている。

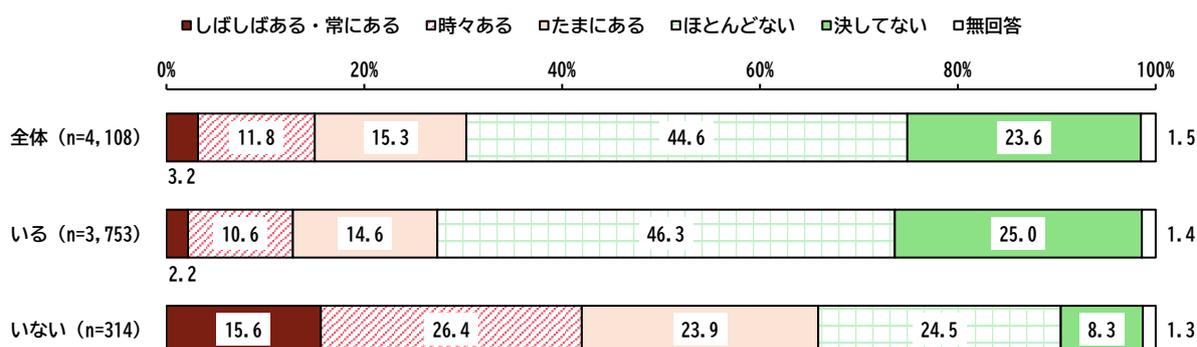
【図1-39】 困った時に頼れる人の有無



(36) 困った時に頼れる人の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、頼れる人が「いる」で2.2%、「いない」で15.6%となっている。

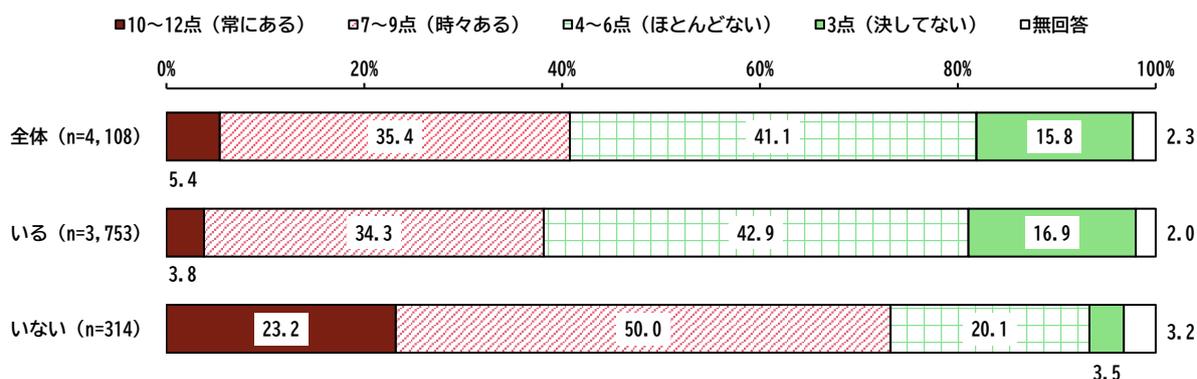
【図1-40】 困った時に頼れる人の有無別孤独感(直接質問)



(37) 困った時に頼れる人の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、頼れる人が「いる」で3.8%、「いない」で23.2%となっている。

【図1-41】 困った時に頼れる人の有無別孤独感(間接質問)



※以下、(38)については、頼れる人が「いる」と回答した人を集計対象としている(P24 参照)。

(38) 男女、年齢階級別困った時に頼れる人の種類

困った時に頼れる人が「いる」と回答した人に対し、その相手を尋ねたところ、「家族・親族」と回答した割合が 95.5%と最も高く、次いで、「友人・知人」(45.0%)、「病院・診療所の医師」(20.8%)などとなっている。

男女別にみると、「家族・親族」と回答した割合は、女性で高い。また、男女、年齢階級別にみると、「友人・知人」と回答した割合は、男性は 50 歳代で、女性は 20 歳代から 50 歳代で高くなっている。

【図 1-42】 男女、年齢階級別困った時に頼れる人の種類【複数回答】

	n	家族・親族	友人・知人	自治会・町内会・近所の人	仕事・学校関係者(職場の同僚・学校の先生等)	各種相談支援機関	行政機関(区役所・支所の各種相談支援機関)	ボランティア団体	NPO等の民間団体	社会福祉協議会	病院・診療所の医師	その他	無回答
全体	3,753	95.5	45.0	7.7	13.2	8.7	1.0	2.7	20.8	1.9	0.8		
男性/全体	1,535	94.5	40.1	6.4	15.7	8.7	1.0	2.3	21.8	1.9	1.0		
16~19歳	13	100.0	69.2	-	46.2	-	-	-	15.4	-	-		
20~29歳	14	100.0	71.4	-	35.7	7.1	-	-	14.3	-	-		
30~39歳	49	93.9	40.8	2.0	30.6	6.1	-	-	6.1	2.0	2.0		
40~49歳	118	91.5	37.3	0.8	37.3	5.9	0.8	0.8	11.9	1.7	0.8		
50~59歳	170	91.2	55.3	3.5	32.4	7.1	-	0.6	17.1	4.1	1.8		
60~69歳	354	95.2	42.4	6.5	20.1	10.7	2.3	2.0	18.9	1.1	1.4		
70~79歳	489	95.9	40.9	9.0	7.4	9.8	0.6	2.7	25.2	1.8	0.4		
80歳以上	291	94.5	26.8	7.2	3.1	7.6	1.4	4.5	29.2	1.7	1.0		
女性/全体	2,183	96.2	48.4	8.7	11.3	8.7	1.0	2.9	20.0	2.0	0.7		
16~19歳	6	100.0	83.3	-	33.3	-	-	-	16.7	-	-		
20~29歳	22	95.5	72.7	-	22.7	4.5	-	-	4.5	-	-		
30~39歳	91	97.8	62.6	5.5	30.8	5.5	-	-	15.4	3.3	-		
40~49歳	205	96.1	63.4	4.4	28.8	7.8	1.0	0.5	13.2	1.5	1.5		
50~59歳	269	97.0	63.6	5.9	24.2	9.7	0.7	1.5	14.5	2.6	0.7		
60~69歳	452	96.2	53.3	7.5	13.5	8.4	1.3	2.0	17.3	2.0	0.2		
70~79歳	592	95.8	46.6	9.6	3.5	11.0	1.0	3.0	22.5	1.9	0.7		
80歳以上	489	96.9	27.6	13.3	0.2	7.8	1.2	6.3	27.8	2.2	0.4		

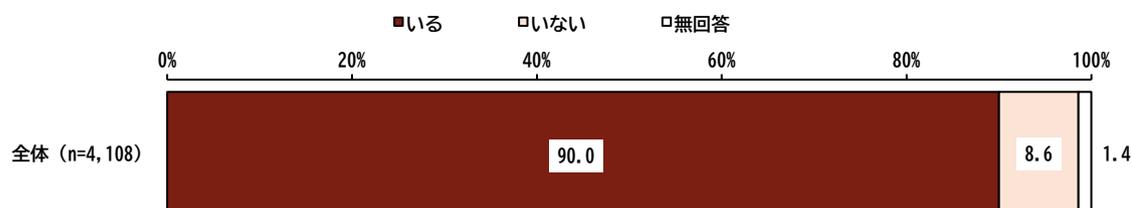
(集計対象:頼れる人が「いる」と回答した 3,753 人)

(注)男性の「16~19歳」及び「20~29歳」、女性の「16~19歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

(39) 不安や悩みの相談相手の有無

不安や悩みが生じた際の相談相手が「いる」と回答した人の割合は 90.0%、「いない」は 8.6%となっている。

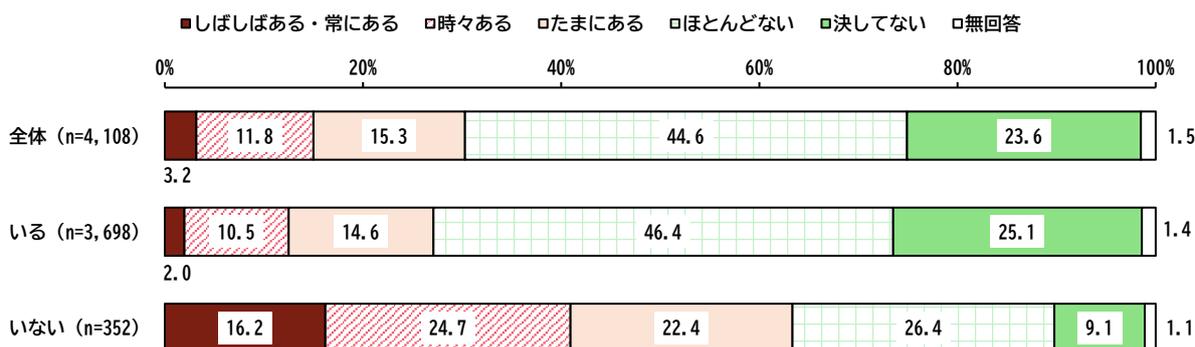
【図 1-43】 不安や悩みの相談相手の有無



(40) 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、相談相手が「いる」で 2.0%、「いない」で 16.2%となっている。

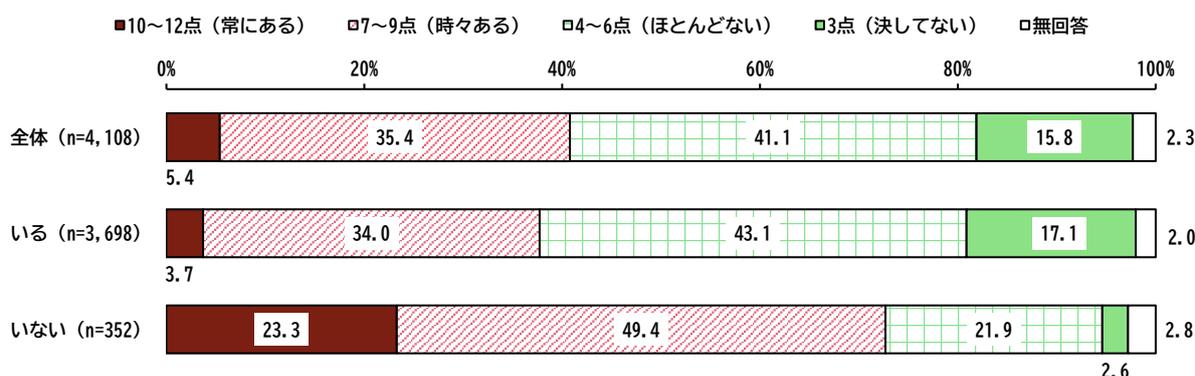
【図 1-44】 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感 (直接質問)



(41) 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、相談相手が「いる」で 3.7%、「いない」で 23.3%となっている。

【図 1-45】 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感 (間接質問)



※以下、(42)については、相談相手が「いる」と回答した人を集計対象としている(P26 参照)。

(42) 男女、年齢階級別不安や悩みの相談相手の種類

不安や悩みが生じた場合の相談相手が「いる」と回答した人に対し、その相手を尋ねたところ、「家族・親族」と回答した割合が 94.0%と最も高く、次いで、「友人・知人」(49.7%)、「病院・診療所の医師」(17.9%)などとなっている。

「家族・親族」と回答した割合を男女、年齢階級別にみると、男性では 60 歳代及び 80 歳以上、女性では 30 歳代、70 歳代及び 80 歳以上で高くなっている。「友人・知人」は、男性の 30 歳代、50 歳代から 70 歳代、女性の 20 歳代から 50 歳代で高くなっている。

【図 1-46】 男女、年齢階級別不安や悩みの相談相手の種類【複数回答】

	n	家族・親族	友人・知人	自治会・町内会・近所の人	仕事・学校関係者(職場の同僚・学校の先生等)	各種相談支援機関	行政機関(区役所・支所)	NPO等の民間団体・ボランティア団体	社会福祉協議会	病院・診療所の医師	その他	無回答
全体	3,698	94.0	49.7	4.6	12.2	6.8	1.1	2.3	17.9	2.2	0.5	
男性/全体	1,520	93.5	42.0	4.1	14.4	6.6	1.4	2.4	18.8	2.2	0.5	
16~19歳	13	92.3	69.2	-	30.8	-	-	-	-	-	-	
20~29歳	13	100.0	76.9	-	38.5	7.7	-	-	7.7	-	-	
30~39歳	49	89.8	46.9	-	38.8	4.1	-	-	4.1	4.1	-	
40~49歳	116	89.7	38.8	-	31.9	3.4	-	-	12.1	4.3	-	
50~59歳	172	91.9	48.8	0.6	25.0	4.7	-	0.6	15.1	2.9	0.6	
60~69歳	354	94.9	45.2	4.2	20.1	8.2	2.5	1.7	17.5	1.7	0.8	
70~79歳	484	93.8	43.4	6.8	7.0	7.2	1.2	2.3	20.2	2.3	0.6	
80歳以上	284	95.4	29.9	4.2	2.1	7.0	2.5	5.3	27.1	1.1	-	
女性/全体	2,147	94.4	55.2	4.9	10.6	7.0	0.9	2.3	17.4	2.3	0.6	
16~19歳	6	100.0	83.3	-	33.3	-	-	-	16.7	-	-	
20~29歳	21	85.7	66.7	-	14.3	4.8	-	-	-	-	-	
30~39歳	90	95.6	72.2	3.3	30.0	5.6	-	-	12.2	3.3	-	
40~49歳	203	93.1	68.0	2.0	31.5	5.4	0.5	0.5	11.8	1.5	0.5	
50~59歳	270	93.7	69.3	3.0	21.9	4.4	0.4	1.5	12.2	3.0	0.7	
60~69歳	442	93.4	61.1	3.8	10.2	6.8	1.8	1.8	14.3	2.0	0.7	
70~79歳	578	95.5	55.7	6.1	3.6	8.5	1.0	2.2	19.4	2.1	0.5	
80歳以上	481	95.6	32.2	7.7	0.8	8.5	0.8	4.8	24.5	2.7	0.8	

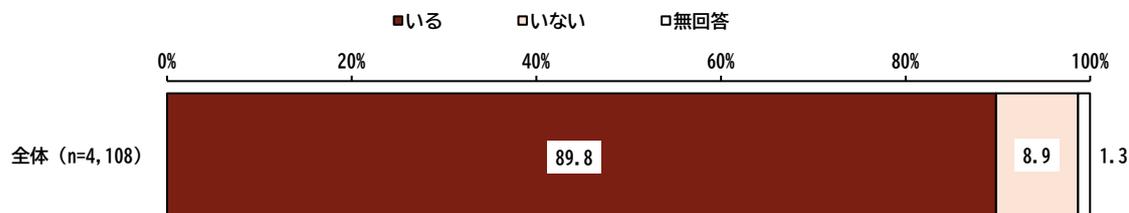
(集計対象:相談相手が「いる」と回答した 3,698 人)

(注)男性の「16~19歳」及び「20~29歳」、女性の「16~19歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

(43) 気軽に話せる相手の有無

ふだん気軽に話せる相手が「いる」と回答した人の割合は 89.8%、「いない」は 8.9%となっている。

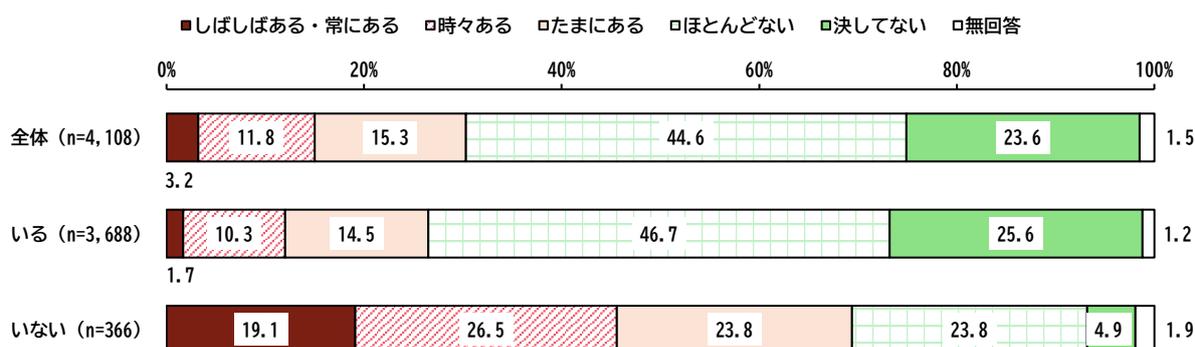
【図 1-47】 気軽に話せる相手の有無



(44) 気軽に話せる相手の有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、気軽に話せる相手が「いる」では 1.7%、「いない」では 19.1%となっている。

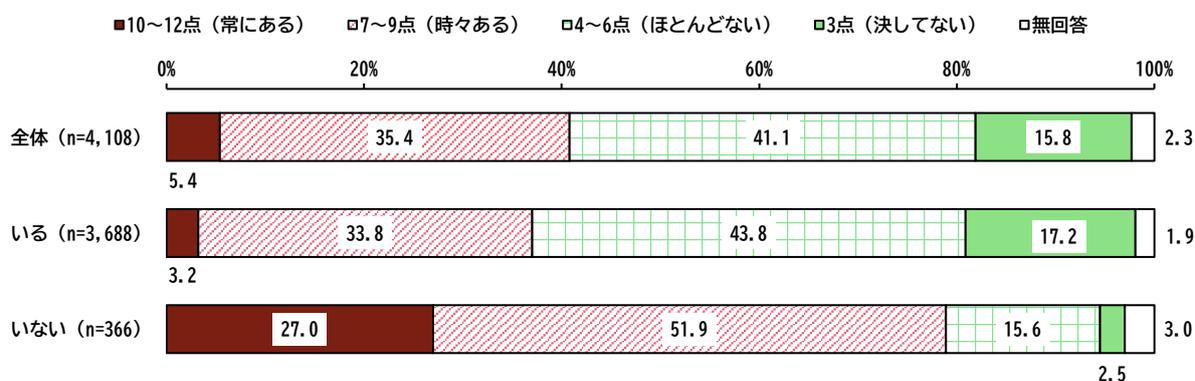
【図 1-48】 気軽に話せる相手の有無別孤独感(直接質問)



(45) 気軽に話せる相手の有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、気軽に話せる相手が「いる」では 3.2%、「いない」で 27.0%となっている。

【図 1-49】 気軽に話せる相手の有無別孤独感(間接質問)



(46) 孤独感(直接質問・間接質問)別不安や悩みを相談することへの感情

不安や悩みを相談することへの感情をみると、「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」と回答した割合が 68.5%と最も高く、次いで、「相談することで解決できる、または解決の手掛かりが得られる」(57.3%)などとなっている。

「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」と回答した割合は、直接質問による孤独感では「たまにある」及び「ほとんどない」で、間接質問による孤独感スコアでは「4～6点(ほとんどない)」及び「3点(決してない)」で高くなっている。

「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」と回答した割合は、直接質問による孤独感では「しばしばある・常にある」、間接質問による孤独感スコアでは「10～12点(常にある)」で高くなっている。

【図1-50】孤独感(直接質問・間接質問)別不安や悩みを相談することへの感情 【複数回答】

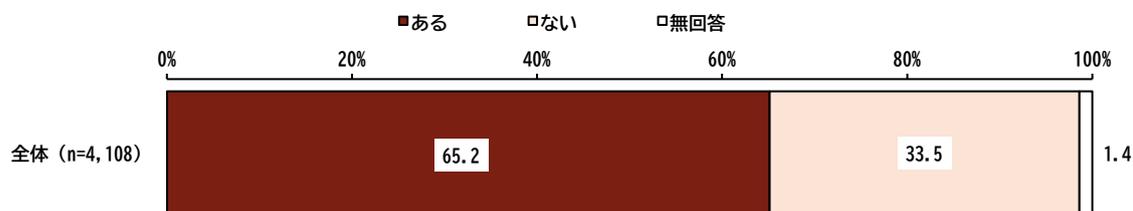
(%)

		n	手掛かりが得られる	楽になる	相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる	相談することが面倒である	相談することが恥ずかしい	相談すると相手の負担になる	相談しても無駄である(相談しても解決しない)	その他	無回答
全 体		4,108	57.3	68.5	7.1	3.9	8.3	8.7	3.2	2.2	
直接質問	しばしばある・常にある	132	22.0	40.9	16.7	13.6	25.8	41.7	9.1	1.5	
	時々ある	486	39.5	64.2	13.4	6.4	15.2	18.3	4.1	2.7	
	たまにある	628	44.7	72.6	9.6	6.5	13.9	11.9	3.0	2.4	
	ほとんどない	1,831	60.2	71.2	6.2	3.1	5.8	5.1	3.0	1.8	
	決してない	968	74.3	67.8	2.8	1.1	3.6	4.1	2.5	1.4	
間接質問	10～12点(常にある)	221	28.1	44.8	20.8	11.8	21.3	32.1	6.3	2.7	
	7～9点(時々ある)	1,454	45.9	68.9	10.5	6.3	12.9	13.1	3.6	1.9	
	4～6点(ほとんどない)	1,690	63.5	71.4	4.7	2.2	5.1	4.4	3.0	2.0	
	3点(決してない)	648	79.3	71.1	1.7	0.8	2.5	2.0	1.4	1.1	

(47) 不安や悩みの有無

不安や悩みが「ある」と回答した人の割合は 65.2%、「ない」は 33.5%となっている。

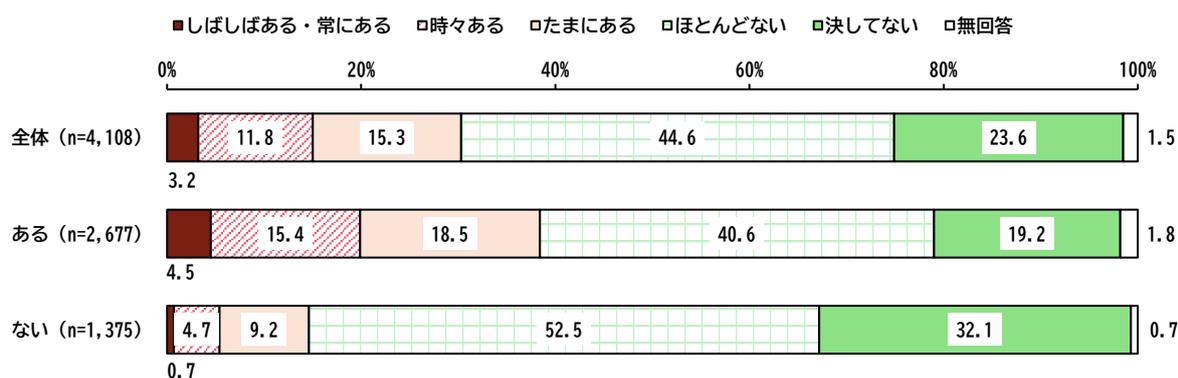
【図 1-51】 不安や悩みの有無



(48) 不安や悩みの有無別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、不安や悩みを感じていることが「ある」で 4.5%、「ない」で 0.7%となっている。

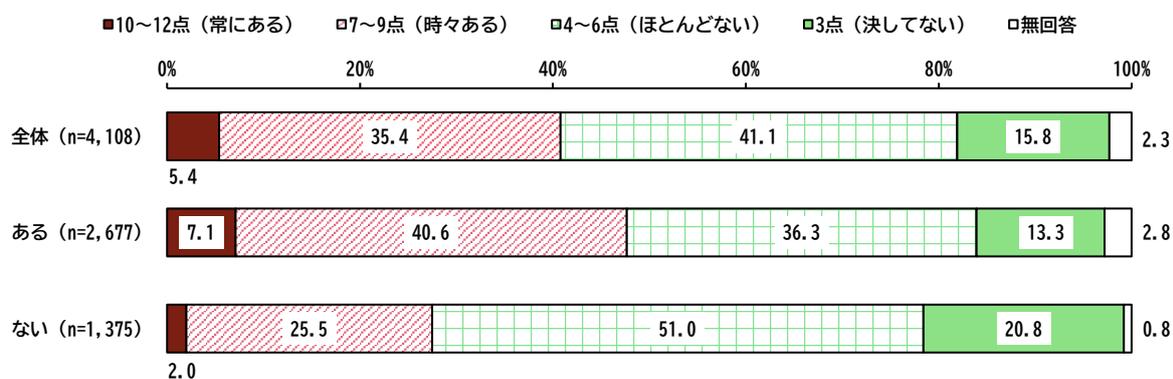
【図 1-52】 不安や悩みの有無別孤独感 (直接質問)



(49) 不安や悩みの有無別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12 点(常にある)」という人の割合は、不安や悩みを感じていることが「ある」で 7.1%、「ない」で 2.0%となっている。

【図 1-53】 不安や悩みの有無別孤独感 (間接質問)



※以下、(50)～(52)については、日常生活において不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した人を集計対象としている(P30 参照)。

(50) 孤独感(直接質問・間接質問)別不安や悩みの内容

不安や悩みの内容は、「自分の健康」と回答した割合が 65.7%と最も高く、次いで、「家族の健康、介護」(44.6%)、「収入や資産、老後の生活設計」(42.0%)などとなっている。

「自分の健康」と回答した割合は、直接質問による孤独感では「しばしばある・常にある」、「時々ある」及び「たまにある」で、間接質問による孤独感スコアでは「10～12 点(常にある)」及び「7～9点(時々ある)」で高くなっている。

「家族の健康、介護」と回答した割合は、間接質問による孤独感スコアが「10～12 点(常にある)」及び「7～9点(時々ある)」で高くなっている。

「収入や資産、老後の生活設計」と回答した割合は、直接質問による孤独感では「しばしばある・常にある」及び「時々ある」で、間接質問による孤独感スコアでは「10～12 点(常にある)」及び「7～9点(時々ある)」で高くなっている。

【図 1-54】 孤独感(直接質問・間接質問)別不安や悩みの内容【複数回答】

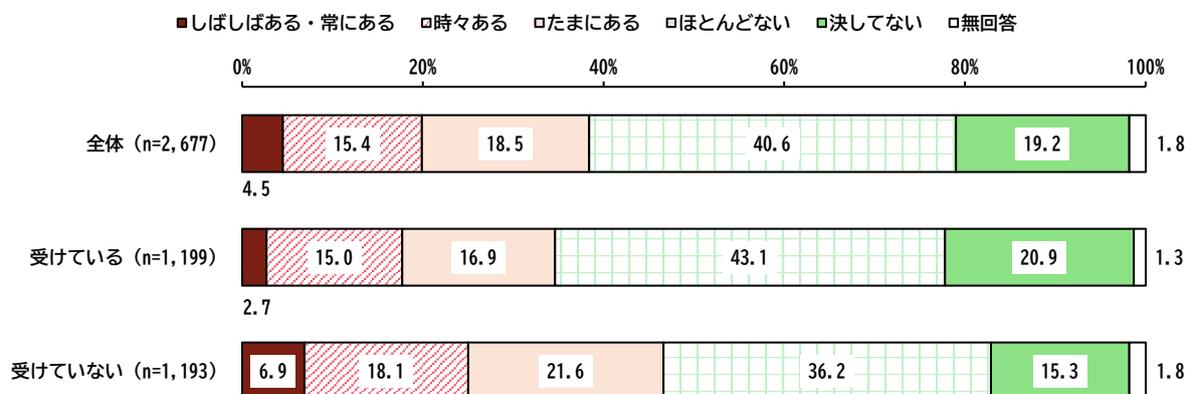
		(%)															
		n	自分の健康	家族の健康、介護	住まい	進学・就職・転職など、進路やキャリア上の問題	結婚、子育てなど、生活上の問題	収入や資産、老後の生活設計	家族・親族間の人間関係	近隣・地域との関係	学校や勤務先での人間関係	事業や家業の経営上の問題	金銭トラブル	自然災害や事故・事件などの被害	恋愛・性関係	その他	無回答
全体		2,677	65.7	44.6	16.4	8.8	8.7	42.0	13.3	3.9	6.6	5.0	2.0	10.0	1.9	4.0	9.7
直接質問	しばしばある・常にある	120	72.5	42.5	34.2	17.5	15.0	63.3	30.8	13.3	18.3	7.5	12.5	15.0	9.2	5.8	0.8
	時々ある	413	74.6	46.0	23.2	12.3	11.1	50.4	19.4	8.2	9.2	5.1	2.7	13.3	3.9	6.8	3.4
	たまにある	495	73.7	45.1	17.8	9.9	10.1	43.0	15.4	3.4	8.1	4.2	2.2	12.3	1.2	3.6	4.6
	ほとんどない	1,087	62.7	46.4	13.5	6.5	6.9	38.5	10.4	2.2	4.9	4.0	1.3	9.0	1.2	3.0	12.1
	決してない	514	55.3	41.6	10.3	8.2	8.4	39.3	8.8	2.5	4.7	7.8	1.2	6.4	1.0	3.3	15.4
間接質問	10～12点(常にある)	189	75.7	47.6	33.9	18.0	11.1	61.9	19.6	12.2	12.7	6.9	7.4	14.3	6.9	7.4	1.1
	7～9点(時々ある)	1,086	71.4	48.2	18.8	10.2	10.7	46.3	16.9	5.2	8.9	4.4	2.9	11.6	2.5	4.1	5.2
	4～6点(ほとんどない)	972	59.9	41.5	11.4	6.5	7.0	35.1	10.0	1.5	3.8	5.0	0.5	9.2	0.7	3.4	13.8
	3点(決してない)	356	59.6	42.1	12.1	7.0	7.6	40.4	9.0	2.5	5.1	7.0	1.1	6.2	0.8	2.5	15.2

(集計対象:不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した 2,677 人)

(51) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、家族・友人等からの手助けを「受けている」で2.7%、「受けていない」で6.9%となっている。

【図1-55】不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別孤独感(直接質問)

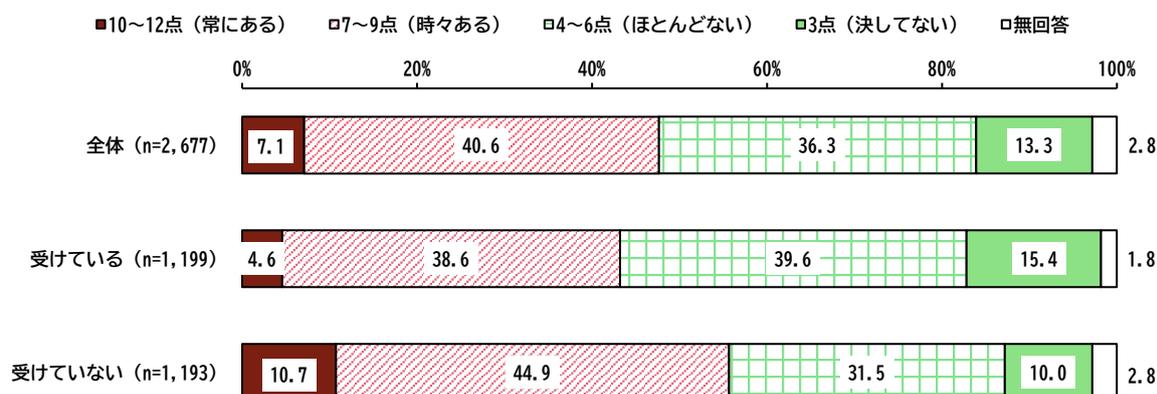


(集計対象:不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した2,677人)

(52) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、家族・友人等からの手助けを「受けている」で4.6%、「受けていない」で10.7%となっている。

【図1-56】不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別孤独感(間接質問)

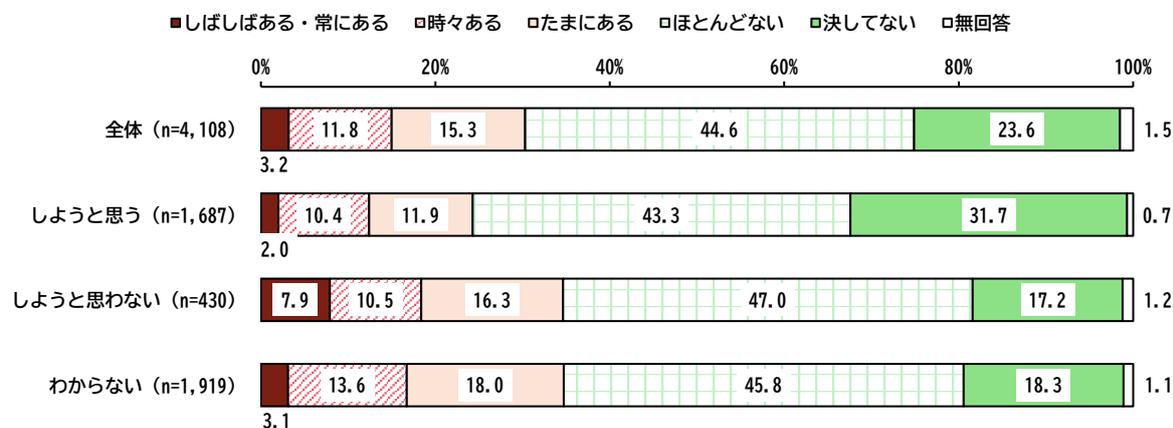


(集計対象:不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した2,677人)

(53) 他者へのサポート意識別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、手助けを「しようと思う」で2.0%、「しようと思わない」で7.9%となっている。

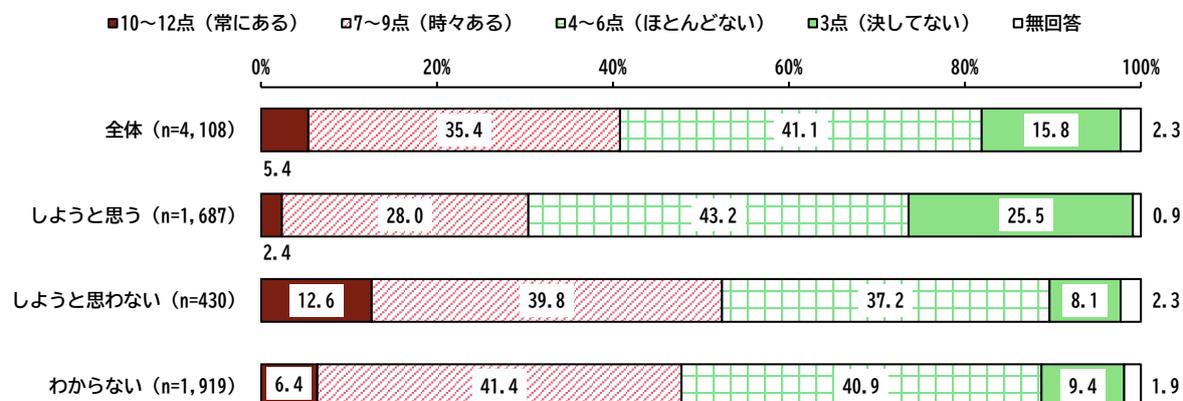
【図1-57】 他者へのサポート意識別孤独感(直接質問)



(54) 他者へのサポート意識別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、手助けを「しようと思う」で2.4%、「しようと思わない」で12.6%となっている。

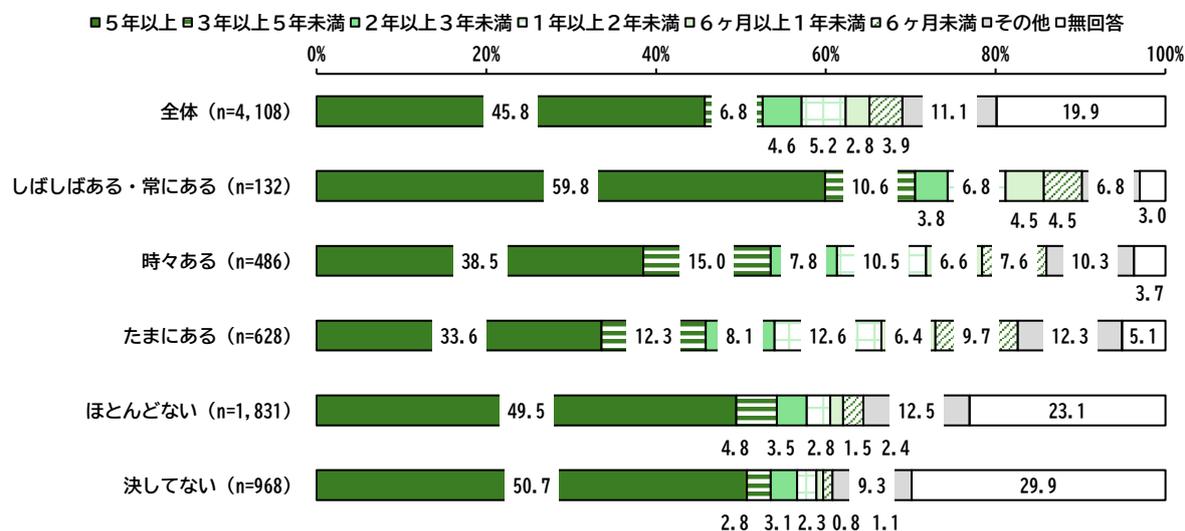
【図1-58】 他者へのサポート意識別孤独感(間接質問)



(55) 孤独感(直接質問)別現在の孤独感の継続期間

現在の孤独感の継続期間をみると、全体的に「5年以上」と回答した割合が高く、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人では 59.8%となっている。

【図 1-59】 孤独感(直接質問)別現在の孤独感の継続期間

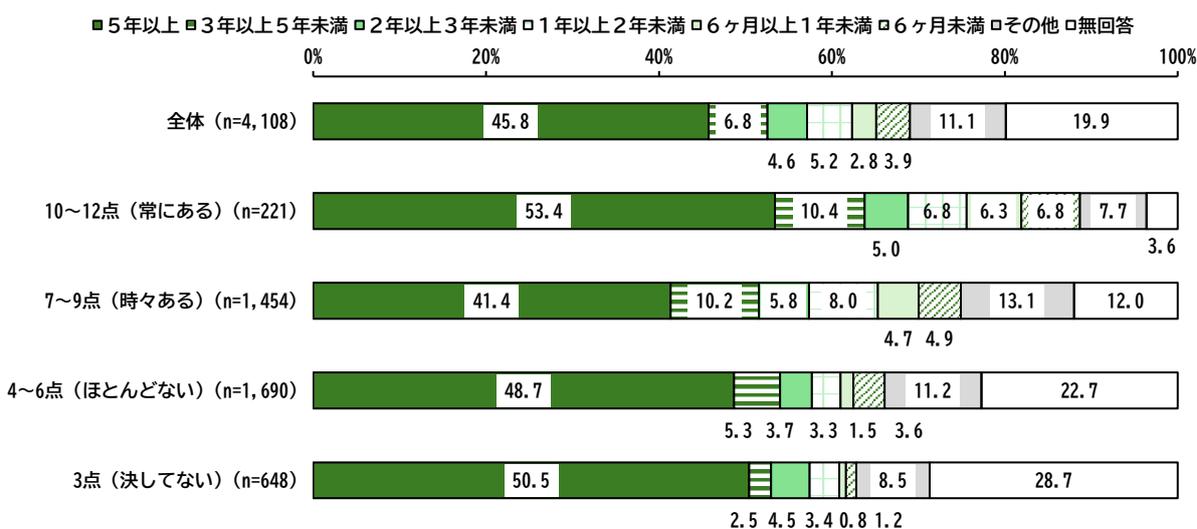


(注) 問 28(あなたはどの程度、孤独であると感じるがありますか。)への回答に関し、その状況がどの程度前から続いているのか、全ての回答者を対象として尋ねたもの(P4 参照)。

(56) 孤独感(間接質問)別現在の孤独感の継続期間

現在の孤独感の継続期間をみると、全体的に「5年以上」と回答した割合が高く、孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人では 53.4%となっている。

【図 1-60】 孤独感(間接質問)別現在の孤独感の継続期間



(注) 問 28(あなたはどの程度、孤独であると感じるがありますか。)への回答に関し、その状況がどの程度前から続いているのか、全ての回答者を対象として尋ねたもの(P4 参照)。

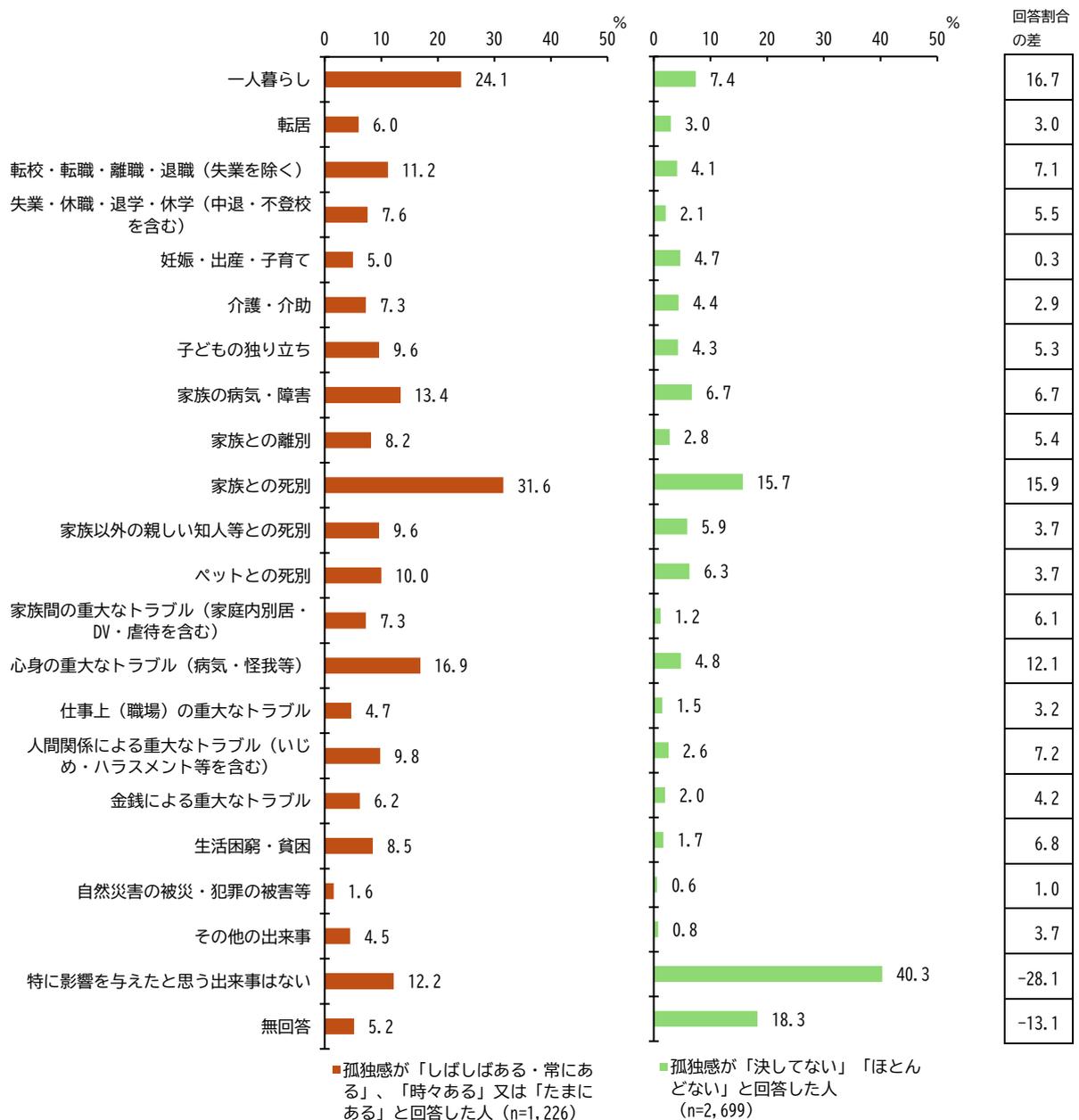
※以下、(57)～(58)については、これまでに経験したライフイベントで「いずれもない」以外を1つでも回答している人を集計対象としている(P83 問30 参照)。

(57) 孤独感(直接質問／2区分)別孤独感に影響を与えたと思う出来事

孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人では、「家族との死別」と回答した割合が31.6%と最も高く、次いで、「一人暮らし」(24.1%)などとなっている。

孤独感が「決してない」又は「ほとんどない」と回答した人で、現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事の回答割合の差をみると、「一人暮らし」が最も大きく、次いで、「家族との死別」、「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)」などとなっている。

【図1-61】孤独感(直接質問／2区分)別孤独感に影響を与えたと思う出来事【複数回答】



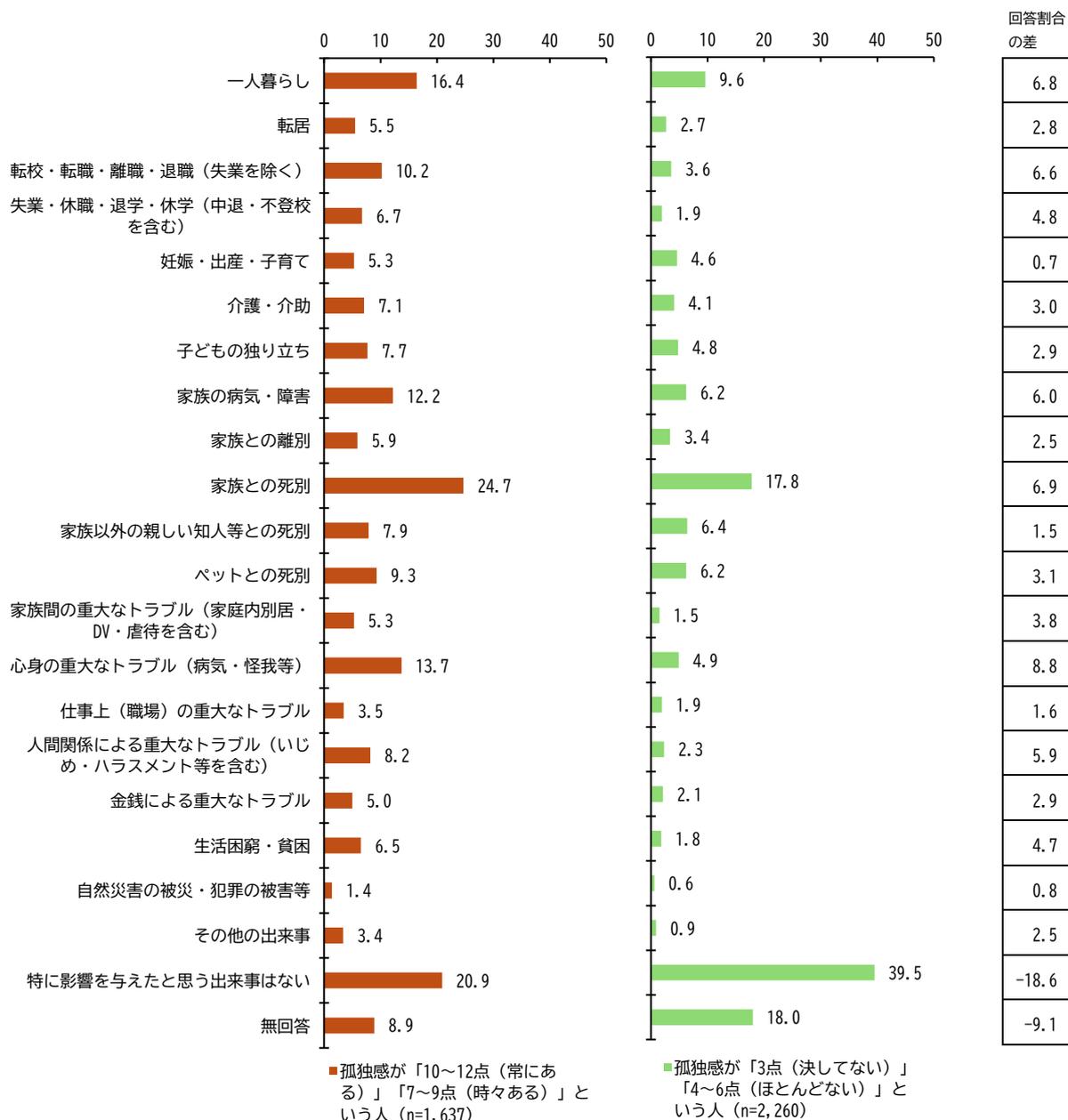
(集計対象:これまでに経験したライフイベントで「いずれもない」以外を1つ以上回答した 3,969 人)

(58) 孤独感(間接質問／2区分)別孤独感に影響を与えたと思う出来事

孤独感スコアが「10～12点(常にある)」又は「7～9点(時々ある)」という人では、「家族との死別」と回答した割合が24.7%と最も高く、次いで、「一人暮らし」(16.4%)などとなっている。

孤独感スコアが「3点(決してない)」又は「4～6点(ほとんどない)」という人で、現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事の回答割合の差をみると、「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)」が最も大きく、次いで、「家族との死別」、「一人暮らし」などとなっている。

【図1-62】孤独感(間接質問／2区分)別孤独感に影響を与えたと思う出来事【複数回答】

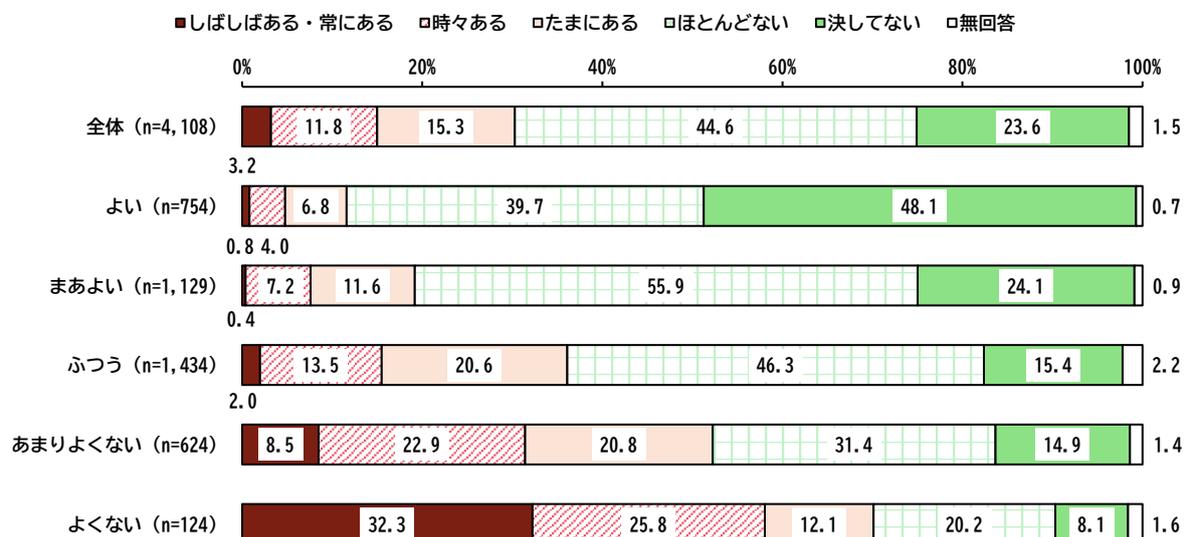


(集計対象:これまでに経験したライフイベントで「いずれもない」以外を1つ以上回答した3,969人)

(59) 心身の健康状態別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、心身の健康状態が「よくない」及び「あまりよくない」で高くなっている。

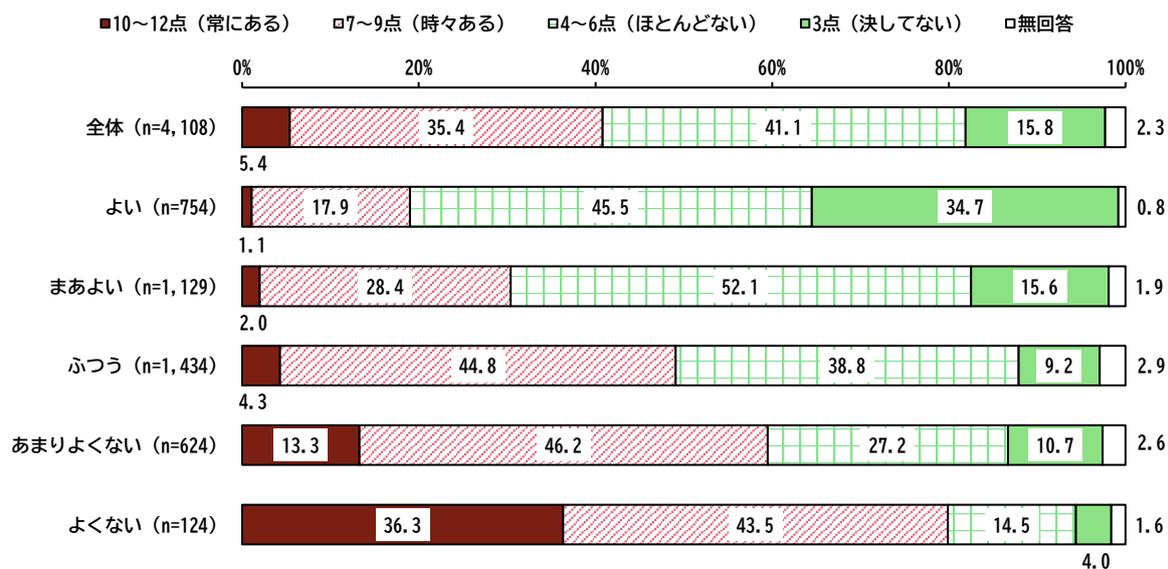
【図 1-63】 心身の健康状態別孤独感 (直接質問)



(60) 心身の健康状態別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10~12点(常にある)」という人の割合は、心身の健康状態が「よくない」及び「あまりよくない」で高くなっている。

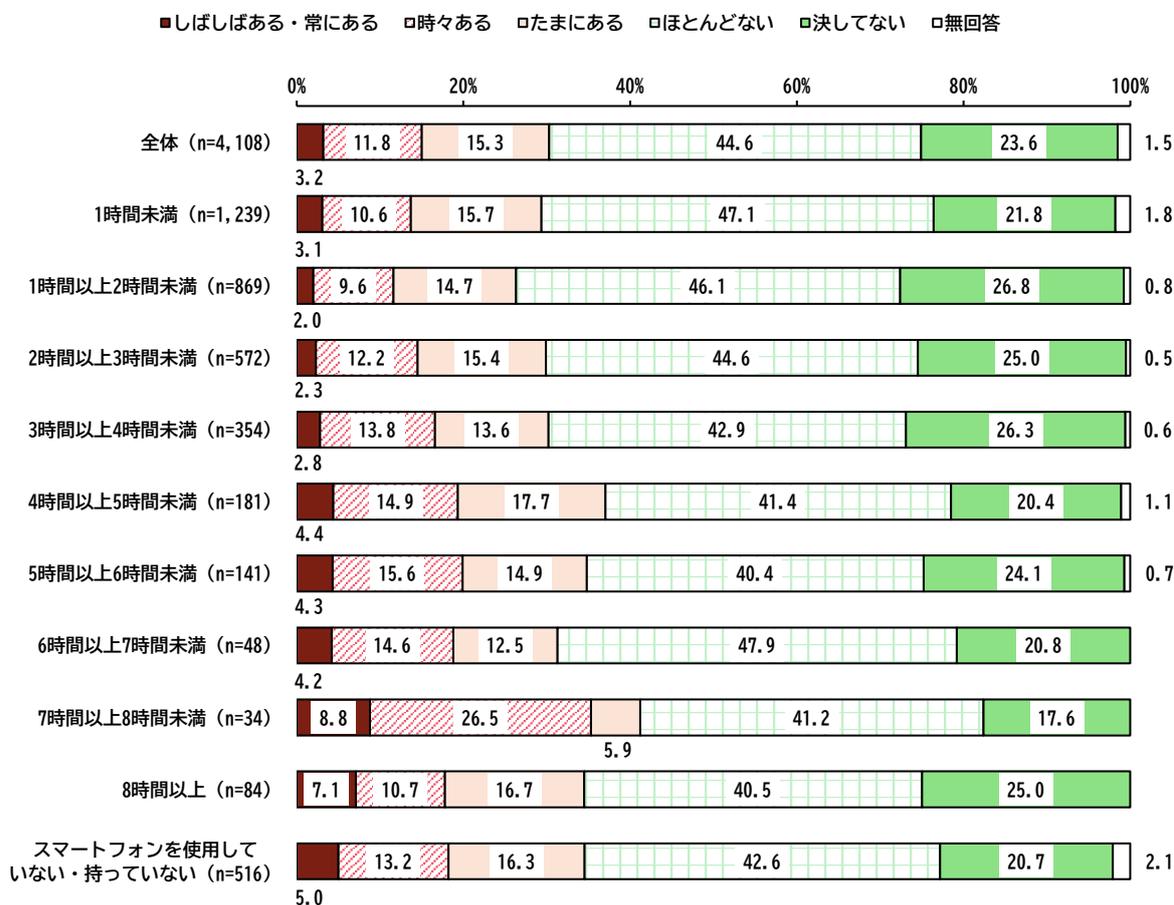
【図 1-64】 心身の健康状態別孤独感 (間接質問)



(61) スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「7時間以上8時間未満」、「8時間以上」及び「スマートフォンを使用していない・持っていない」で高くなっている。

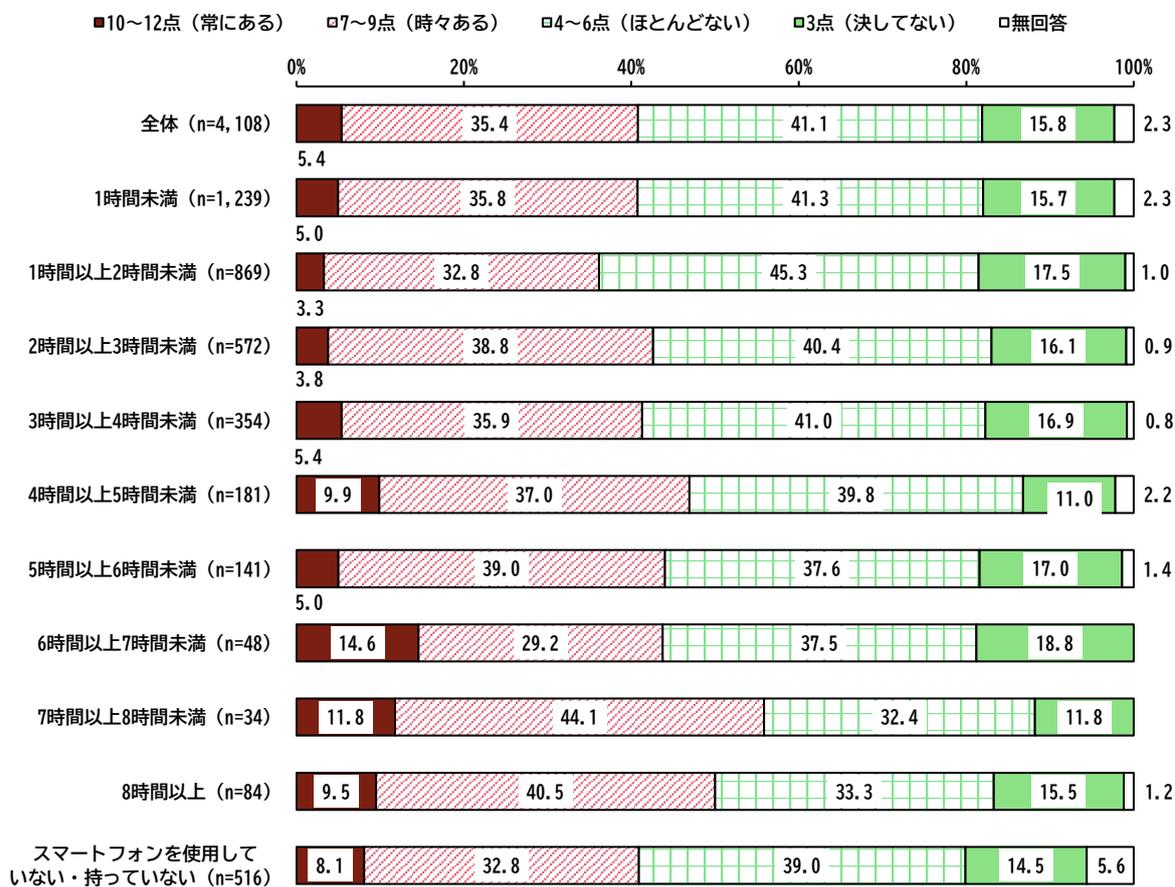
【図1-65】 スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)別孤独感(直接質問)



(62) スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10～12点(常にある)」という人の割合は、「4時間以上5時間未満」、「6時間以上7時間未満」、「7時間以上8時間未満」及び「8時間以上」で高くなっている。

【図1-66】 スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)別孤独感(間接質問)

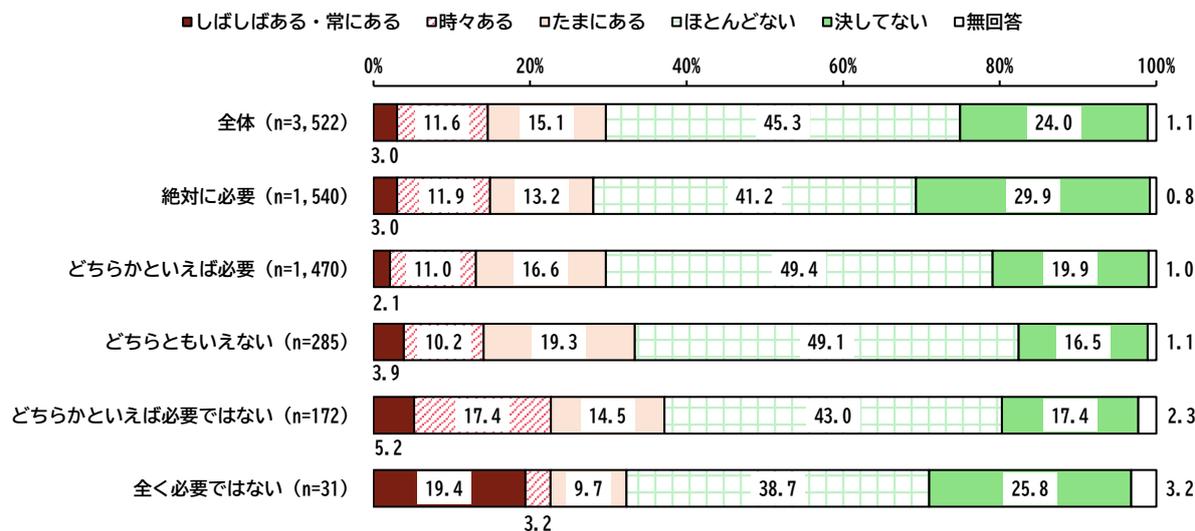


※以下、(63)～(64)については、スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)を回答している人を集計対象としている(P38～39 問 33 参照)。

(63) 生活を送るうえでのスマートフォンの必要性別孤独感(直接質問)

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「全く必要ではない」で高くなっている。一方、孤独感が「決してない」と回答した人の割合は、「絶対に必要」で高くなっている。

【図1-67】生活を送るうえでのスマートフォンの必要性別孤独感(直接質問)

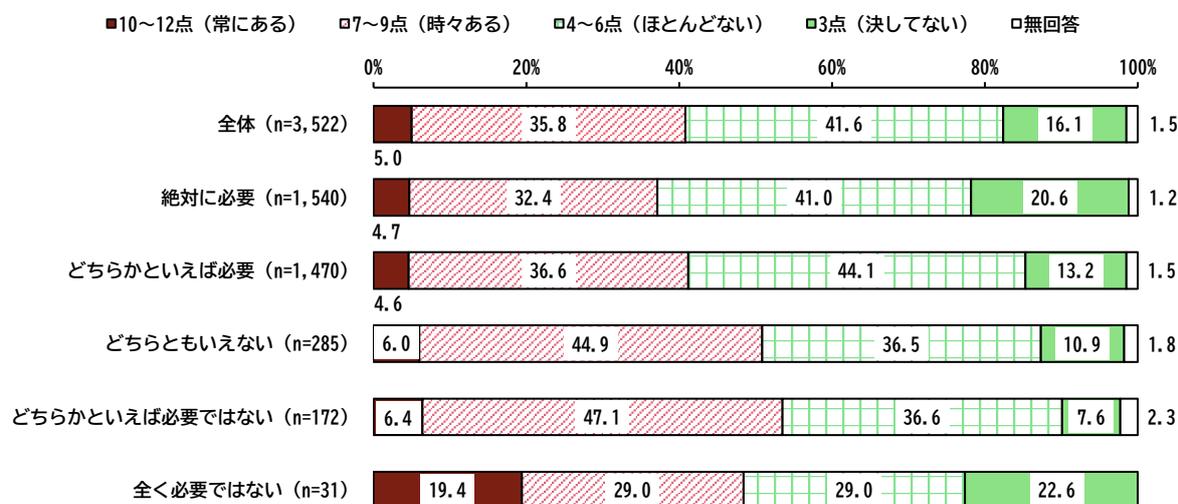


(集計対象:スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)を回答した 3,522 人)

(64) 生活を送るうえでのスマートフォンの必要性別孤独感(間接質問)

孤独感スコアが「10～12 点(常にある)」という人の割合は、「全く必要ではない」で高くなっている。一方、孤独感スコアが「3点(決してない)」という人の割合は、「全く必要ではない」が最も高く、次いで「絶対に必要」などとなっている。

【図1-68】生活を送るうえでのスマートフォンの必要性別孤独感(間接質問)



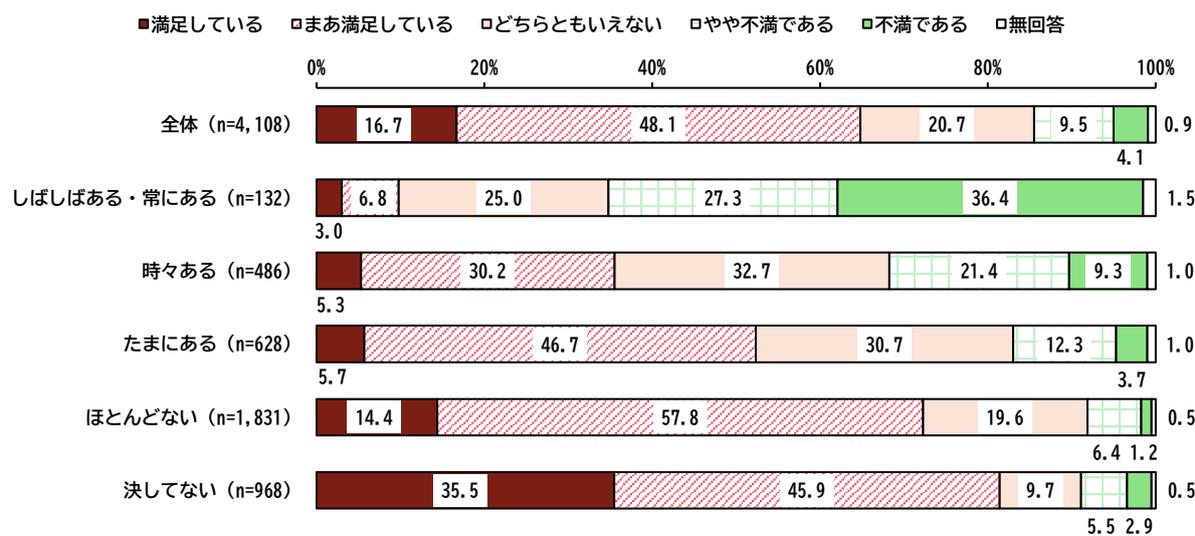
(集計対象:スマートフォンの使用時間(画面を見る時間)を回答した 3,522 人)

(65) 孤独感(直接質問)別生活満足度

現在の生活に「満足している」と回答した人の割合は 16.7%、「まあ満足している」が 48.1%となっている。一方、「不満である」と回答した人の割合は 4.1%、「やや不満である」が 9.5%となっている。

現在の生活に「満足している」と回答した人の割合は、孤独感が「ほとんどない」及び「決してない」で高くなっている。一方、「不満である」と回答した人の割合は、孤独感が「しばしばある・常にある」で高くなっている。

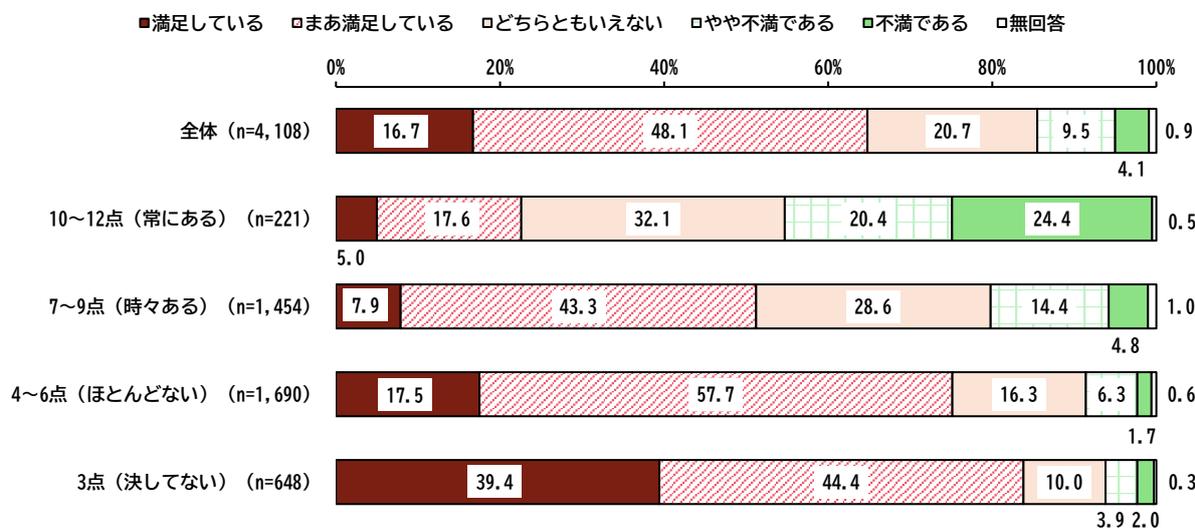
【図 1-69】 孤独感(直接質問)別生活満足度



(66) 孤独感(間接質問)別生活満足度

現在の生活に「満足している」と回答した人の割合は、孤独感スコアが「3点(決してない)」及び「4~6点(ほとんどない)」で高くなっている。一方、「不満である」と回答した人の割合は、スコアが「10~12点(常にある)」で高くなっている。

【図 1-70】 孤独感(間接質問)別生活満足度

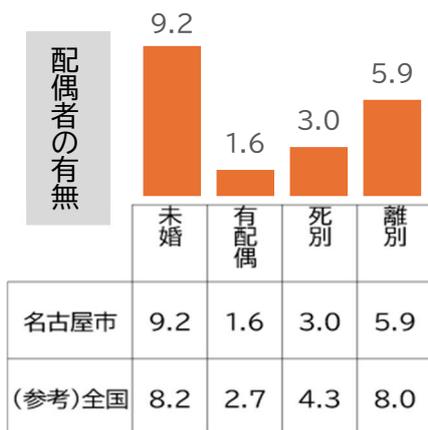
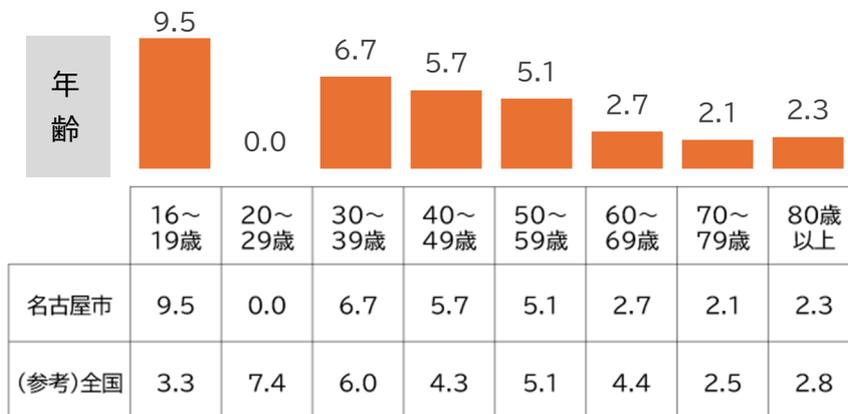


【参考】孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合に関する主な属性別結果

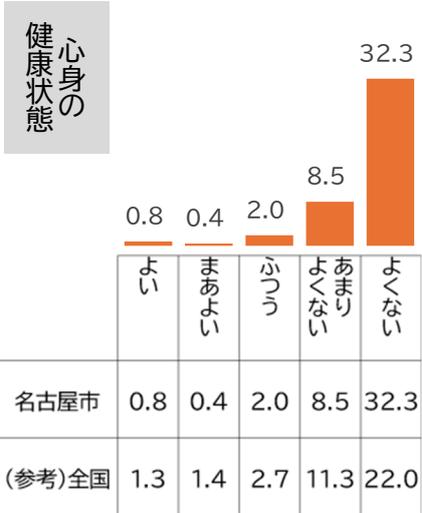
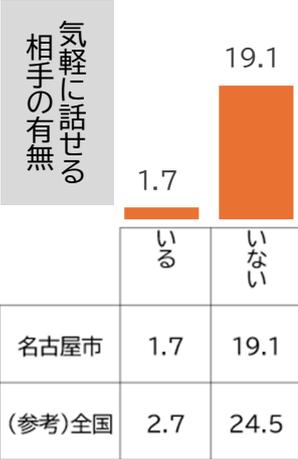
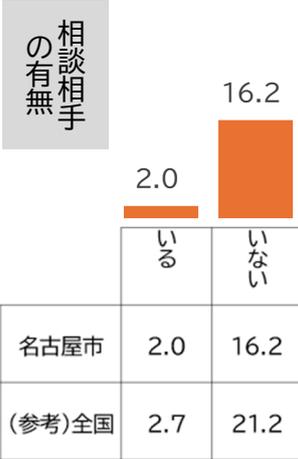
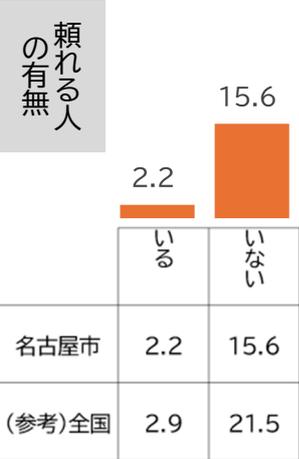
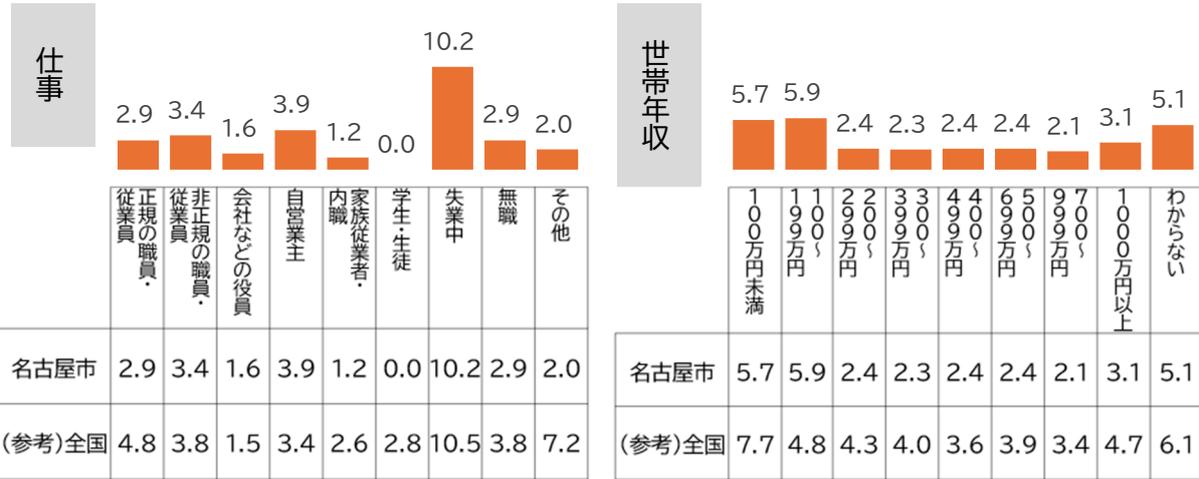
あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。



	名古屋市	(参考)全国
しばしばある・常にある	3.2%	4.3%
時々ある	11.8%	15.4%
たまにある	15.3%	19.6%
ほとんどない	44.6%	40.6%
決していない	23.6%	18.4%
無回答	1.5%	1.6%



【参考】孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合に関する主な属性別結果（続き）



2 孤立の状況

本調査では、社会的交流(家族・友人等との接触状況等)、社会参加、社会的サポート(他者からの支援/他者への手助け)の状況から孤立の状態を把握した。

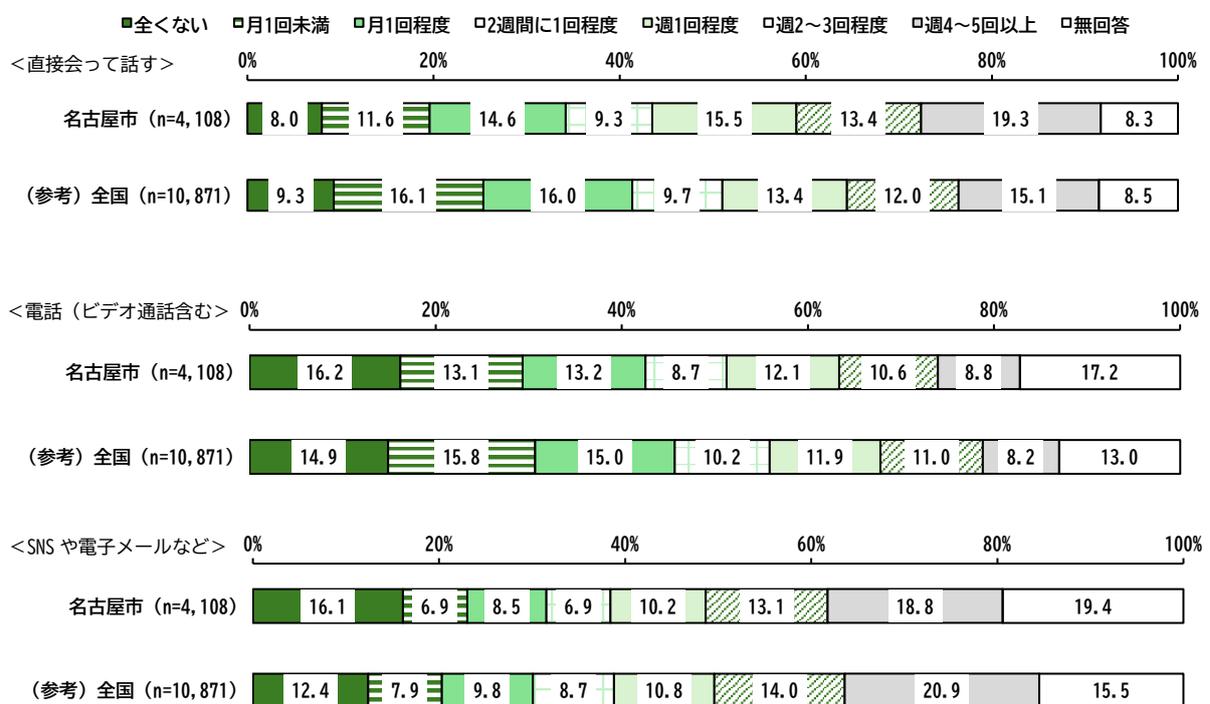
(1) 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度(社会的交流)

コミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合は、「直接会って話す」で8.0%、「電話(ビデオ通話含む)」で16.2%、「SNSや電子メールなど」で16.1%となっている。

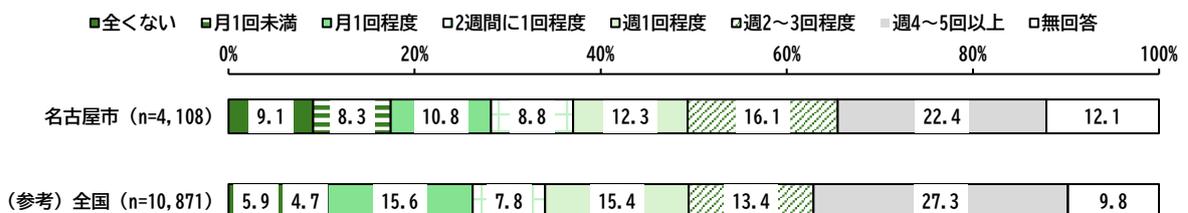
全国調査と比較すると、「直接会って話す」で「週4~5回以上」、「電話(ビデオ通話含む)」及び「SNSや電子メールなど」で「全くない」と回答した人の割合が特に高くなっている。

「直接会って話す」を全国調査と比較すると、「週4~5回以上」と回答した人の割合が高くなっている。

【図2-1】同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度(名古屋市、全国)



【図2-1参考】同居していない家族や友人たちとの非対面型ツールによるコミュニケーション頻度(名古屋市、全国)



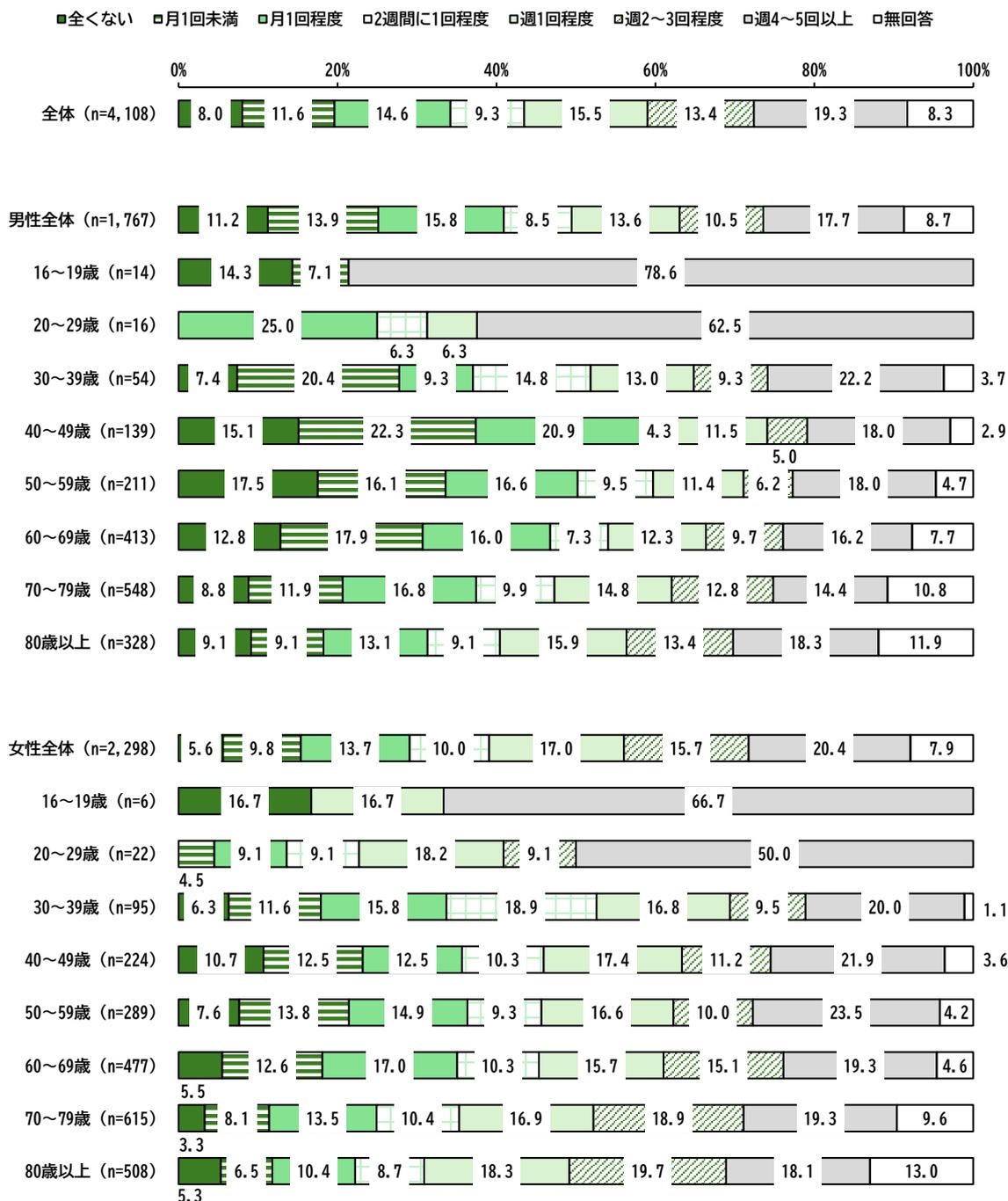
(注)「電話(ビデオ通話含む)」と「SNSや電子メールなど」へのそれぞれの回答を合算し、非対面型ツールの交流頻度として組み替えたもの。

(2) 男女、年齢階級別同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度（社会的交流）

「図2-2」から「図2-4」までは、コミュニケーション手段、男女、年齢階級別の同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度を示している。

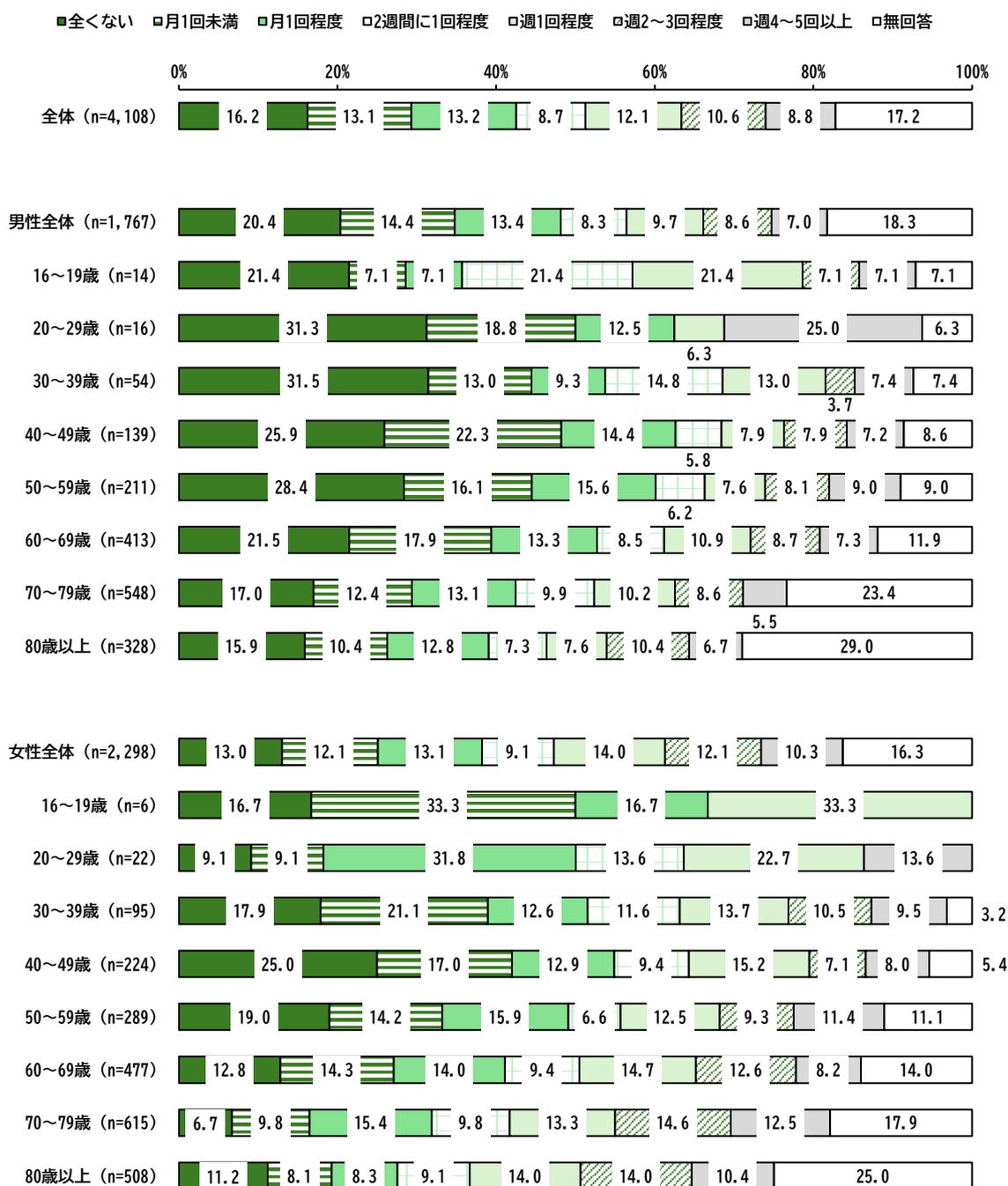
コミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合をみると、コミュニケーション手段「直接会って話す」では、男女ともに40歳代及び50歳代で、「電話(ビデオ通話含む)」では、男女ともに30歳代から50歳代で、「SNSや電子メールなど」では、男女ともに80歳以上で高くなっている。

【図2-2】男女、年齢階級別「直接会って話す」頻度



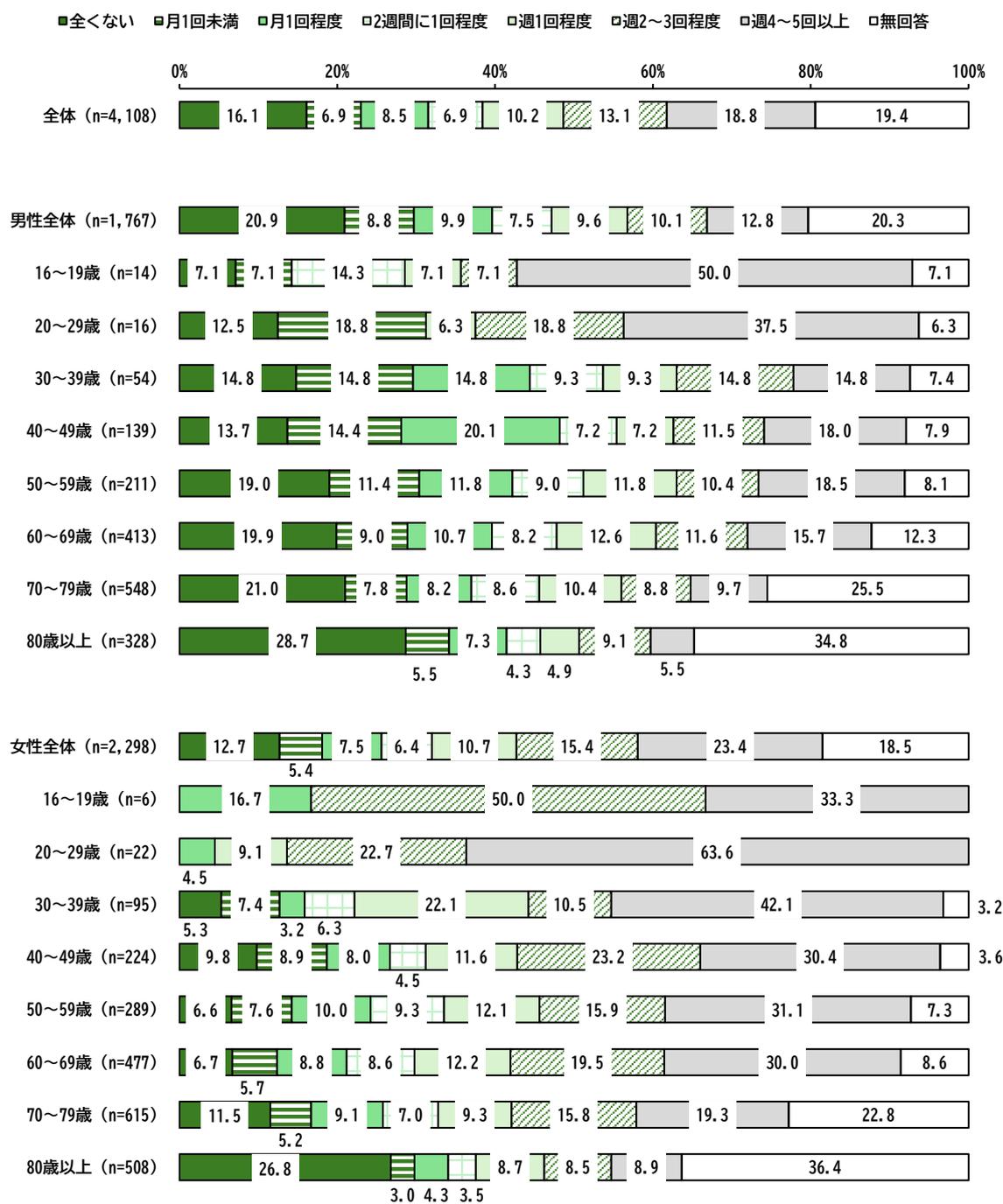
(注) 男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

【図2-3】男女、年齢階級別「電話（ビデオ通話含む）する」頻度



(注)男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

【図2-4】男女、年齢階級別「SNSや電子メールなどをする」頻度



(注)男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

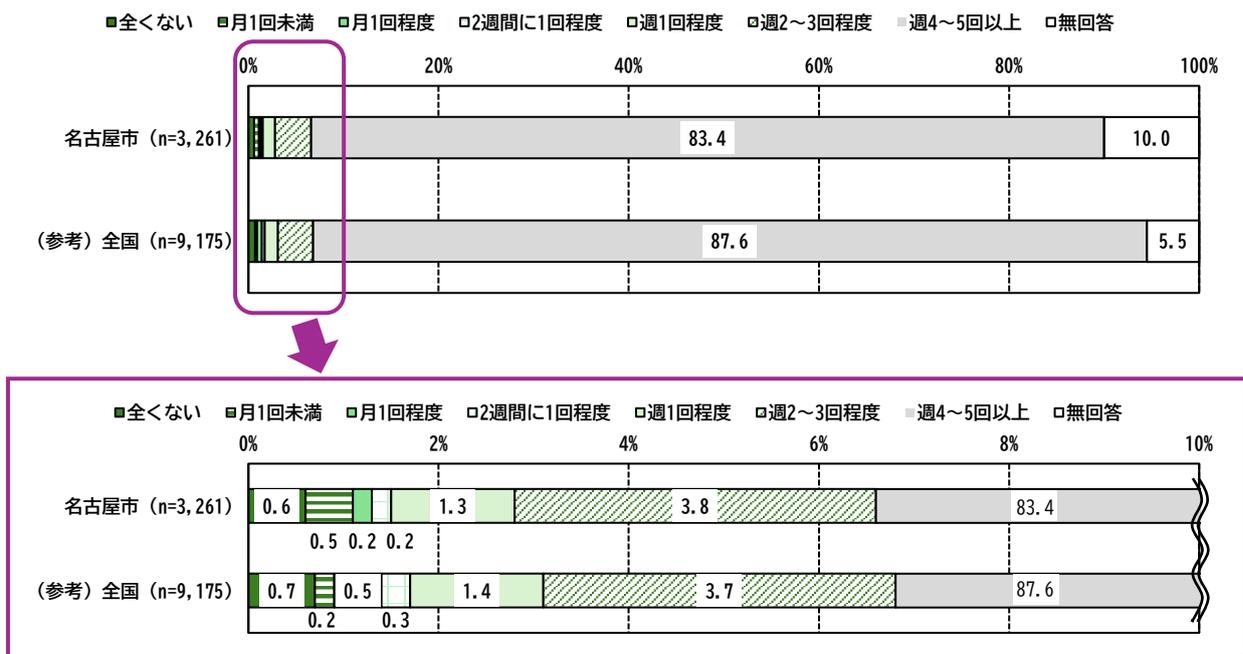
※以下、(3)及び(4)については、同居人がいると判定した人を集計対象としている(P11 参照)。

(3) 同居している人たちとの直接会話によるコミュニケーション頻度(社会的交流)

同居している人たちと直接会って話す頻度は、「週4～5回以上」と回答した人の割合が 83.4%となっている。

直接会って話す頻度が「全くない」と回答した人の割合は 0.6%となっており、全国調査と比較して差異はみられない。

【図2-5】同居している人たちとの直接会話によるコミュニケーション頻度(名古屋市、全国)



(集計対象:同居人がいると判定した 3,261 人)

(4) 男女、年齢階級別同居している人たちとのコミュニケーション頻度(社会的交流)

同居している人たちと直接会って話す頻度が「全くない」と回答した人の割合は、男性が 0.8%、女性が 0.3%となっている。

【図2-6】男女、年齢階級別同居している人たちとの直接会話によるコミュニケーション頻度 (%)

	n	全くない	月1回未満	月1回程度	2週間に1回程度	週1回程度	週2～3回程度	週4～5回以上	無回答
全体	3,261	0.6	0.5	0.2	0.2	1.3	3.8	83.4	10.0
男性/全体	1,475	0.8	0.6	0.3	0.3	1.6	4.0	82.3	10.2
16～19歳	13	-	-	-	-	-	-	92.3	7.7
20～29歳	11	9.1	-	-	-	-	-	72.7	18.2
30～39歳	49	-	-	-	-	-	6.1	89.8	4.1
40～49歳	131	0.8	-	-	-	2.3	3.8	90.8	2.3
50～59歳	176	0.6	0.6	0.6	-	-	3.4	91.5	3.4
60～69歳	325	0.3	0.3	0.3	0.3	1.2	5.2	88.0	4.3
70～79歳	469	0.9	0.6	0.2	0.2	0.9	3.8	79.3	14.1
80歳以上	271	1.1	1.1	0.4	0.4	2.6	3.0	72.0	19.6
女性/全体	1,755	0.3	0.4	0.1	0.2	1.1	3.6	84.2	10.0
16～19歳	5	-	-	-	-	-	-	100.0	-
20～29歳	21	-	-	-	-	-	4.8	90.5	4.8
30～39歳	86	-	-	-	-	-	-	93.0	7.0
40～49歳	207	-	-	-	-	0.5	2.4	93.2	3.9
50～59歳	253	0.4	0.4	0.4	-	0.4	2.8	92.5	3.2
60～69歳	330	0.5	0.5	-	0.3	1.3	2.1	89.5	5.9
70～79歳	459	0.2	0.4	-	0.4	1.3	5.0	76.9	15.7
80歳以上	287	0.3	0.3	0.3	0.3	2.1	6.3	73.5	16.7

(集計対象:同居人がいると判定した3,261人)

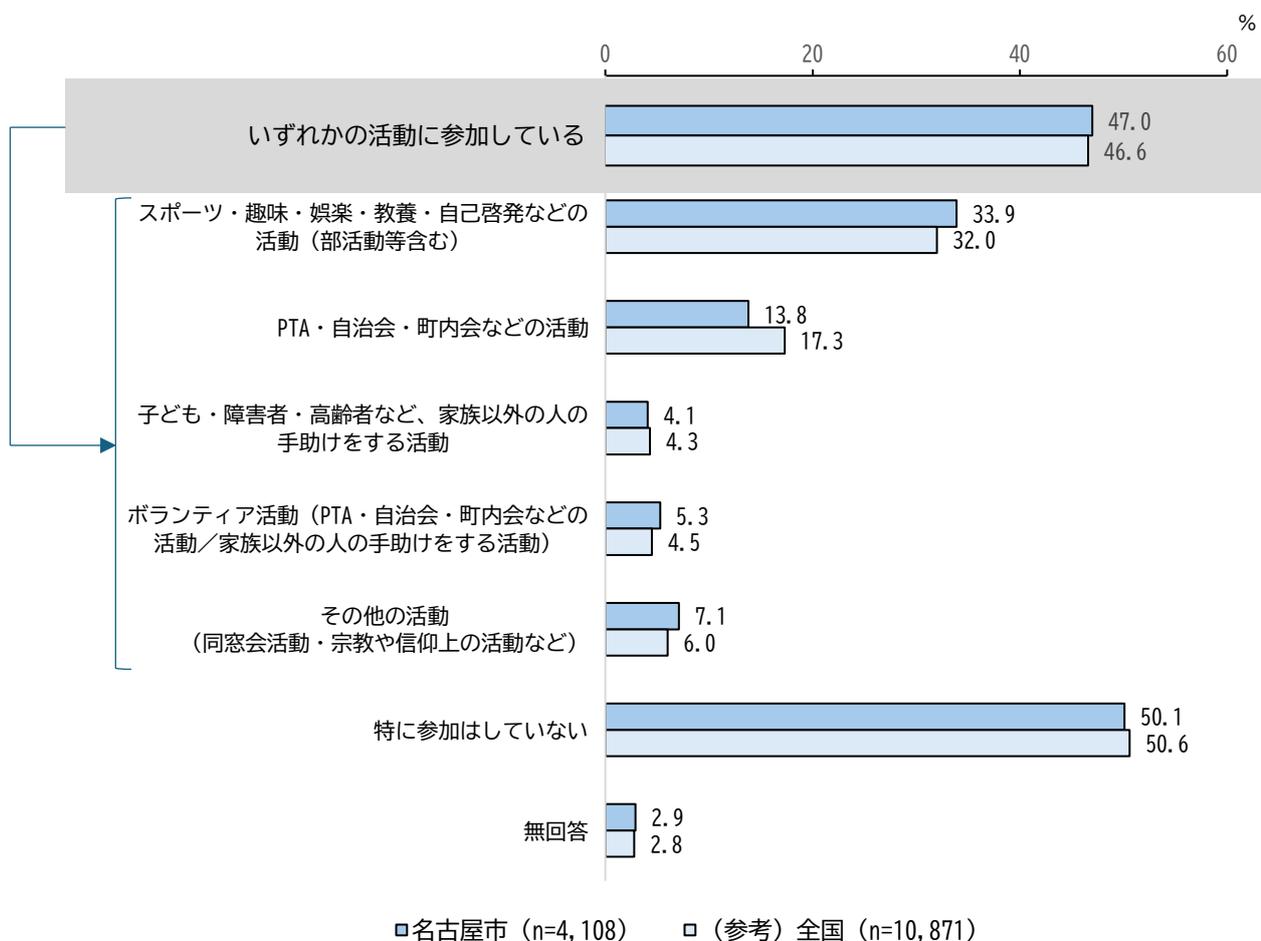
(注)男性及び女性の「16～19歳」及び男性の「20～29歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

(5) 社会活動への参加状況(社会参加)

社会活動への参加状況をみると、「いずれかの活動に参加している」で 47.0%、「特に参加はしていない」で 50.1%となっている。

全国調査と比較すると、「いずれかの活動に参加している」及び「特に参加はしていない」ともに割合に差異はみられない。

【図2-7】社会活動への参加状況【複数回答】(名古屋市、全国)



(注)回答選択肢「1 PTA・自治会・町内会などの活動」から「5 その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など)」のいずれかに回答があった者を「いずれかの活動に参加している」として集計。

(6) 男女、年齢階級別社会活動への参加状況(社会参加)

社会活動への参加状況について、「特に参加はしていない」と回答した割合は、男性が 51.6%、女性が 49.2%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性の 40 歳代及び 50 歳代、女性の 20 歳代から 50 歳代及び 80 歳以上で高くなっている。

【図 2-8】男女、年齢階級別社会活動への参加状況【複数回答】

	n	PTA・自治会・町内会などの活動	子ども・障害者・高齢者など、家族以外の人の手助けをする活動	ボランティア活動(PTA・自治会・町内会などの活動/家族以外の人の手助けをする活動)	スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動(部活動等含む)	その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など)	特に参加はしていない	無回答	いずれかの活動に参加している
全体	4,108	13.8	4.1	5.3	33.9	7.1	50.1	2.9	47.0
男性/全体	1,767	13.5	2.9	5.9	33.0	8.0	51.6	2.5	46.0
16~19歳	14	-	-	7.1	64.3	7.1	28.6	-	71.4
20~29歳	16	-	-	-	31.3	6.3	62.5	-	37.5
30~39歳	54	14.8	1.9	3.7	40.7	9.3	44.4	-	55.6
40~49歳	139	9.4	1.4	2.9	28.1	2.2	61.9	1.4	36.7
50~59歳	211	10.9	4.7	4.3	27.5	4.3	60.2	2.8	37.0
60~69歳	413	14.5	2.9	6.1	34.9	8.2	49.9	1.0	49.2
70~79歳	548	17.2	3.5	7.7	34.5	12.4	46.9	1.8	51.3
80歳以上	328	11.9	1.8	4.9	32.3	6.4	51.8	6.4	41.8
女性/全体	2,298	14.1	5.0	4.9	34.6	6.4	49.2	3.1	47.7
16~19歳	6	-	16.7	-	50.0	-	50.0	-	50.0
20~29歳	22	4.5	-	9.1	27.3	-	59.1	-	40.9
30~39歳	95	12.6	6.3	-	21.1	7.4	58.9	2.1	38.9
40~49歳	224	18.3	4.9	2.2	32.6	2.7	53.1	1.3	45.5
50~59歳	289	15.9	6.6	2.4	31.8	4.8	52.6	0.3	47.1
60~69歳	477	17.4	6.7	4.8	40.5	8.4	43.2	1.5	55.3
70~79歳	615	14.1	5.4	8.0	39.7	9.3	42.9	3.1	54.0
80歳以上	508	9.6	2.4	4.3	27.6	3.5	56.9	6.9	36.2

(注)回答選択肢「1 PTA・自治会・町内会などの活動」から「5 その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など)」のいずれかに回答があった者を「いずれかの活動に参加している」として集計。

(注)男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

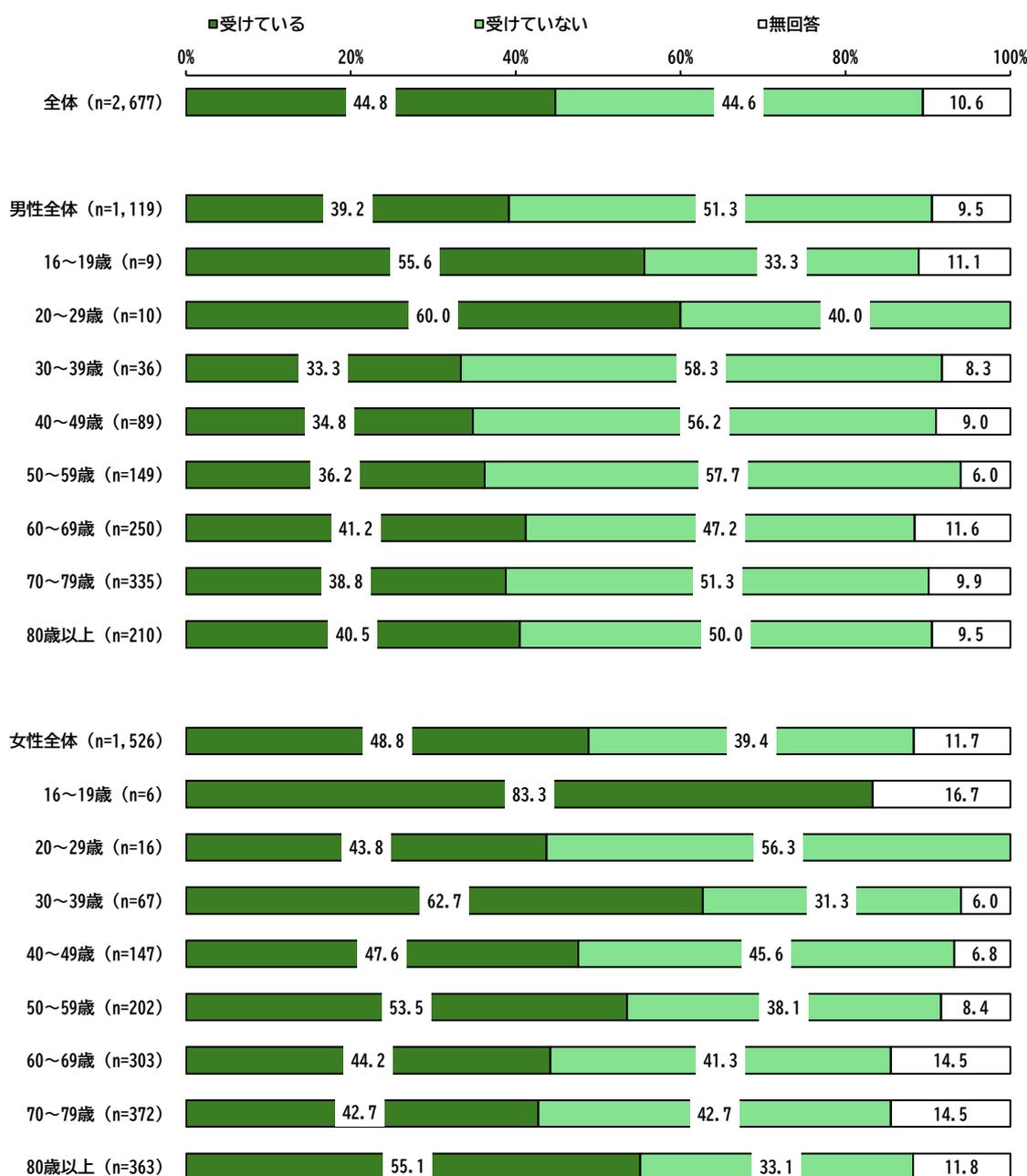
※以下、(7)～(11)については、日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した人を集計対象としている(P30 参照)。

(7) 男女、年齢階級別不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況 (社会的サポート)

日常生活で感じている不安や悩みについて、家族・友人等からの手助けを「受けている」と回答した人の割合は44.8%、「受けていない」は44.6%となっている。

手助けを「受けていない」と回答した人の割合は、男性が51.3%、女性が39.4%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性では30歳代から50歳代で、女性で40歳代、60歳代及び70歳代で高くなっている。

【図2-9】男女、年齢階級別不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況



(集計対象:不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した2,677人)

(注)男性及び女性の「16～19歳」及び「20～29歳」については、回答者数が甚少のため、参考値。

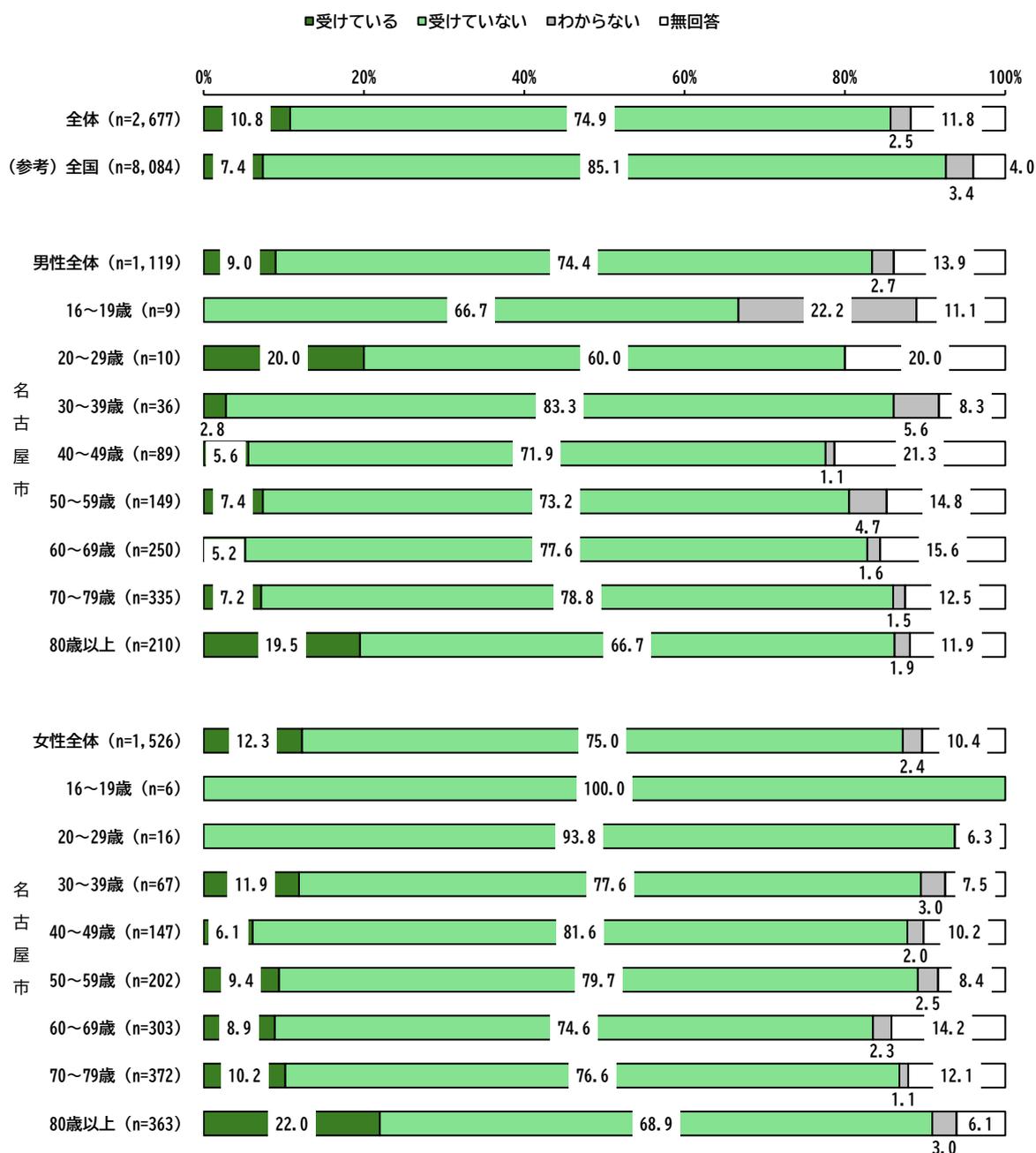
(8) 男女、年齢階級別不安や悩みに対する行政機関・NPO 等からの支援の状況（社会的サポート）

行政機関やNPO等の民間団体から不安や悩みに対する支援(対価を直接支払うものを除く。)を「受けている」と回答した人の割合は10.8%、「受けていない」は74.9%となっている。

全国調査と比較すると、「受けていない」の割合が低くなっている。

支援を「受けていない」と回答した人の割合は、男性が74.4%、女性が75.0%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性では30歳代、60歳代及び70歳代で、女性では40歳代及び50歳代で高くなっている。

【図2-10】男女、年齢階級別不安や悩みに対する行政機関・NPO等からの支援の状況

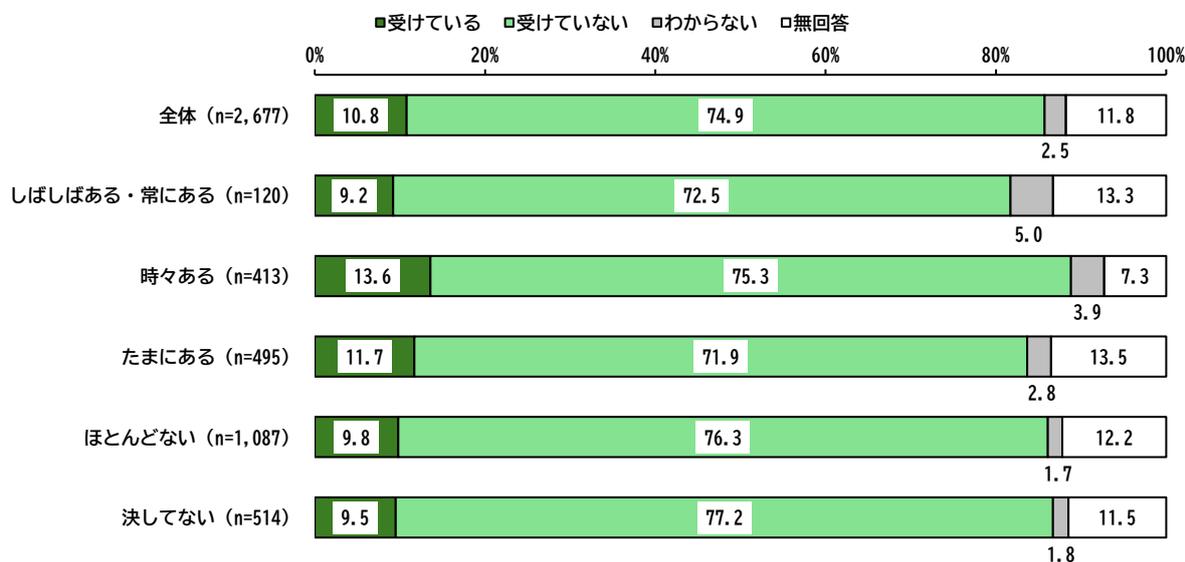


(集計対象: 不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した2,677人)

(注) 男性及び女性の「16~19歳」及び「20~29歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

(9) 孤独感(直接質問)別不安や悩みに対する行政機関・NPO 等からの支援の状況 (社会的サポート)
 行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した人の割合を孤独感(直接質問)別にみると、孤独感が「決してない」及び「ほとんどない」で高くなっている。

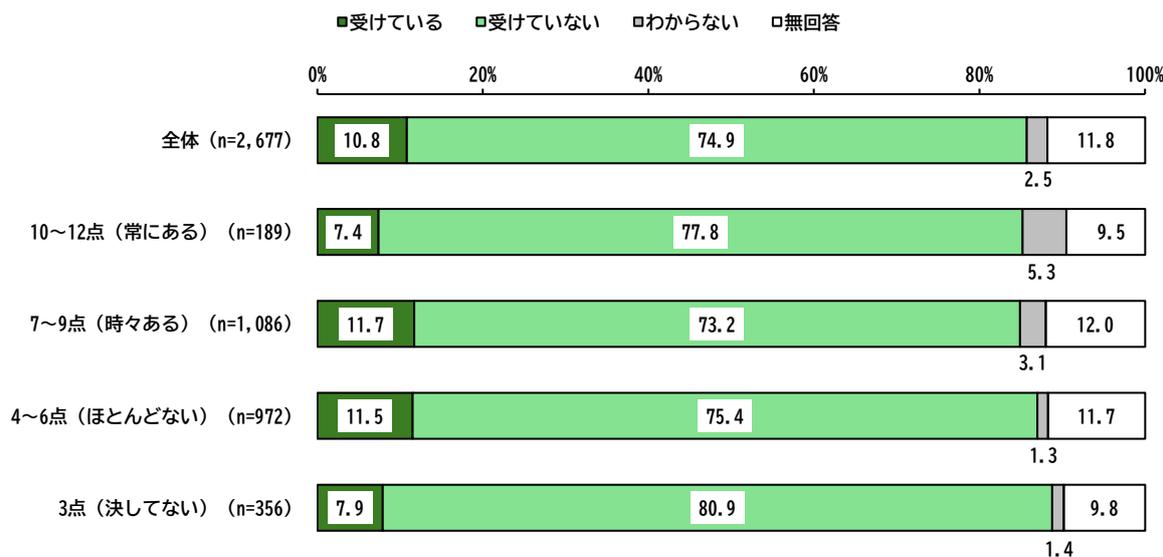
【図 2-11】 孤独感(直接質問) 別不安や悩みに対する行政機関・NPO 等からの支援の状況



(集計対象: 不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した 2,677 人)

(10) 孤独感(間接質問)別不安や悩みに対する行政機関・NPO 等からの支援の状況 (社会的サポート)
 行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した人の割合を孤独感(間接質問)別にみると、「3点(決してない)」で高くなっている。

【図 2-12】 孤独感(間接質問) 別不安や悩みに対する行政機関・NPO 等からの支援の状況

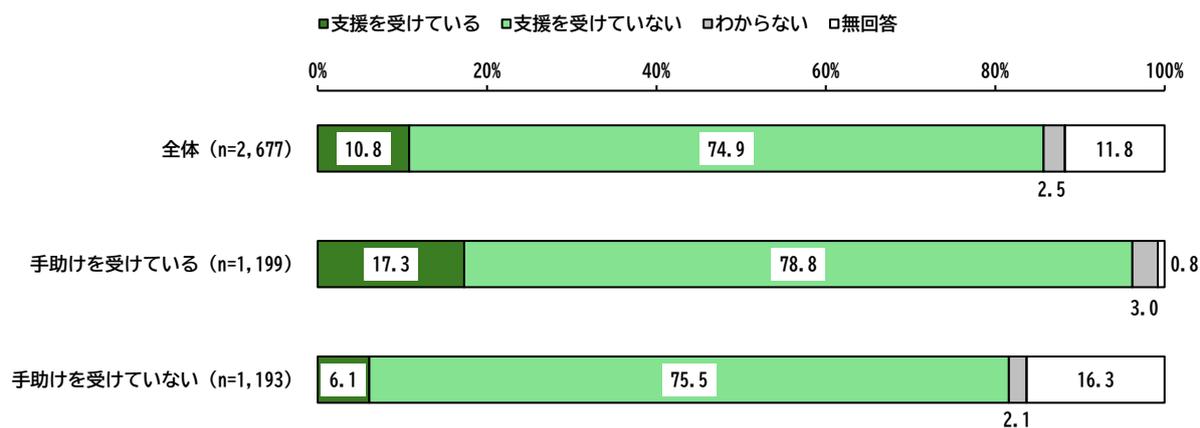


(集計対象: 不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した 2,677 人)

(11) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別行政機関・NPO 等からの支援の状況(社会的サポート)

行政機関や NPO 等の民間団体からの支援の状況を不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別にみると、行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した人の割合は家族・友人等からの手助けを「受けている」で 17.3%、手助けを「受けていない」では 6.1%となっている。

【図 2-13】不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別行政機関・NPO 等からの支援の状況



(集計対象:不安や悩みを感じていることが「ある」と回答した 2,677 人)

※以下、(12)～(15)については、日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」と回答し、かつ、行政機関やNPO等の民間団体から支援を「受けている」と回答した人を集計対象としている(P54 参照)。

(12) 孤独感(直接質問・間接質問)別支援を受けている人の支援者(社会的サポート)

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した人に対し、その支援者を尋ねたところ、「行政機関(国や自治体)」と回答した割合が53.8%と最も高くなっている。

全国調査と比較すると、「社会福祉協議会」の割合が特に低くなっている。

支援者を孤独感別にみると、間接質問による孤独感が「3点(決してない)」で「社会福祉協議会」が高くなっている。

【図2-14】孤独感(直接質問・間接質問)別支援を受けている人の支援者【複数回答】

(%)

		n	行政機関 (国や自治体)	社会福祉協議会	NPO等の民間団体・ボランティア団体	自治会・町内会	その他	無回答
名古屋市		290	53.8	10.7	4.8	3.1	11.7	26.9
(参考) 全国		601	54.6	27.0	9.2	4.3	16.6	5.0
直接質問	しばしばある・常にある	11	54.5	-	18.2	-	9.1	18.2
	時々ある	56	48.2	12.5	8.9	3.6	8.9	32.1
	たまにある	58	55.2	8.6	-	3.4	13.8	25.9
	ほとんどない	107	57.9	13.1	4.7	2.8	11.2	22.4
	決してない	49	49.0	8.2	4.1	4.1	12.2	34.7
間接質問	10～12点(常にある)	14	57.1	7.1	14.3	7.1	-	14.3
	7～9点(時々ある)	127	53.5	9.4	4.7	1.6	11.8	29.1
	4～6点(ほとんどない)	112	55.4	11.6	4.5	4.5	13.4	23.2
	3点(決してない)	28	50.0	17.9	3.6	-	7.1	39.3

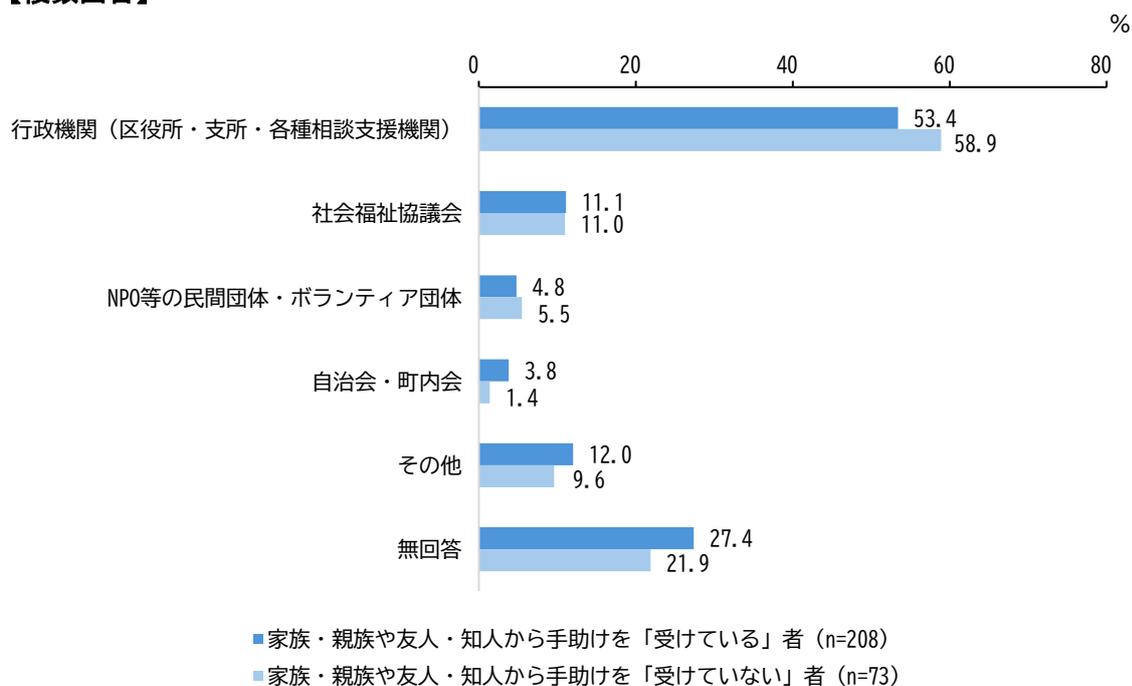
(集計対象:行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した290人)

(注)直接質問の「しばしばある・常にある」及び間接質問の「10～12点(常にある)」については、回答者数が些少のため、参考値。

(13) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別支援を受けている人の支援者（社会的サポート）

支援者を不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別にみると、手助けを「受けている」と回答した人と「受けていない」と回答した人とで、差異はみられない。

【図2-15】不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別支援を受けている人の支援者【複数回答】



（集計対象：行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した 290 人）

(14) 孤独感(直接質問・間接質問)別受けている支援内容(社会的サポート)

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した人に対し、その支援内容を尋ねたところ、「人的な支援(世話や介護)」と回答した割合が41.0%と最も高く、次いで、「相談支援(助言や情報提供等)」(37.9%)などとなっている。

「人的な支援(世話や介護)」と回答した割合は、全国調査と比較すると高くなっている。一方、「相談支援(助言や情報提供等)」と回答した割合は、全国調査と比較して低くなっている。

支援内容を孤独感別にみると、「現物提供等の支援(食料品・日用品の提供)」と回答した割合は、直接質問による孤独感が「決してない」で、「相談支援(助言や情報提供等)」と回答した割合は、間接質問による孤独感が「3点(決してない)」で高くなっている。

【図2-16】孤独感(直接質問・間接質問)別受けている支援内容【複数回答】

(%)

		n	経済的な支援 (給付や貸付等)	現物提供等の支援 (食料品・日用品の提供)	人的な支援 (世話や介護)	相談支援 (助言や情報提供等)	その他	無回答
名古屋市		290	23.1	3.1	41.0	37.9	8.6	7.6
(参考) 全国		601	21.1	4.2	31.9	51.6	9.7	7.2
直接質問	しばしばある・常にある	11	36.4	-	18.2	45.5	-	9.1
	時々ある	56	26.8	5.4	41.1	37.5	10.7	5.4
	たまにある	58	25.9	1.7	41.4	29.3	8.6	6.9
	ほとんどない	107	17.8	1.9	47.7	44.9	7.5	5.6
	決してない	49	24.5	6.1	32.7	36.7	8.2	12.2
間接質問	10~12点(常にある)	14	42.9	7.1	28.6	28.6	7.1	-
	7~9点(時々ある)	127	20.5	3.9	41.7	37.8	8.7	8.7
	4~6点(ほとんどない)	112	23.2	2.7	43.8	37.5	8.0	7.1
	3点(決してない)	28	17.9	-	42.9	50.0	10.7	3.6

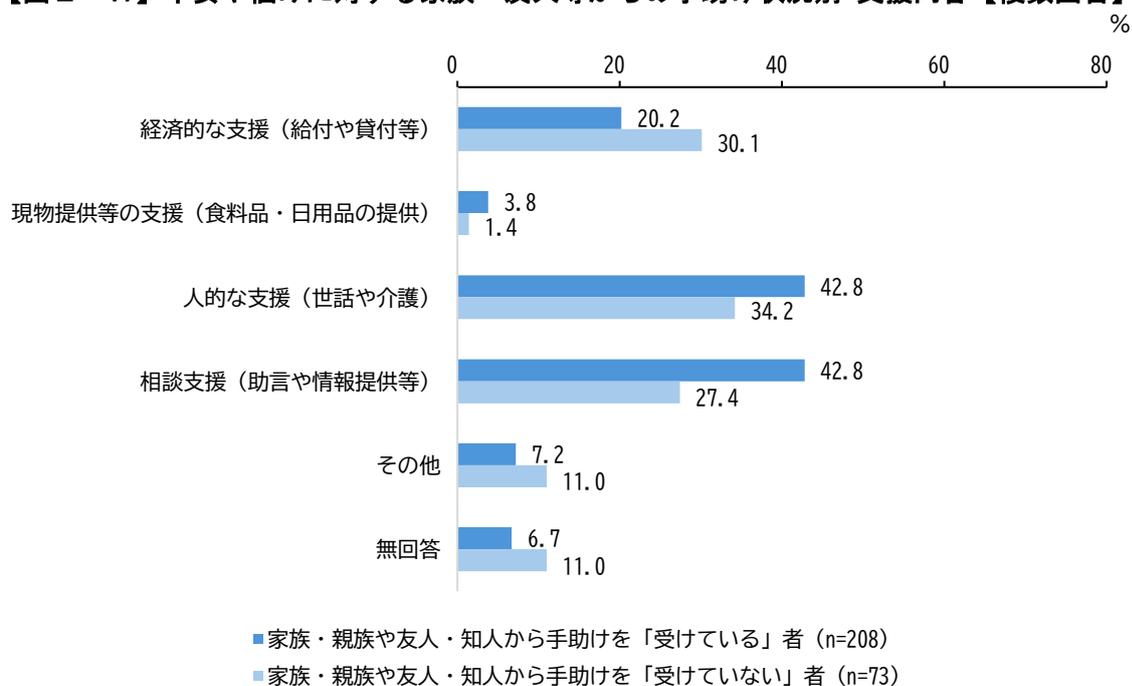
(集計対象:行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した290人)

(注)直接質問の「しばしばある・常にある」及び間接質問の「10~12点(常にある)」については、回答者数が甚少のため、参考値。

(15) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別支援内容(社会的サポート)

行政機関や NPO 等の民間団体からの支援内容を不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別にみると、「経済的な支援(給付や貸付等)」と回答した割合は手助けを「受けている」で 20.2%、「受けていない」で 30.1%となっている。一方、「相談支援(助言や情報提供等)」と回答した割合は、手助けを「受けている」で 42.8%、「受けていない」で 27.4%となっている。

【図 2-17】 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別 支援内容【複数回答】



(集計対象:行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した 290 人)

※以下、(16)及び(17)については、日常生活に不安や悩みを感じていることが「ある」と回答し、かつ、行政機関や NPO 等の民間団体から支援を「受けていない」と回答した人を集計対象としている(P54 参照)。

(16) 孤独感(直接質問・間接質問)別支援を受けていない理由(社会的サポート)

行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、「支援が必要ではないため」と回答した割合が 61.5%と最も高く、次いで、「どのような支援があるのか知らないため」(23.7%)、「支援の受け方がわからないため」(15.5%)などとなっている。

全国調査と比較すると、「どのような支援があるのか知らないため」と回答した人の割合は高くなっている。

支援を受けていない理由を孤独感別にみると、「支援が必要ではないため」と回答した人の割合は、直接質問による孤独感が「決してない」及び「ほとんどない」並びに間接質問による孤独感スコアが「3点(決してない)」及び「4～6点(ほとんどない)」で高くなっている。一方で、「どのような支援があるのか知らないため」と回答した人の割合は、直接質問による孤独感が「しばしばある・常にある」及び間接質問による孤独感スコアが「10～12点(常にある)」で高くなっている。

また、「支援の受け方がわからないため」と回答した人の割合は、直接質問による孤独感が「しばしばある・常にある」及び「時々ある」並びに間接質問による孤独感スコアが「10～12点(常にある)」で高くなっている。

なお、「支援が必要ではないため」と回答しなかった者についてみると、「どのような支援があるのか知らないため」が 41.7%と最も高く、次いで、「支援が必要だが、我慢できる程度であるため」(31.2%)、「支援の受け方がわからないため」(29.5%)などとなっている。

【図2-18】孤独感（直接質問・間接質問）別支援を受けていない理由【複数回答】

(%)

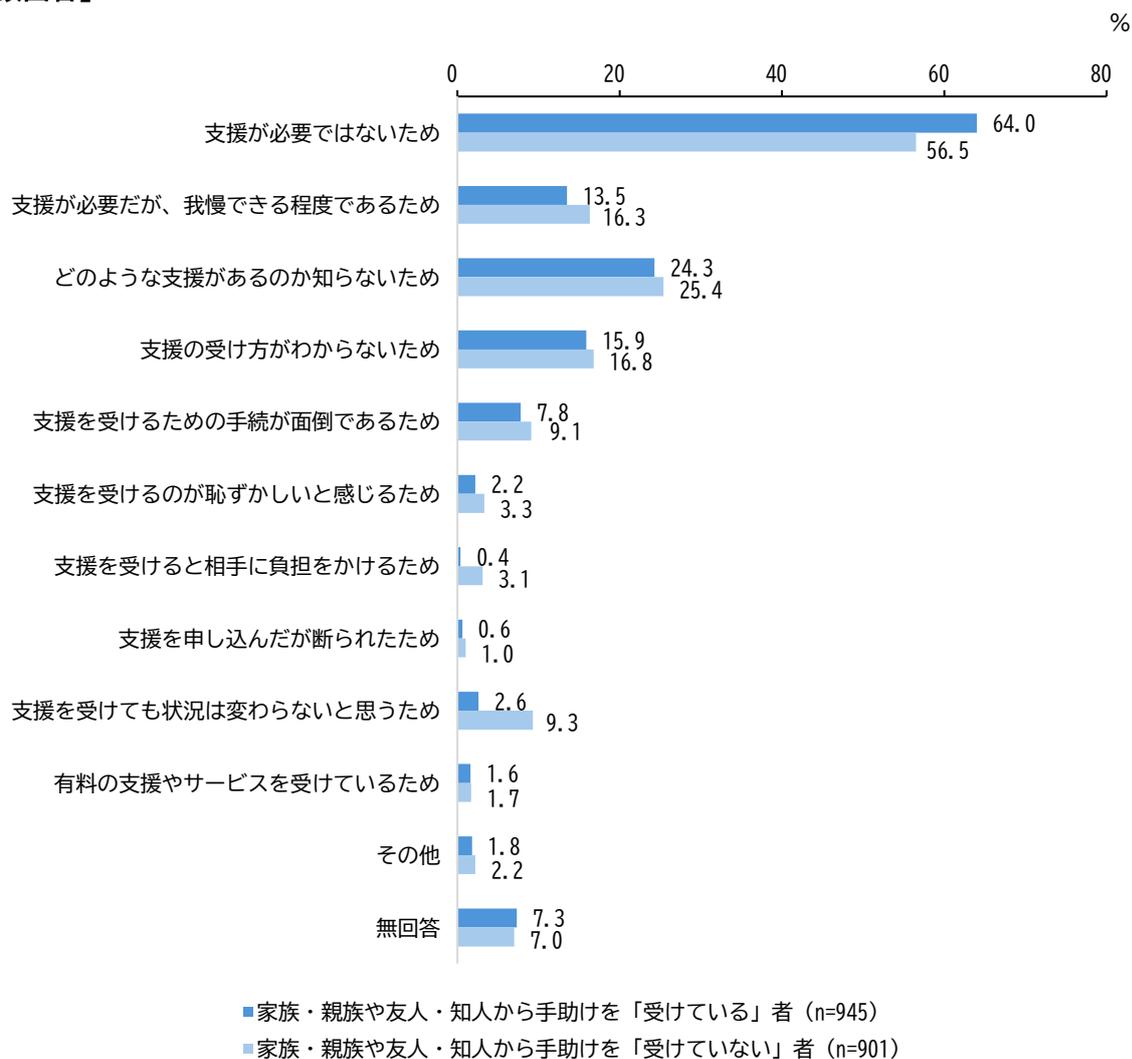
		n	支援が必要ではないため	支援が必要だが、我慢できる程度であるため	どのような支援があるのか知らないため	支援の受け方がわからないため	支援を受けるための手続が面倒であるため	支援を受けるのが恥ずかしいと感じるため	支援を受けると相手に負担をかけるため	支援を申し込んだが断られたため	支援を受けても状況は変わらないと思うため	有料の支援やサービスを受けているため	その他	無回答
名古屋市		2,006	61.5	14.6	23.7	15.5	7.9	2.6	1.7	0.7	5.7	1.8	2.1	7.0
(参考) 全国		6,883	62.6	15.2	19.7	18.4	10.3	3.9	2.2	0.8	8.7	1.4	2.8	2.9
直接質問	しばしばある・常にある	87	24.1	19.5	47.1	34.5	16.1	3.4	4.6	5.7	23.0	2.3	5.7	11.5
	時々ある	311	41.5	16.4	36.3	26.7	14.5	5.8	3.2	0.6	9.3	1.6	2.9	7.7
	たまにある	356	57.9	15.7	25.8	15.7	9.6	3.7	2.2	0.3	7.6	2.2	2.2	6.2
	ほとんどない	829	69.5	14.0	19.7	13.1	5.9	1.6	0.8	0.6	3.5	1.9	1.8	6.4
	決してない	397	73.6	12.1	14.6	7.1	3.5	1.3	1.3	0.3	2.3	1.3	1.5	5.8
間接質問	10~12点（常にある）	147	32.0	17.0	47.6	36.1	18.4	6.8	4.1	2.7	19.7	1.4	4.8	5.4
	7~9点（時々ある）	795	55.1	17.6	27.3	18.9	10.6	4.0	2.1	0.8	6.7	2.0	2.0	6.7
	4~6点（ほとんどない）	733	70.7	12.0	18.7	11.7	4.8	1.4	1.1	0.4	3.1	1.9	1.5	6.4
	3点（決してない）	288	72.9	12.2	14.9	6.3	3.8	0.3	0.7	0.7	2.4	1.4	2.4	7.6
「支援が必要ではないため」と回答しなかった者														
名古屋市		773	/	31.2	41.7	29.5	15.9	4.8	3.2	1.8	12.5	4.4	4.3	18.2
(参考) 全国		2,576	/	31.4	37.7	35.8	19.1	7.7	4.4	1.8	18.7	3.1	5.8	7.8

(集計対象: 行政機関・NPO 等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した 2,006 人)

(17) 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別支援を受けていない理由（社会的サポート）

行政機関や NPO 等の民間団体からの支援を受けていない理由を不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別にみると、「支援が必要ではないため」は手助けを「受けている」と回答した人で高くなっている。一方、「支援が必要ではないため」を除く他の理由では、手助けを「受けていない」と回答した人で高くなっている。

【図 2-19】不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別支援を受けていない理由【複数回答】



(集計対象:行政機関・NPO 等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した 2,006 人)

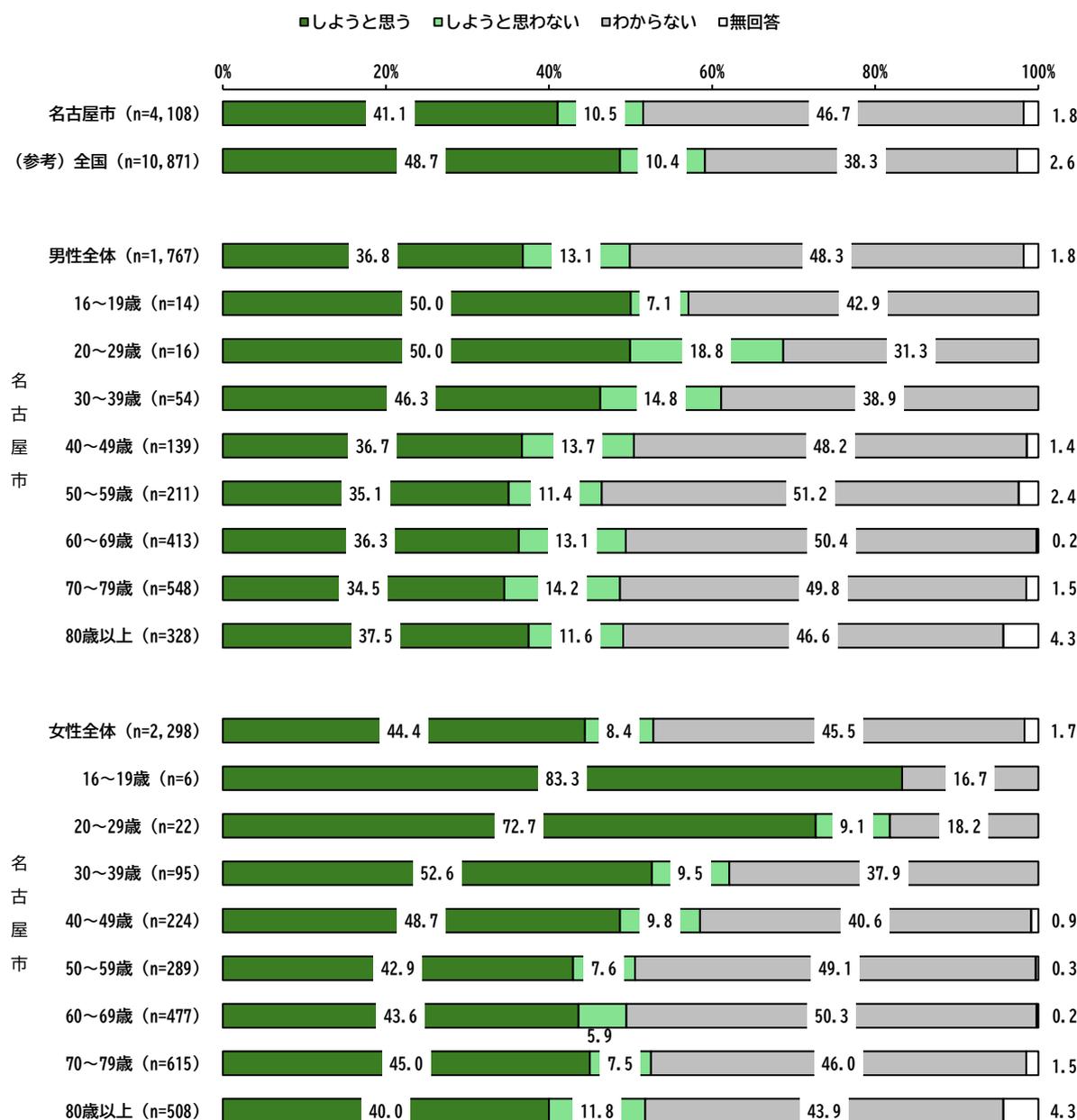
(18) 男女、年齢階級別他者へのサポート意識(社会的サポート)

他者への手助けを「しようと思う」と回答した人の割合は 41.1%、「しようと思わない」は 10.5%、「わからない」は 46.7%となっている。

手助けを「しようと思う」と回答した人の割合は、全国調査と比較すると低くなっている。

手助けを「しようと思う」と回答した人の割合は、男性が 36.8%、女性が 44.4%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性では 30 歳代で、女性では 20 歳代から 40 歳代で高くなっている。

【図 2-20】男女、年齢階級別他者へのサポート意識（名古屋市、全国）



(注) 男性及び女性の「16~19歳」及び男性の「20~29歳」については、回答者数が些少のため、参考値。

3 自由意見

孤独・孤立の問題に関して日頃お感じになっていることがあればご自由にお書きください。

具体的な記述内容は、以下の表のとおりである。(一部抜粋。原文ママ)

□考え方	
	・ ある程度、人間は孤独。
	・ 人と関わるのは好きだが、同じようにひとりの時間も大事。
	・ たまに自身が孤独感を感じ、生きる事の意味を問う。
	・ 生きがいがあればさほど孤独感はなくなると思う。
	・ 孤独・孤立になる原因は、社会的な背景、個々人のこれまでの他人とのかかわり方等、非常に多くあると思う。
	・ 孤独にはペットがいると元気になると思う。
	・ 何でも話せる友人が一人でも居ればいいのだと思う。
□孤独・孤立の経験	
	・ 病気になった時は孤独感を感じる。
	・ 転居で長らく住んでいた所から出て、中々親しい人が出来なくて淋しい思い。
	・ 夜になると、一人ぼっちが寂しい時がある。
	・ いくら配偶者がいても、意見が全くあわない時は反対された時孤独を感じる。
	・ 病気で仕事に行っていない時期は孤独を感じる事があった。職場へ復帰すると解消された。社会とのつながりがあるだけで孤独感ほうすれると思う。
	・ 自営業として 40 余年、明け暮れました。今までは仕事を通じて多くの人と接しましたが、それがなくなり、ふと寂しく感じることも時々あります。
	・ 夫と死別後息子夫婦と二世帯住宅とはいえ、ほとんど交流は無く孤独。
	・ 家族がいても自分の話を聞いてもらえなかったら孤独を感じる。
	・ 子育ては意外に孤独を感じる。
	・ 過去の介護経験から家族の介護をしている時に、他の誰も援助が無いと孤独を感じるようになると思う。
	・ 家族の介護をしていた時は強い孤独感孤立感をずっと感じていた。
	・ 会社の友人や居住する町内会、近所の人とのつながりが退職や転居する事によって切れてしまったり、疎遠になり、やがて孤独・孤立が広がっていく感じである。
□今後の不安	
	・ 子供が家を出て、配偶者が亡くなったら、孤独になるだろうと感じる。
	・ 今は車の運転をしているので自由にどこにでも行けるので楽しいですが運転ができなくなると買い物は不便になると思い孤立すると思います。
	・ 今後高齢で不自由になり、介護の事や急病等で孤独死が不安です。
	・ 今はまだ仕事をしているのであまり感じることはないが、50 代に入って定年後のことをたまに考えるようになった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は仕事を継続しているので、外出、人と会う機会は多く、孤独ではないが、退職した後は淋しく思う日々があるのではないかと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親が亡くなると確実に一人になります。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老後、1人で動けなくなった時、意志を伝えられなくなった時、誰に頼ればいいのか、誰がお世話してくれるのか不安です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今は夫婦で暮らしているので不安はないが、1人になったら困る、近くに知り合いもなく友人もないので不安です。
<input type="checkbox"/> コミュニティ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 何らかのコミュニティに参加が必要と感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティがないので、少し足を伸ばしてボランティア活動をしている。心穏やかにいられる居場所が、地域にあればいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のコミュニティがますます弱くなっており、孤立する人がいることすら分からない状況。隣近所の人同士が声掛けあえることが大切だと思う。地域の“おっせっかい役”をつくる仕組みがあればと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に寄れるコミュニティセンターの充実。(囲碁、将棋、カラオケ、絵画、俳句等)
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティセンターを活用して、気楽に参加できる企画があると良いですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独、孤立している人達のコミュニティがあれば参加したい。
<input type="checkbox"/> 気軽に話せる環境・人づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力と同じように小さい頃から自然なコミュニケーションの取り方を学ぶ必要があると感じます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わり合いが、どの立場においても負担にならないような場所、社会があれば良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 都会はどこでも孤独な面はありますが、慣れてしまっている所もあります。気軽に相談できる場所があればいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康について、無料で気軽に相談できる場所があると助かります。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と話す機会があまりない。自分が動けないからもあるが…。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所、空いている部屋、場所あるのでお金をかけずに人々が趣味で集まる場所を提供するぐらいで何人かの孤独の人は減らせると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤立している人が気軽に立ち寄れる場所が公であるといい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間・同じ境遇の人の接触がない。気楽に入退が出来る趣味の集まり、近所付き合いが無い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく人との会話を心がけて生活しようと思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に人との出会いを求めたり、人がいる場所(スーパーやショッピングモールなど)へ行けば自然に人との関わりはできる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃からコミュニケーションを積極的にとっている事で深刻な事態は回避できると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションを取りたいと思っても迷惑になると思い躊躇してしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ まったく知らない人同士、ちょっとしたよいこと、どここの公園の花が見頃だとか、どここの店がおいしいとか、お得とか、マウントもなくてたわいもないことを話す安全なコミュニティとかないかと思います。
<input type="checkbox"/> 支援・相談に関する情報の提供	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独・孤立の相談窓口がいつも相談できるところが(場所)わからない。
<input type="checkbox"/> 行政による支援	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族支援や老若男女問わない孤立防止の支援が大切だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動(自治会・町内会・老人会等)への積極的な参画、参加が必要と考える。また、こうした地域活動に対する行政支援。(特に補助金や助成金等の援助)

【参考】

孤立に関する指標（研究会における試案）

孤独・孤立の実態把握に関する研究会（人々のつながりに関する基礎調査（令和 6 年）を行った調査実施事務局が設置した研究会）では、孤立に関する指標について検討を行っている。本市においても、当研究会と同様の指標を用いて、本調査で把握している孤立に関する事項及び先行研究⁴における孤立の類型及び操作的定義を踏まえ、社会的交流及び社会的サポート（受領）からみた孤立について、指標化を検討した。

ア 社会的交流：家族や友人たちとのコミュニケーション頻度からみた孤立

本調査では、社会的交流に関して、家族や友人たちとのコミュニケーション頻度（問 16）を把握している。同居していない家族や友人たちとは手段別（3種）のコミュニケーション頻度、同居している人たちとは直接会って話す頻度について尋ねていることから、これらを合算した総合的なコミュニケーション頻度を求め、それが一定以下となっている者を、孤立状態にある可能性が高いと判定するものである。

具体的な算出手順は以下のとおり。

（ア）合計スコアの算出

1か月の平均が 4.3 週（365 日 ÷ 12 か月 ÷ 7 日）となることから、先行研究に倣い週 1 回 = 4.3 回とし、これを基準として、コミュニケーション頻度別の換算ウェイトを次のとおり定めた。

頻度	換算ウェイト	備考
全くない	0	
月 1 回未満	0.5	
月 1 回程度	1.0	
2 週間に 1 回程度	2.2	2 週に 1 回 → 週 0.5 回、 0.5×4.3
週 1 回程度	4.3	$365 \text{ 日} \div 12 \text{ か月} \div 7 \text{ 日} = 4.3$
週 2 ～ 3 回程度	10.8	週 2 ～ 3 回 → 週 2.5 回、 2.5×4.3
週 4 ～ 5 回以上	19.4	週 4 ～ 5 回 → 週 4.5 回、 4.5×4.3

問 16(1) ①直接会って話す、②電話（ビデオ通話含む）、③SNS や電子メール並びに問 16(2)のそれぞれについて、「全くない」を 0 点、「月 1 回未満」を 0.5 点、「月 1 回程度」を 1 点、「2 週間に 1 回程度」を 2.2 点、「週に 1 回程度」を 4.3 点、「週 2 ～ 3 回程度」を 10.8 点、「週 4 ～ 5 回以上」を 19.4 点としてスコア化し、合計した。

4 齊藤雅茂，近藤克則，他：健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討：10 年間の AGES コホートより，日本公衆衛生雑誌．62(3)：95-105，2015.

孤立指標と健康との関連については、以下の論文も参考とした。

Saito M, Aida J, et al. : Cross-national comparison of social isolation and all-cause mortality among older adults: A 10-year follow-up study in England and Japan. *Geriatrics and Gerontology International*, 21(2):209-214. 2021.

合計スコア = 問 16(1)①(直接会って話す)のスコア(換算ウェイト)
 + 問 16(1)②(電話)のスコア
 + 問 16(1)③(SNS や電子メールなど)のスコア
 + 問 16(2)のスコア

※ 問 16(2)は同居している人がいる場合のみ。問 16(1)①～③、問 16(2)のいずれかに回答がある場合は合計スコアを算出するが、問 16(1)①～③、問 16(2)の全てが無回答の場合は算出対象外とした。

(イ) 総合的なコミュニケーション頻度への換算

スコア合計値を基に、以下のとおり総合的なコミュニケーション頻度に換算し、家族や友人たちとのコミュニケーション頻度からみた孤立について検討した。先行研究における社会的孤立の操作的定義や本調査における質問内容などを踏まえ、交流頻度が「週に1回未満」となっている者(「2週間に1回程度」、「月1回程度」及び「月1回未満」のいずれかに該当する者)を、孤立状態にある可能性が高いと考えられる者とした(注)。

頻度	スコア合計値		備考
月1回未満	0 以上	1 未満	「全くない」を含む
月1回程度	1 以上	2 未満	月1回程度=2 未満
2週間に1回程度	2 以上	4.3 未満	
週1～2回未満	4.3 以上	8.6 未満	週1=4.3
週2～3回未満	8.6 以上	12.9 未満	週2=4.3×2
週3～4回未満	12.9 以上	17.2 未満	週3=4.3×3
週4～6回未満	17.2 以上	25.8 未満	週4=4.3×4
1日1回程度(週6～9回未満)	25.8 以上	38.7 未満	週6=4.3×6
毎日頻繁(週9回以上)	38.7 以上		週9=4.3×9

注) 先行研究では、「同居者以外との対面・非対面交流をあわせて週に1回未満という状態までがその後の要介護状態や認知症と関連し、月1回未満になると早期死亡とも密接に関連する交流の乏しさであることから、これらが社会的孤立の妥当な操作的定義であることが示唆された。」としている。

【家族や友人たちとのコミュニケーション頻度からみた算出結果】

総合的なコミュニケーション頻度が「週に1回未満」となる者の割合は 8.0%となっている。なお、参考までに、「週1回程度以下」となる者の割合をみると 12.3%となっている。

(上段：実数、下段：%)

全体	毎日頻繁(週9回以上)	1日1回程度(週6~9回未満)	週4~6回未満	週3~4回未満	週2~3回未満	週1~2回未満(週1回程度)	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満(全くないを含む)	週に1回未満	【参考】 週1回程度以下	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	8+9+10	7+8+9+10
	4,108	1,285	663	1,301	116	175	176	120	92	118	330	506
	100.0	31.3	16.1	31.7	2.8	4.3	4.3	2.9	2.2	2.9	8.0	12.3

参考：同居している人たちと直接会って話す頻度を除いた場合

4,108	517	452	700	255	391	488	491	357	332	1,180	1,668
100.0	12.6	11.0	17.0	6.2	9.5	11.9	12.0	8.7	8.1	28.7	40.6

参考：

先行研究では、同居していない者との接触頻度を用いる事例が多い。これに倣い、同居している人たちと直接会って話す頻度を除いた場合の合計スコアを算出し(注)、前記(イ)のとおり換算すると、コミュニケーション頻度が「週に1回未満」となる者の割合は 28.7%、「週1回程度以下」となる者の割合は 40.6%となる。

ただし、先行研究では交流相手に「近所の人」や「職場の人」などを含めるケースもあるのに対し、本調査では、交流相手を「家族や友人たち」としている点に留意が必要である。

注)この場合の合計スコアの算出式は以下のとおり。

$$\begin{aligned} \text{合計スコア} &= \text{問 16(1)①(直接会って話す)のスコア} \\ &+ \text{問 16(1)②(電話)のスコア} \\ &+ \text{問 16(1)③(SNS や電子メールなど)のスコア} \end{aligned}$$

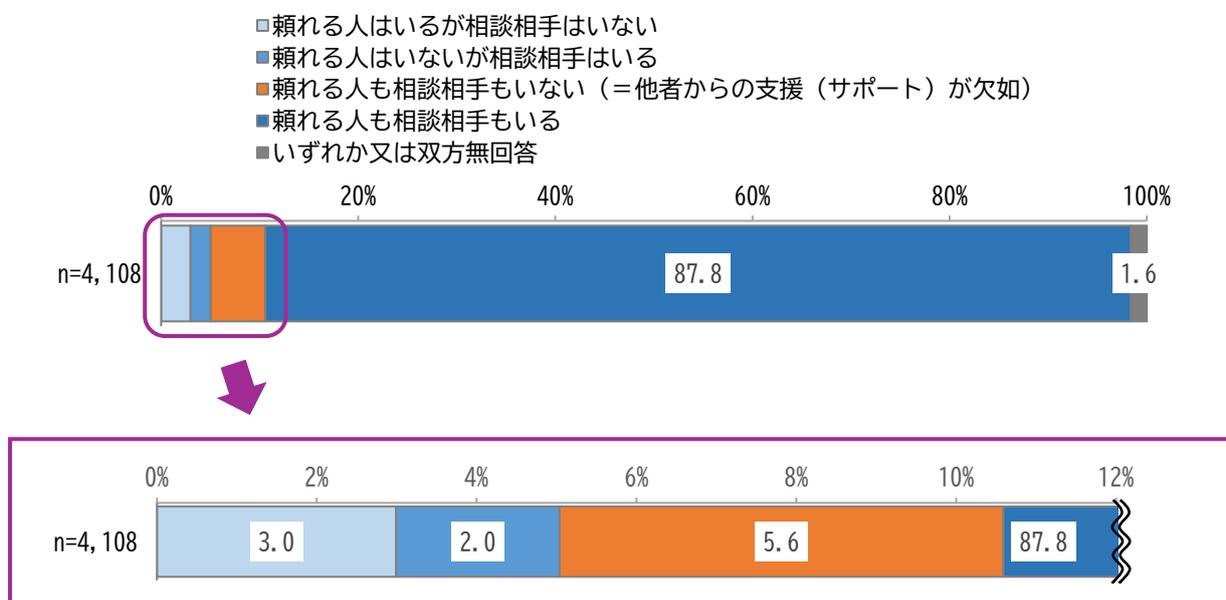
イ 社会的サポート（受領）：困った時に頼れる人の有無及び相談相手の有無からみた孤立

本調査では、孤独・孤立に関する事項の関連事項として、「困った時に頼れる人の有無(問 18)」や「不安や悩みの相談相手の有無(問 19)」を把握している。これらは他者からの支援(サポート)の受領状況を示しており、困った時に頼れる人及び相談相手の双方を持たない者を、孤立状態にある可能性が高いと判定するものである。

困った時に頼れる人の有無及び不安や悩みの相談相手の有無を以下のとおり組み合わせで集計し、「頼れる人も相談相手もない」に分類される者を、孤立状態にある可能性が高いと考えられる者とした。

【困った時に頼れる人の有無×不安や悩みの相談相手の有無に関する集計結果】

「頼れる人も相談相手もない」に該当した人は 228 人で、回答者(4,108 人)に占める割合は、5.6%となっている。



孤立状態にある可能性が高いと考えられる者の指標を属性別に分析すると次のとおりになっている。

	n	指標				
		家族や友人たちとのコミュニケーション頻度から測定した場合（週に1回未満）		他者からの支援の受領状況から測定した場合（頼れる人も相談相手もない）		
		名古屋市	（参考） 全国	名古屋市	（参考） 全国	
全体	4,108	8.0	5.8	5.6	5.7	
年齢	16～19歳	21	0.0	1.0	4.8	3.3
	20～29歳	38	0.0	6.1	2.6	4.8
	30～39歳	150	2.7	4.6	2.7	6.6
	40～49歳	366	3.0	3.9	7.9	6.4
	50～59歳	509	6.1	4.7	8.1	8.2
	60～69歳	892	7.8	5.7	6.7	5.8
	70～79歳	1,164	9.1	8.4	4.3	4.4
	80歳以上	838	11.1	8.2	3.9	3.2
	（再掲）20～64歳	1,466	5.3	4.6	7.2	6.7
	（再掲）65～74歳	1,036	8.3	7.7	4.9	4.7
（再掲）75歳以上	1,455	10.4	8.4	4.3	3.8	
男女	男性	1,767	10.5	7.5	8.9	8.1
	女性	2,298	6.2	4.3	2.8	3.4
性年齢	男性全体	1,767	10.5	7.5	8.9	8.1
	16～19歳	14	0.0	1.4	7.1	4.1
	20～29歳	16	0.0	7.3	6.3	6.3
	30～39歳	54	3.7	5.4	3.7	7.8
	40～49歳	139	3.6	6.0	13.7	10.0
	50～59歳	211	8.1	7.0	13.7	11.4
	60～69歳	413	11.4	7.2	9.9	8.3
	70～79歳	548	11.5	10.8	6.6	6.8
	80歳以上	328	13.7	8.1	7.3	4.6
	女性全体	2,298	6.2	4.3	2.8	3.4
	16～19歳	6	0.0	0.7	0.0	2.0
	20～29歳	22	0.0	4.7	0.0	3.0
	30～39歳	95	2.1	3.8	2.1	5.3
	40～49歳	224	2.7	2.1	4.5	3.0
	50～59歳	289	4.2	2.8	3.1	5.5
	60～69歳	477	4.8	4.0	3.6	3.4
	70～79歳	615	7.0	5.9	2.3	2.0
	80歳以上	508	9.4	8.3	1.8	2.1
配偶者の有無	未婚	589	17.5	11.5	14.6	10.2
	配偶者あり	2,551	4.0	2.4	3.5	4.0
	死別	658	11.2	9.5	2.6	3.2
	離別	270	17.4	14.5	11.9	10.8
同居人の有無	同居人がいる	3,261	3.7	2.2	4.4	4.9
	同居人がいない	810	25.2	25.6	10.0	9.9

	n	指標				
		家族や友人たちとのコミュニケーション頻度から測定した場合（週に1回未満）		他者からの支援の受領状況から測定した場合（頼れる人も相談相手もない）		
		名古屋市	（参考） 全国	名古屋市	（参考） 全国	
全体	4,108	8.0	5.8	5.6	5.7	
現在の仕事	正規の職員・従業員	681	3.7	5.8	5.3	7.4
	非正規の職員・従業員	759	7.5	4.0	6.7	4.6
	会社などの役員	185	2.7	1.8	5.4	2.7
	自営業主	304	4.6	3.7	6.6	7.9
	家族従業者・内職	82	2.4	2.6	0.0	2.1
	学生・生徒	24	0.0	1.2	0.0	3.7
	失業中	128	7.8	7.9	13.3	9.4
	無職	1,470	10.8	7.8	4.7	4.4
	その他	306	11.4	11.3	6.2	6.0
世帯の年間収入	100万円未満	334	17.7	11.4	8.7	7.7
	100～199万円	540	17.0	11.9	9.4	7.2
	200～299万円	718	9.3	7.5	5.3	6.0
	300～399万円	488	7.2	5.3	5.3	5.7
	400～499万円	329	5.2	4.3	5.2	6.0
	500～699万円	458	2.6	4.8	3.7	4.8
	700～999万円	377	2.4	2.7	4.8	4.3
	1,000～1,499万円	232	0.9	1.1	1.7	4.4
	1,500万円以上	135	3.0	0.7	5.9	2.4
経済的な暮らし向き	大変ゆとりがある	114	3.5	6.1	4.4	1.0
	ややゆとりがある	558	4.1	4.2	2.9	2.4
	普通	2,052	6.8	4.8	3.1	3.6
	やや苦しい	975	9.8	6.6	7.9	5.7
	大変苦しい	349	18.1	9.8	18.6	15.8
社会参加の状況	参加している	1,929	5.1	3.6	3.4	3.5
	特に参加していない	2,060	10.4	7.9	7.8	7.6
困った時に頼れる人の有無	いる	3,753	6.6	4.7	-	-
	いない	314	23.9	18.7	72.6	75.7
不安や悩みの相談相手の有無	いる	3,698	6.3	4.5	-	-
	いない	352	24.7	18.8	64.8	64.8
気軽に話せる相手の有無	いる	3,688	5.7	4.1	2.1	2.1
	いない	366	28.1	25.5	41.5	48.9
行政機関やNPO等からの支援の状況	受けている	290	13.8	7.3	5.5	4.2
	受けていない	2,006	7.6	5.9	6.6	6.4
心身の健康状態	よい	754	4.2	2.9	2.3	1.5
	まあよい	1,129	5.3	3.8	2.7	3.5
	ふつう	1,434	9.8	5.9	6.1	4.8
	あまりよくない	624	12.0	9.1	11.1	12.3
	よくない	124	13.7	11.8	17.7	17.5
現在の生活への満足度	満足している	684	4.1	2.6	2.0	1.2
	まあ満足している	1,975	6.3	3.8	2.5	2.2
	どちらともいえない	850	12.2	7.9	9.4	7.5
	やや不満である	392	10.7	9.2	9.2	11.2
	不満である	169	13.6	13.5	27.2	24.8
孤独感（直接質問）	しばしばある・常にある	132	25.8	21.2	33.3	32.5
	時々ある	486	13.2	9.2	13.2	11.4
	たまにある	628	10.5	6.5	7.6	5.6
	ほとんどない	1,831	6.5	3.8	2.8	2.6
	決してない	968	4.2	2.7	1.8	1.5
孤独感（間接質問）	10～12点（常にある）	221	19.9	16.1	27.1	29.3
	7～9点（時々ある）	1,454	10.0	7.2	7.8	6.9
	4～6点（ほとんどない）	1,690	5.9	3.7	2.4	2.1
	3点（決してない）	648	3.5	2.2	1.1	0.8